

第六次大野市総合計画評価報告書
(令和4年度施策)

令和5年9月
大野市

目 次

| 内容 | ページ |
|----------------------------|-----|
| I. 施策の評価方法 | 1 |
| II. 第六次大野市総合計画に基づく施策の評価結果 | 3 |
| (添付資料) | |
| 【資料1】施策評価シート(項目別) | 15 |
| 【資料2】第2期大野市総合戦略に基づく施策の実施状況 | 67 |
| 【資料3】外部委員一覧 | 80 |

I. 施策の評価方法

1 評価の目的

以下に掲げる目的を達成するため、施策の評価を行います。

(1)前期基本計画の推進

第六次大野市総合計画※が目指す将来像「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」の実現に向けて、前期基本計画を着実に推進します。

(2)経営資源の有効活用

経営資源（ヒト・モノ・カネ・時間・情報）の確保と有効活用による、効率的・効果的な行財政運営（経営）を図ります。

(3)市民ニーズに沿った施策展開

市民らによる外部評価を実施し、評価結果を公表するとともに、その意見を踏まえながら施策の改善や新たな立案を行い、市民ニーズに沿った施策を展開します。

※第六次大野市総合計画とは

令和3年度から令和12年度までの10年間の計画期間とし、まちづくりの目標と方向を明らかにした、市の最上位の計画です。前期基本計画は、この10年間のうち、令和3年度から令和7年度までの5年間における施策の基本的方向を示すものです。

2 評価の実施主体

大野市が主体となり、外部委員※の意見を取り入れて実施します。

※外部委員とは

(1) 大野市総合計画・総合戦略推進会議委員 21名

各界各層の団体等から選出された市民や学識経験者で構成し、第六次大野市総合計画及び第2期大野市総合戦略に基づく施策の実施状況及び効果の検証を行う会議組織

(2) 施策評価アドバイザー 1名

行政改革に関する知識を有する学識経験者

3 評価の対象

第六次大野市総合計画前期基本計画に掲げる24の項目を評価します。

評価基準日は令和4年度末時点とします。

4 評価の方法

(1)内部評価（施策評価）

市役所内部において、施策評価シート（全24シート）を用いて、施策の実施状況及び効果の検証を行い、評価結果をシートごとにA B C Dの4段階で示します。

(2) 外部評価

内部評価を踏まえて、外部委員が指定された施策評価シートについて意見を出し、評価結果をA B C Dの4段階で示します。

(3) 総合評価

内部と外部の評価に相違があった場合、推進会議会長及び施策評価アドバイザーの意見を参考にして、市が総合評価を決定します。

5 評価の経緯

- 5月上旬～6月下旬：内部評価（施策評価）
- 7月3日：第1回大野市総合計画・総合戦略推進会議（内部評価の報告）
- ～7月下旬：外部評価及び総合評価
- 8月～：施策の取り組み状況（評価をのぞく）を広報おおのに掲載
- 8月10日：第2回大野市総合計画・総合戦略推進会議（総合評価案の報告）
- 9月（予定）～：評価報告書を市ホームページに公開
：評価や意見を踏まえた施策の改善や立案

6 評価基準

施策評価シートごとの内部評価及び総合評価の評価基準を次のとおりとします。

評価基準

- A【順調】…実施した取り組みで十分な成果が得られている。
- B【概ね順調】…実施した取り組みで一定程度の成果が得られている。
- C【要改善】…実施した取り組みで一定程度の成果が得られておらず、取り組みの改善が必要。
- D【見直し】…実施した取り組みで全く成果が得られておらず、取り組みの抜本的見直しが必要。

7 その他

報告書には、第六次大野市総合計画前期基本計画に基づく施策の実施状況や効果検証の結果を示すとともに、第2期大野市総合戦略の視点からも施策の実施状況を示します。

Ⅱ. 第六次大野市総合計画に基づく施策の評価結果

1 評価結果一覧

- ・「オレンジ色」は令和7年度目標を達成したもの
- ・「コロナ」欄の「※」はコロナ禍の影響を受けたと考えられるもの

| 基本目標分野 | 項目 | 令和4年度 総合評価 | 【参考】令和3年度 総合評価 | 成果指標 | | | | | | |
|----------------|---------|---------------|--------------------|----------------------------|------------------|---------------------|------------------|------------------|------------------|----|
| | | | | 成果指標 | 令和元年度 現状 | 【参考】 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | コロナ | 令和7年度 目標 | 単位 |
| LIFE | 1 子育て | B | B | 出生率 | 4.9 | 4.7 | 4.7 | | 5.2 | % |
| | | | | 地域の子育て支援拠点となる施設の 延べ利用者数 | 25,835 | 13,078 | 12,162 | ※ | 22,820 | 人 |
| | 2 学び | B | B | 「学校が楽しい」と回答する児童生徒の 割合 | 小 94.0 中 89.0 | 小 94.5 中 91.9 | 小 91.7 中 92.9 | ※ | 小 95.5 中 91.5 | % |
| 子どもの生涯学習事業参加回数 | | | | 1.41 | 1.04 | 1.02 | ※ | 1.45 | 回 | |
| 健康福祉 | 3 健康・医療 | B | B | 特定健康診査対象者に対する受診者の割合 | 44.1 | 37.6 | 38.0(見込) | ※ | 60.0 | % |
| | | | | 特定保健指導対象者に対する指導修了者 の割合 | 29.8 | 14.6 | 18.5(見込) | ※ | 60.0 | % |
| | 4 地域福祉 | A | B | ボランティア登録者数 | 1,293 | 1,332 | 1,328 | ※ | 1,350 | 人 |
| | | | | 通いの場の設置数 | 83 | 94 | 95 | ※ | 90 | 箇所 |
| | | | | 要介護認定率 | 18.7 | 18.6 | 18.5 | | 19.4 以下 | % |
| | | | | 障害者相談支援センターの相談件数 | 3,001 | 2,731 | 2,440 | | 3,200 | 件 |
| 5 スポーツ | B | B | スポーツ指導者公認資格の新規取得者数 | 0 | 0 | 9 | | 40 (R3~7年度累計) | 人 | |
| | | | 市民1人当たりの体育施設利用回数 | 7.66 | 6.90 | 6.81 | ※ | 9.00 | 回 | |
| 地域経済 | 6 農業 | B | A | 担い手への集積率 | 67.9 | 73.2 | 74.6 | | 80.0 | % |
| | | | | 耕作放棄地の面積 | 3.0 | 3.9 | 2.5 | | 3.6 以下 | ha |
| | | | | 道の駅年間来場者数 | 0 | 75.4 | 63.5 | | 80 | 万人 |
| | 7 林業 | C | C | 林業作業士数 | 30 | 30 | 33 | | 35 | 人 |
| | | | | 森林間伐面積 | 118 | 106 | 93 | | 130 | ha |
| | 8 商工業 | B | B | 創業者数 | 0 | 0 | 1 | ※ | 10 (R3~7年度累計) | 件 |
| | | | | まちなかの観光入込客数 | 82.9 | 33.5 | 50.3 | ※ | 125.0 | 万人 |
| | 9 観光業 | B | B | 観光消費額 | 2,945 | 3,208 | 3,704 | ※ | 5,000 | 円 |
| | | | | 宿泊者数 | 86,100 | 70,700 | 67,300 | ※ | 130,000 | 人 |
| | | | | 観光入込客数 | 199 | 176 | 206 | ※ | 330 | 万人 |
| 道の駅年間来場者数(再掲) | | | | 0 | 75.4 | 63.5 | | 80 | 万人 | |
| 10 働く環境 | B | B | 国・県の働き方改革関係制度認定企業数 | 0 | 0 | 4 | ※ | 10 (R3~7年度累計) | 社 | |
| | | | 工場新設等に伴う雇用創出数 | 0 | 12 | 12 | | 50 (R3~7年度累計) | 人 | |

| 基本 目標 分野 | 項目 | 令和4年度 総合評価 | 【参考】令和3年度 総合評価 | 成果指標 | | | | | | |
|---------------------|----------------|---------------|-------------------|--------------------------------|-------------|---------------------|-----------------|-------------------|-------------------------|----|
| | | | | 成果指標 | 令和元年度 現状 | 【参考】 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | コロナ | 令和7年度 目標 | 単位 |
| くらし 環境 | 11 自然環境 ・ごみ | B | A | 水質基準を達成した河川の数(全11河川) | 11 | 11 | 10 ^注 | | 11 | 河川 |
| | | | | 1人1日当たりのごみの排出量 | 950 | 941 | 931 | | 929 | g |
| | | | | ごみの資源化率 | 21.9 | 23.0 | 20.8 | | 29.4 | % |
| | 12 水環境 | B | B | 保全目標水位に対する超過日数(過去10年の平均) | 45 | 54 | 50 | | 36 | 日 |
| | | | | 地下水質の水道法に定める飲料水 水質適合基準との適合率 | 97.5 | 97.5 | 100 | | 100 | % |
| | | | | 水洗化率 | 44.1 | 46.8 | 47.9 | | 52.4 | % |
| | 13 生活環境 | B | B | 住宅の耐震化率 | 71.9 | 74.7 | 75.7 | | 79.0 | % |
| | | | | 上水道有収率 | 70.0 | 66.4 | 69.3 | | 73.0 | % |
| | 14 消防・減災 | B | B | 消防水利の充足率 | 58.4 | 59.4 | 59.6 | | 65.0 | % |
| | | | | 防災メール登録者数 | 1,471 | 1,698 | 1,837 | | 3,000 | 人 |
| | | | | 普通救命講習の受講率 | 37.0 | 38.4 | 39.7 | | 40.0 | % |
| | 15 道路 | B | B | 補修橋梁数 | 0 | 9 | 12 | | 41 (R3~7年度累計) | 橋 |
| | | | | 消雪施設補修箇所数 | 0 | 3 | 4 | | 6 (R3~7年度累計) | 箇所 |
| | 16 公共交通 | B | C | 大野市内バスの年間乗客数 | 24,674 | 21,989 | 24,025 | ※ | 30,000 | 人 |
| | | | | 広域路線バスの年間乗客数 | 205,329 | 159,182 | 166,704 | ※ | 225,000 | 人 |
| | | | | JR 越美北線の年間乗客数 | 336,307 | 261,483 | 279,091 | ※ | 346,800 | 人 |
| 地域 づくり | 17 ひと・地域 | B | B | 公民館利用回数 | 3.61 | 3.36 | 3.22 | ※ | 3.66 | 回 |
| | | | | 図書館利用回数 | 2.98 | 2.63 | 2.84 | ※ | 3.2 | 回 |
| | | | | 検討会の開催 | 0 | 3 | 5 | | 9 | 地区 |
| | 18 防災力 ・防犯力 | B | B | 自主防災組織の活動 | 20.0 | 57 | 61 | | 100.0 | % |
| | | | | 総合防災マップ説明会の開催 | 2.0 | 7.1 | 22.7 | ※ | 100.0 | % |
| | | | | 刑法犯認知件数 | 77 | 69 | 72 | | 70 以下 | 件 |
| | | | | 存在する特定空家等の件数 | 16 | 15 | 17 | | 0 | 件 |
| | 19 文化芸術 | B | B | 公演などの参加人数の割合 | 37.5 | 4.4 | 18.7 | ※ | 45.0 | % |
| | | | | 博物館等における企画展や講座開催 | 3 | 9 | 9 | | 5 | 回 |
| | 20 移住定住 | B | B | 定住のための住宅取得等助成件数 | 0 | 13 | 33 | | 50 (R3~7年度累計) | 件 |
| 総人口に対する 20~40 代人口の割 | | | | 29.5 | 28.7 | 28.4 | | 29.5 | % | |
| 移住相談件数 | | | | 0 | 134 | 279 | ※ | 500 (R3~7年度累計) | 件 | |
| 行政 経営 | 21 情報共有 | B | B | 市ホームページアクセス件数 | 0 | 1,154,398 | 2,135,877 | | 5,530,000 (R3~7年度累計) | 件 |
| | 22 協働・連携 | B | B | 検討会の開催(再掲) | 0 | 3 | 5 | | 9 | 地区 |
| | | | | 姉妹都市などとの交流事業参加者数 | 0 | 0 | 0 | ※ | 1,300 (R3~7年度累計) | 人 |
| | 23 市民サービス | A | A | 電子申請が可能となった行政手続きの件数 | 33 | 113 | 114 | | 63 | 件 |
| | 24 行財政 | B | A | 財政調整基金残高 | 16.4 | 22.3 | 22.6 | | 20.0 | 億円 |
| 将来負担比率 | | | | 48.5 | 23.3 | 15.7 | | 45.5 | % | |

注…水質検査の市基準は国基準より高く設定しており、令和4年度の検査結果は市基準を下回ったものの、国基準を満たしていることから、環境への影響はない。

2 施策の実施状況及び意見の概要（項目別）

「こども」分野

①子育て（B評価）

保育所や認定こども園の見学が新型コロナウイルス感染症の影響で制限される中、入所の参考にしてもらうため、施設ごとの教育や保育方針、取組みの特徴などを紹介する動画を作成し、Youtube上に一般公開しました（県内初）。また、天候に関わらず子どもが遊び、子育て世代が交流できる環境の整備に向けて、「大野市屋内型子どもの遊び場整備事業基本計画（案）」を作成しました。

成果指標のうち、「出生率」は、令和7年度目標 5.2%に対して、令和4年度実績は、令和3年度と変わらず 4.7%となりました。

外部委員からは、「コロナ禍で保育園の行事などが見ることができない中、動画を配信したことはとても良いこと」、「屋内型子どもの遊び場の整備により、特に冬季の育児負担が減ることを願う」などの意見があり、保護者ニーズに応じた身近できめ細かい子育てサービスの提供や、子どもの心身の健やかな成長を支える子育て環境等の充実に向けた取組みが必要です。

②学び（B評価）

小中学生が地域の探究学習を通して、CMを制作し、「ふるさと福井CMコンテスト」で上庄小学校が優秀賞を、上庄中学校が奨励賞を受賞しました。また、「新開成中学校区」と「新陽明中学校区」ごとに中学校再編準備委員会を立ち上げ、それぞれに総務、PTA、学校運営、通学安全の4つの部会を設け、保護者、地域及び学校の代表者が協議を行いました。

成果指標のうち、「子どもの生涯学習事業参加回数」は、令和7年度目標 1.45回、令和3年度実績 1.04回に対して、令和4年度実績は 1.02回となり、新型コロナウイルス感染症第7波による関連事業の中止が影響し、前年度に比べて微減となりました。

外部委員からは、「子どもにさまざまな体験をさせてあげてほしい」、「大野が大好きな子ども達を育ててほしい」などの意見があり、ふるさとを思う心を育てる学習や体験の充実が必要です。

「健幸福祉」分野

③健康・医療（B評価）

歩いた活動量に応じてポイントを与える「おおのヘルスウォーキングプログラム」を行い、前年度からの継続参加者 661人に加え、新たに 969人が参加し、合わせて 1,630

人となりました。また、新型コロナワクチン接種では、県や医師会と連携し、市内 13 の医療機関で個別接種を行うとともに、接種会場を設けた集団接種を計 20 回行いました。

成果指標のうち、「特定健康診査対象者に対する受診者の割合」は、令和 7 年度目標値 60.0%、令和 3 年度実績 37.6%に対して、令和 4 年度実績は 38.0%（見込値）となり、受診勧奨などを実施した結果、前年度に比べて微増となったものの、コロナ禍以前の受診率までは回復していない状況です。

外部委員からは、「ヘルスウォーキングプログラムは高齢者だけでなく中間世代の参加が増えている」、「健康診断後の保健指導などのアフターフォローを有難く思う」などの意見があり、自主的に健康づくりに取り組むきっかけづくりと機運醸成に向けた取り組みや、生活習慣の改善を促す特定保健指導の実施が必要です。

④地域福祉（A 評価）

成年後見制度を必要とする人が安心して利用できるよう、市社会福祉協議会が設置する生活あんしんセンター「結はあと」を相談対応や広報活動の中心的な機関として、138 件の相談を受け付けました。また、住民主体の助け合いによる高齢者への生活支援を一層進めるため、下庄地区で住民向け勉強会を開催した結果、第 2 層協議体が設置され、市内の第 2 層協議体は計 7 つとなりました。

成果指標のうち、「65 歳以上の高齢者が月 1 回以上活動する通いの場の設置数」は、令和 7 年度目標 90 箇所、令和 3 年度実績 94 箇所に対して、令和 4 年度実績は 95 箇所となり、前年度に続き目標を達成しました。

外部委員からは、「誰もが住み慣れた地域で過ごすことができるよう中核機関を設置したことは良いこと」、「新たな地区に第 2 層協議体が設置されたことは良いことで、自らの地区を知る良い機会となる」などの意見があり、地域共生社会の実現に向けた取り組みや、高齢者が安心して生きがいを持って暮らせる支援が必要です。

⑤スポーツ（B 評価）

3 年ぶりに開催した「第 58 回越前大野名水マラソン」は、新型コロナウイルス感染症を踏まえて、参加者を県民に限定した「現地でのマラソン大会」と、場所、日時を問わず誰もが参加できる「オンラインマラソン」の 2 部構成で実施しました。また、サッカーやバスケットボール、軟式野球の 3 競技において、地域スポーツ団体に委託し、休日の部活動地域移行の実践研究に取り組みました。

成果指標のうち、「スポーツ指導者公認資格の新規取得者数」は、令和 7 年度目標 40 人（累計）、令和 3 年度実績 0 人に対して、令和 4 年度実績は 9 人（累計）となり、令和 4 年度に日本スポーツ協会等の公認資格取得を支援する補助制度を創設したことが数値に表れました。

外部委員からは、「スポーツに興味のない市民が参加しやすい体験イベントを増やして

ほしい」、「部活動の地域移行が進むにつれ、地域の指導体制の強化が必要となる」などの意見があり、市民の興味や関心、目的に応じた運動やスポーツの機会の提供や、部活動の地域移行を踏まえた指導者の育成が必要です。

「地域経済」分野

⑥農業（B評価）

そばの消費拡大を目的に3年ぶりに開催した「越前おおの新そばまつり」では、二日間で過去最高となる1万2,900杯を販売しました。また、国や県の補助金を活用し、スマート農業関連機械の整備を支援するとともに、道の駅やふるさと納税を利用して農林水産物の多様な販売活動を行いました。

成果指標のうち、「担い手への集積率」は、令和7年度目標80.0%、令和3年度実績73.2%に対して、令和4年度実績は74.6%となり、農地中間管理制度を活用した効率的な農地の集約や集積を行ったことにより、概ね順調に推移しました。

外部委員からは、「若者にとって農業が魅力的になるような事業展開を望む」、「労働力削減のためのスマート農業支援を望む」などの意見があり、地域農業を支える担い手への安定した農業経営のための支援や、スマート農業による次世代農業の促進が必要です。

⑦林業（C評価）

特用林産物のマイタケについて、紅葉まつりなどのイベントでの出店販売の効果により、株式会社昇竜での生産量は133.1トンとなり、前年度の122.8トンを上回りました。また、国産材を積極的に利用し、森林保全を進めるため、保育園やこども園などへ国産材で作られたおもちゃや大型遊具の導入を支援しました。

成果指標のうち、「森林間伐面積」は、令和7年度目標130ha、令和3年度実績106haに対して、令和4年度実績は93haとなり、これまで間伐施業を進めてきた結果、効率的に間伐施業が可能な山林が少なくなっていることなどから前年度よりも減少しました。

外部委員からは、「若手林業従事者増加のための就労支援策の強化が必要」、「スマート林業の普及のための支援が必要」などの意見があり、若者や女性などへの新規就業者研修に対する支援や、先進技術の活用により、山林のデータ化や山林境界の明確化を進め、林業の効率化を図ることが必要です。

⑧商工業（B評価）

「越前おおの産業ブランド力向上戦略」に基づき、事業者の稼ぐ力を応援するため、市内の専門家や商工会議所、市をメンバーとした「結の故郷ビジネスサポートチーム（結サポ）」を結成し、11回の相談会で延べ24件（8事業者）の相談を受け付けました。また、まちなかの集客と賑わい創出を目的に、七間楽市や七間ハロウィンなど商店街が行

うイベントの開催を支援しました。

成果指標のうち、「まちなかの観光入込客数」は、令和7年度目標125万人、令和3年度実績33.5万人に対して、令和4年度実績は50.3万人となり、コロナ禍の影響を受けたものの、いくつかのイベントの再開による集客効果により、前年度よりも増加しました。

外部委員からは、「結サポの相談対応は評価できる。アフターフォローがあると、さらに良い」、「観光事業には精力的に取り組んでおり、売上やPR効果などが見られる」などの意見があり、創業や事業継承など事業者の経営課題に対する支援や、店舗や商店街などの創意工夫によるにぎわいづくりの取組みへの支援が必要です。

⑨観光業（B評価）

星空の世界遺産と言われる「星空保護区」の認定を目指し、南六呂師区にある市有施設の屋外照明を光害対策型に交換しました。また、星空ツーリズムを進めるため、車内を暗くすると天井に星空が浮かび上がる「星空観光バス」を整備する事業者に補助しました。

成果指標のうち、「観光消費額」は、令和7年度目標5,000円、令和3年度実績3,208円に対して、令和4年度実績は3,704円となり、北陸最大級の道の駅「越前おおの 荒島の郷」に加え、市内の回遊性を高めるためのイベントやキャンペーンによる消費効果により、前年度よりも数値が増加しました。

外部委員からは、「星空保護区認定取得に向けた光害対策は大きく評価できる」、「明確なターゲット層に向けてコンテンツや交通手段、アクティビティ、情報発信手段が構築されている」などの意見があり、魅力ある地域資源を観光資源として活用するとともに、観光資源の情報を戦略的に発信することが必要です。

⑩働く環境（B評価）

誰もが働きやすい職場環境づくりを進めるため、働く人にやさしい企業を7社、子育て世代にやさしい企業5社を新たに認定し、公表しました。また、製造業を中心に誘致活動を行った大野市富田産業団地では、新たな企業の誘致には至らなかったものの、前年度に株式会社モンベルに売却した区画に物流センターが建設され、3月に操業しました。

成果指標のうち、「国・県の働き方改革関係制度認定企業」は、令和7年度目標10社（累計）、令和3年度実績0社に対して、令和4年度実績は4社（累計）となり、市の認定を取得した数社が次のステップである県の認定の取得したことが数値に表れました。

外部委員からは、「多世代に向けて働きやすい環境整備が進められている」、「富田産業団地への誘致強化による雇用確保に期待する」などの意見があり、働く人や子育て世代の地元定着につなげる職場環境づくりや、積極的な企業誘致活動が必要です。

「くらし環境」分野

⑪自然環境・ごみ（B評価）

2050年までに、市内のCO₂排出量実質ゼロの状態（カーボンニュートラル）を達成している望ましい姿を描き、脱炭素と地域課題の同時解決を図るための取組方針などを示した「大野市脱炭素ビジョン」を策定しました。また、落語や紙芝居を用いた小中学生への環境教育のほか、事業者と団体と連携し、省エネや光害を考えてもらう「ライトダウンイベント」や、食品ロス削減のための「フードドライブ」を行いました。

成果指標のうち、「1人1日当たりのごみの排出量」は、令和7年度目標929g、令和3年度実績941gに対して、令和4年度実績は931gと概ね順調に推移し、さまざまな取組みにより、市民のごみの減量化と資源化の意識が高まっているものと推測しています。

外部委員からは、「脱炭素の啓発活動やライトダウンイベントなど、参加者数に成果が得られていることは評価できる」、「親子で楽しめる教室、光害対策、余剰食品の福祉利用など、課題を広範囲に捉えた取組みが行われている」などの意見があり、市民や事業者などと連携した脱炭素ビジョンの推進が必要です。

⑫水環境（B評価）

健全な水循環に関する教育を行うとともに、水循環に関わる人材を育成するため、「越前おおの水のがっこう」で水に関する講座を小中学生などに対して開催しました。また、令和3年度の記録的な地下水位低下の対応等を踏まえ、地下水位の低下に応じて、関係者の必要となる対応及び水利用者が取るべき行動を示した「地下水位低下対応計画」を作成しました。

成果指標のうち、「地下水質の水道法に定める飲料水水質適合基準との適合率」は、令和7年度目標100%、令和3年度実績97.5%に対して、令和4年度実績は100%となり、目標を達成しました。

外部委員からは、「小中学生、大学生から一般市民まで、多段階で難易度別の教室・講座、研究連携が行われている」、「大野の飲用できる良質な水を維持して欲しい」などの意見があり、水文化や水環境の継承に向けた取組みや、地下水障害の防止と対策が必要です。

⑬生活環境（B評価）

市民、事業者、地域団体、行政による持続可能な都市づくり・地域づくりを推進するため、改訂委員会や都市計画審議会の協議を踏まえて、「都市マスタープラン」を改訂しました。また、公共下水道への加入促進を目的に、戸別訪問や下水道の日のパネル展示のほか、下水道接続に係る経費への補助を行いました。

成果指標のうち、「上水道有収率」は、令和7年度目標73.0%、令和3年度実績66.4%

に対して、令和4年度実績は69.3%となり、老朽管の更新や漏水修繕などを行った結果、前年度よりも増加しました。

外部委員からは、「景観に配慮しつつ、安全で快適な住環境整備のための支援がなされている」、「都市マスタープランの改訂、住宅の耐震改修や耐震診断及び耐震プラン作成など、具体的な成果も得られている」などの意見があり、安全で快適な住宅環境の整備や、改訂した都市マスタープランの着実な推進が必要です。

⑭消防・減災（B評価）

災害に備えた体制を整備するため、福祉避難所として活用する民間施設8か所に必要な資機材を配備し、当該民間施設で自主的な避難訓練が行われました。また、火災時の水利が乏しい地区の水利を確保するため、横枕、牛ヶ原（坂戸）、桜塚町に耐震性防火水槽をそれぞれ1基整備しました。

成果指標のうち、「普通救命講習の受講率」は、令和7年度目標40.0%、令和3年度実績38.4%に対して、令和4年度実績は39.7%となり、講習会の回数を増やしたことが受講者の増加につながり、前年度よりも数値が上昇しました。

外部委員からは、「福祉避難所への資機材整備や災害対応特殊救急自動車の更新など、具体的な成果が得られている」、「防災メール登録者数は微増ながら着実に増えている」などの意見があり、災害時の資機材や避難所の設備を整備するとともに、緊急時の情報伝達や消防・救急体制の充実を図ることが必要です。

⑮道路（B評価）

大野油坂道路の早期開通に向けて関係機関と連携し、国や県、県選出国會議員などに要望活動を行い、過去最高の431億円の予算確保につながりました。また、大野油坂道路の大野ICから勝原ICまでが開通しました。さらに、除雪事業者のオペレータ不足を解消するため、除雪機械の運転に必要な免許の取得及び技能講習の受講費用の一部を補助し、新たに5名がオペレータに登録しました。

成果指標のうち、「補修橋梁数」は、令和7年度目標41橋（累計）、令和3年度実績9橋に対して、令和4年度実績は12橋（累計）、となり、前年度に比べて微増となりました。

外部委員からは、「除雪オペレータ不足解消の方策として、免許取得の一部補助は評価できる」、「橋梁の補修数は目標値に対して進んでおらず、道路も含めて、利用状況や財政状況も踏まえた供用廃止も必要となるのではないか。」などの意見があり、除雪業務が維持できるよう除雪業者を支援することや、橋梁や道路舗装などの計画的な維持管理が必要です。

⑯公共交通（B評価）

JR越美北線の市民利用や、北陸新幹線金沢・敦賀開業を見据えた観光利用を促すため、

越美北線九頭竜湖駅と長良川鉄道北濃駅（岐阜県）間をバスでつないで両線に乗るツアーや、全線開通 50 周年を記念したタイムカプセルイベントを行いました。

成果指標のうち、「JR 越美北線の年間乗客数」は、令和 7 年度目標 346,800 人、令和 3 年度実績 261,483 人に対して、令和 4 年度実績は 279,091 人となり、コロナ禍による利用減少の影響を受けたものの、さまざまな利用促進の取組みによる効果から、前年度よりも増加しました。

外部委員からは、「公共交通利用促進に向け、助成金事業を積極的に取り組まれていることは評価できる」、「路線バスや観光バスは、実証実験やモニターツアー等将来を見据えて取り組まれている」などの意見があり、市民生活や健康、交通安全、観光など、さまざまな施策と連携した公共交通の活用が必要です。

「地域づくり」分野

⑦ひと・地域（B評価）

活力にあふれ住みやすい地域づくりを進めるため、若者による地域活動や名所史跡の保存活動、環境美化活動、屋根雪おろしなど、市内 9 地区の特色を生かした地域づくり事業 48 件を交付金により支援しました。また、幅広い世代の人に公民館へ来てもらえるよう、健康や食、文化、環境、デジタルなど多様な講座を企画・開催し、前年度に比べて約 2 割多い、延べ 12,594 人が参加しました。

成果指標のうち、「地域課題解決に向けた住民主体の検討会を開催した地区」は、令和 7 年度目標 9 地区、令和 3 年度実績 3 地区に対して、下庄地区と上庄地区の活動開始により、令和 4 年度実績は 5 地区となりました。

外部委員からは、「集落内世代交流の交付金利用実績がなかったとのことについて要件と実態の齟齬が生じていないか確認が必要」、「公民館では利用者が限定されないよう、幅広い世代に向けた事業の実施や PR をさらに進めてほしい」などの意見があり、地域の活性化や課題解決に加え住民の世代間交流などを進める取組みや、地域づくりや生涯学習の拠点として誰もが利用しやすい公民館運営が必要です。

⑩防災力・防犯力（B評価）

災害時に自ら避難することが困難な人の避難誘導や安否確認などを適切かつ迅速に行うため、国の新たな方針を踏まえ「大野市避難行動要支援者の避難支援プラン作成計画」を改定しました。また、女性消防団員のきめ細やかさを活かし、防火防災意識の高揚を図るため、女性消防団員が大野地区、下庄地区の高齢者宅 143 世帯で住宅防火診断を行いました。

成果指標のうち、「存在する特定空家等の件数」は、令和 7 年度目標 0 件、令和 3 年度実績 15 件に対して、令和 4 年度実績は、所有者への指導により 4 件の特定空家が解消し

たものの、令和4年度に新たに特定空家等を6件認定したことにより17件となり、前年度に比べて数値が増加しました。

外部委員からは、「防災強化に向けてさまざまな施策が活発に実施され、地域住民の意識が高まっている」、「空き家が古くなり過ぎないうちに対策が必要」などの意見があり、地域防災マップ作成や防災訓練などを通じた地域防災力の強化の取組みや、空き家の発生抑制と適正な管理指導に向けた取組みが必要です。

⑱文化・芸術（B評価）

市民や観光客に文化芸術に触れる機会を提供するため、COCONO アートプレイスで民間事業者のノウハウやアイデアを生かした企画展のほか、ワークショップ、小学生が絵画や音楽に親しめる演奏会など、さまざまな催しを開催しました。また、文化財の保存と活用を目的に作成した「文化財保存活用地域計画」が文化庁の認定を受けました。

成果指標のうち、「博物館等における企画展や講座開催数」は、令和7年度目標5回、令和3年度実績9回に対して、令和4年度実績も9回となり、歴史文化を多角的に発信するための企画展や、化石、地質、食文化などさまざまな分野の講座を開催し、前年度に続き目標を達成しました。

外部委員からは、「演奏会や企画展など、多世代が参加できる催し物が積極的に開催されており、参加者数も徐々に回復しつつある」、「文化遺産・自然遺産の保護活用並びに郷土の歴史や文化の魅力の発信については、十分な成果を挙げている」などの意見があり、文化芸術に触れる機会の拡大に向けた取組みや、文化財の保存と活用のための取組みが必要です。

⑳移住定住（B評価）

移住希望者の住まいを確保するため、空き家の家財道具の処分を支援する補助制度を創設し、15件の利用がありました。また、空き家情報バンクに過去最高となる26件を新たに登録し、総数98件のうち、15件が成約につながりました。さらに、大野市総合計画・総合戦略推進会議に設置された専門部会「移住定住部会」において、市内各団体選出の委員と市職員が移住定住策を検討し、提案等を報告書にまとめました。

成果指標のうち、「定住のための住宅取得及びリフォームに対する助成件数」は、令和7年度目標50件（累計）、令和3年度実績13件に対して、令和4年度実績は33件（累計）となり、概ね順調に推移しました。

外部委員からは、「移住者が長く定住してくれるようなサポートが必要である」、「移住受け入れの施策だけでなく、若年層の市外流出防止のための施策にも注力してほしい」などの意見があり、移住後のサポートとして地域住民との交流の場を提供するとともに、仕事、子育て、教育、市民生活など、さまざまなまちづくりと連携した定住促進のための施策が必要です。

「行政経営」分野

⑳情報共有（B評価）

広報おおのや市ホームページ、市公式 LINE、Youtube、新聞折り込みチラシなど、さまざまな情報発信手段を活用して広報活動を行いました。また、ふるさと納税において魅力的な返礼品の情報発信を強化し、寄附金額は過去最高の約 1 億 1,900 万円となりました。さらに、中部縦貫自動車道県内全線開通及び北陸新幹線金沢・敦賀間開業を見据え、四季毎の観光ポスターを制作したほか、観光商談会や個別訪問などにより県外の旅行会社に対して営業活動を行いました。

成果指標の「市ホームページアクセス件数」は、令和 7 年度目標 553 万件（累計）、令和 3 年度実績約 115 万件に対して、令和 4 年度実績は約 213 万件（累計）となり、新型コロナウイルス感染症関連の情報掲載が減ったことにより、前年度に比べて単年度のアクセス件数は減少したものの、目標に向けて概ね順調に推移しました。

外部委員からは、「タイムリーな話題や市民などが直接関係する内容をいかに早く情報公開するかが重要」、「市外在住者や企業の市に対する期待がふるさと納税の寄附金額に反映されている」などの意見があり、市民生活に役立つ情報を効果的かつ迅速に発信するための広報活動や、ふるさと納税やクラウドファンディングの活用による関係人口を拡大する取組みが必要です。

㉑協働・連携（B評価）

若者のアイデアを地域づくりに生かすため、前年度の「わたしが未来の市長プロジェクト」の提案の中から、「まいおおのフォトコンテストに越美北線からの眺め部門をつくる」「サイクルトレインを行う」「空き家を高校生の勉強場所として開放する」の 3 つのアイデアを市や関西大学の学生が具現化につなげました。また、市民に社会問題に興味を持ってもらおうと、関西大学が主体となって、まちなかの研究施設「横町スタジオ」で、ごみ問題や光害、空き家問題などをテーマとしたワークショップを開催しました。

成果指標のうち、「姉妹都市などとの交流事業参加者数」は、令和 7 年度目標 1,300 人（累計）に対して、令和 3 年度に続いて令和 4 年度も実績はなく、コロナ禍により市民団体が姉妹都市などとの交流事業を行わなかったことが影響しました。

外部委員からは、「市民協働の取組みが益々進むことを期待する」、「若年世代がまちづくりに関わる多様な仕掛けが用意されており、多世代交流に繋がることを期待される」などの意見があり、若者や女性など多様な層からのアイデアを生かした地域づくりの取組みや、市民、団体、企業など、多様な主体が連携した地域課題の解決の取組みが必要です。

㉒市民サービス（A評価）

市民の書く手間や書き間違いをなくし、手続きの時間短縮を図るため、職員が申請内容

を聞き取りながらタブレット端末に入力して受付を行う「書かない窓口」を導入しました。また、マイナンバーカードの普及促進に向けて、市役所内の特設窓口でマイナポイント第2弾の付与を支援するとともに、ショッピングセンターや商業施設で出張申請受付を行った結果、年度末の普及率は71.9%と国や県の数値を上回りました。

成果指標のうち、「電子申請が可能となった行政手続きの件数」は、令和7年度目標 63件（累計）、令和3年度実績 113件に対して、令和4年度実績は 114件（累計）となり、前年度と比べて微増となりました。

外部委員からは、「マイナンバーカードの出張申請受付や行政手続きのリモート窓口など、市民のライフスタイルに合わせたきめ細かいサービスが行われている」、「申請書類や各種手続きのワンストップ化、情報一元化が進められている」などの意見があり、マイナンバーカードの普及促進と利活用の取組みや、行政の効率化やサービス向上に向けた庁内の情報連携が必要です。

⑭行財政（B評価）

将来世代に過度な負担を残さないよう、市債発行額は前年度と比べ 9,170万円抑制し、10億 5,350万円となりました。また、高い倫理観を持ち、公平・公正に対応ができる職員を育成するため、全職員を対象に公務員倫理、情報セキュリティーなどの研修を実施し、参加者の延べ人数は、前年度の約 1.3 倍の 3,085 人となりました。

成果指標のうち、「財政調整基金残高」は、令和7年度目標 20.0 億円、令和3年度実績 22.3 億円に対して、令和4年度実績は 22.6 億円となり、前年度に続き目標を達成しました

外部委員からは、「計画的な財政運営が見て取れて評価できる」、「財政面でのメリットのみならず住民サービスの向上や優秀な人材確保に繋がることが期待される」などの意見があり、安定的な財政運営に加え、「市民に信頼され、ともに行動できる職員」としての意識改革や資質向上につながる人材育成が必要です。

【資料 1】

施策評価シート（項目別）

施策評価シート

No. 1

| | | | |
|------|-----------------------------------|---|----------|
| 評価課 | こども支援課 | | |
| 関係課 | 教育総務課、生涯学習・文化財保護課、福祉課、健康長寿課、産業政策課 | | |
| 基本目標 | こども | 未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち | |
| 項目 | 子育て | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 安心して結婚・出産・子育てができ、すべての子どもたちが夢を持って笑顔で健やかに育つまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|-----|---------------------------|-----|--|------|----|-----|
| 1-1 | 結婚から子育てまで切れ目のない支援体制を確立します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●新婚世帯に対し、結婚に伴う新居の住居費や引っ越し費用などのスタートアップに係る費用を支援した(4組に補助)。加えて、25歳以下の新婚世帯に対しては、結婚祝金を支給した。(9組に支給) ●国や県の優良企業認定制度の紹介を行うとともに、働く人にやさしい企業や子育て世代にやさしい企業の認定を推進し、令和4年度は働く人にやさしい企業7社、子育て世代にやさしい企業5社を新たに認定し、ホームページなどで情報発信を行った。 ●大野市に働く人が定着し、誰もが働きやすい環境づくりを促進するため、育児休業の代替職員の雇用や男性の育児休業取得の支援、働き方改革セミナーの開催などに取り組んだ。 | | ※ | |
| | | ② | ●地域ぐるみの子育てを応援するため、保育所、認定こども園、児童館の保護者会などが行う食育や世代間交流に係る活動費を支援した。(18件補助) | | ※ | ○ |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●産後の育児などに対する不安の解消につながるよう、出産を控えた妊婦とその家族を対象として産後の子育て支援の案内などを行う「プレママサポートデイ」を試行的に実施した。 ●妊娠・出産・子育て期を通した切れ目のない支援として、妊婦情報事前登録制度(103件登録)、乳児家庭全戸訪問(148件)、育児相談会(456件)、多胎妊産婦交流会(3回)を実施した。 ●きめ細かな子育て相談支援を行うため、出産・子育て応援給付金事業を開始し、妊産婦に対して妊娠の経過や心配事に関するアンケートを実施(回答者186人)するとともに、電話での相談や希望者には訪問面談(4件)を実施した。 | | ※ | |
| 1-2 | 保護者のニーズに応じた子育てサービスを提供します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●毎月開催する公立・民間合同連絡会(園長会)において、園児の安全確保や新型コロナウイルス感染症対策などに関する情報共有、注意喚起を行うとともに、児童虐待防止研修会への参加を要請するなど職員研修に関する情報を伝達した。併せて、保育士の人材確保に向けた処遇改善を実施した。 ●コロナ禍による園の見学が制限されるため、市内全保育所等(公立4施設、民間10施設)の特色や保育の様子を紹介する動画を作成し、新たな情報発信を行った。 | | | |
| | | ② | ●保護者の多様なニーズに対応するため、保育施設における延長保育や一時預かり、障害児保育や、医療機関における病児保育などの特別保育に取り組んだ。 | | ※ | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●第2子以降で満3歳未満の児童を在宅で育児する世帯に、県内で唯一所得制限を設けず手当を支給した。 ●産後12カ月までの子育てママパパに対して、一時預かりや家事援助、買い物代行などのサービスを提供した。(サービス対象者に対する利用実績は約6%) | ※ | ※ | |
| | | ④ | <ul style="list-style-type: none"> ●子ども医療費助成(窓口無料化)や保育料無料化(第2子以降)などの取り組みにより子育て世帯の経済的負担の軽減を図るとともに、大野ですくすく子育て応援パッケージや大野市公式LINEを活用して積極的に子育て支援情報を発信した。 ●保護者の経済的負担の軽減を図るため、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の就学援助費を支給した。 | | ※ | ○ |
| | | ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ●放課後における安全で安心な子どもの居場所を確保するため、市内5児童センターにおいて、放課後児童クラブを適切に運営した。新型コロナウイルス感染症対策を講じるため、児童センターにおける自由来館については、一部制限を加えた。また、夏休みに、放課後児童クラブ野外交渉会を実施し、冬休みには、放課後子ども教室との連携事業を実施した。 ●乾側、阪谷、富田、小山、上庄の5地区において、安全管理員に地域住民の協力を得て放課後子ども教室を実施・運営した。また、新たに、放課後子ども教室の令和5年度の加入申込みを原則オンライン化し、手続きの簡素化、事務の効率化を図るとともにペーパーレス化に取り組んだ。 | ※ | ※ | |
| 1-3 | サポートを必要とする子どもと家庭を支援します | ① | ●要保護児童やひとり親家庭に対する支援として、 家庭児童相談員、母子・父子自立支援員、社会福祉士に加え、新たに保健師を配置し、相談体制を強化した。 毎月、関係機関による実務者会議を開催し、要保護児童に対する支援状況の確認を行い、必要に応じて個別のケース会議を開催し、総合的な対応を行った。8月には大野市児童虐待防止研修会を開催した。 | | ※ | ○ |

| | | | | | |
|--------|-----|---|--|--|---|
| ※前頁の続き | | <ul style="list-style-type: none"> ●医療的ケア児のあかね保育園での受け入れ日数を前年度までの週3日間から週4日間に拡充した。 ●カフェを拠点として活動する団体に対して、子ども食堂実施に係る補助を行った。 ●保護者から発達相談の希望のあった児に対して2歳児健診(16件)を実施し、心理士等による発達検査や相談を行った。また、3歳児健診において発達等に気がかりのあった児に対して園巡回(延べ22回)を実施し、生活の様子や担任からの情報を基に、保護者への相談・支援を行った。 ●保健師等の専門職が妊娠届出時等に相談支援を行った。本人や家庭の状況からハイリスクと判断したケースについては、より早期からの支援を行い、育児不安や虐待予防に重点を置いた支援を行った。 ●障がいのある子どもや発達に気がかりのある子どもなど、個々の状態に対応した専門的な指導や、保育所等を訪問しての施設スタッフに対する技術的指導など、通所支援サービスを提供した。 | | | |
| その他 | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ●天候に関わらず楽しく遊び、子育て世代が交流できる場をまちなかに提供し、子どもの健全な育成及び安心して子育てができる環境の充実並びに中心市街地の活性化を図るため、庁内プロジェクトチームを設置し、整備場所の選定を行った。また、遊び場の改修に必要な遊具、機能や設備などの整備に取り組む上での方針を示す基本計画を作成するため、学識経験者や子どもの保護者代表等から構成される「大野市屋内型子どもの遊び場整備事業基本計画策定委員会」を設置し、大野市屋内型子どもの遊び場整備事業基本計画(案)を作成した。 | | | ○ |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|------------------------|--------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 出生率 | 人口1,000人に対する出生数の割合 | 4.9 | 4.7 | 4.7 | 5.2 | % | | ※ |
| 2 | 地域の子育て支援拠点となる施設の延べ利用者数 | 地域子育て支援センター、ちっく・たっく、園開放の延べ利用者数 | 25,835 | 13,078 | 12,162 | 22,820 | 人 | ※ | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|---|
| 1 | 出生率としては、前年度と同じ値になったが、人口が減少しており、令和4年の出生数は149人となり、過去最低であった令和3年(152人)を下回るものとなった。 |
| 2 | 市公式LINEなどのSNSを活用した情報発信にも積極的に取り組んでいるが、新型コロナウイルスへの感染防止対策を講じながらの事業展開を強いられており、利用者数が伸び悩んでいる。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

総合評価

- 子育てしやすいまちとして、分かりやすい情報発信に努めてほしい。
- コロナ禍で園の行事やこども連の様子など見る事が出来ない中、動画を配信した事はとても良いと思う。
- 子どもを産んで育てるための取組みは良いと思うが、若い人が結婚して子どもを持つことに不安があって、出生数が下がっているのではないかな。
- 大野市の子育て支援は大変充実していると思う。産前からの切れ目のない子育て支援はとても良い。
- 産後12ヶ月までの一時預かり、家事援助、買物代行のサービスについて、Instagramやマスコミの利用、保育園等からの情報提供など、若い世代に広く周知していただくと共に、必要な家庭があれば月齢に関わらず利用できるなど、対象者を拡充していただきたい。また、サービスを担う事業所や人材が積極的により良いサービスを提供したいと思えるように、研修や待遇を充実していただきたい。
- 屋内型子どもの遊び場の整備により、特に冬季の育児に対する負担感が減ることを願うが、併せて市内の公園の整備、遊具の充実もお願いしたい。
- 産科・小児科医療の一層の充実をお願いしたい。
- 取組みは全般に評価できる内容であるが、出生率に反映させる事はとても難しい事である。
- 地域の子育て支援拠点の利用者数は、コロナの5類移行により増えると思う。
- LINEによる情報発信は若い世代に有効である。
- 中学校再編後の空き校舎を宿泊施設(自炊やキャンプが体験できる施設)への改修等を検討してはどうか。

B

施策評価アドバイザーの意見

- 子どもの成長過程に応じた手厚い助成や育児負担軽減事業が実施されている。
- 多様な関係機関との連携により、複合的な生活課題への支援体制が整えられている。



◆放課後児童クラブ
夏休み野外交流会




◆Youtubeに掲載した
市内保育園の紹介動画



◆屋内型子どもの遊び場整備事業
基本計画策定委員会の会合

施策評価シート

No. 2

| | | | |
|------|--------------------|------------------------------------|---|
| 評価課 | 教育総務課 | | |
| 関係課 | 生涯学習・文化財保護課、こども支援課 | | |
| 基本目標 | こども | 未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち | |
| 項目 | 学び | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 子どもたちの確かな学力や夢に挑戦する力、ふるさとを愛する心を育むまち |  |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|-----|--------------------|-----|--|------|----|-----|
| 2-1 | 優しく賢くたくましい大野人を育てます | ① | ●児童生徒が地域の魅力を探求し、発信するための動画制作に取り組み、ふるさと福井CMコンテストにおいて 上庄小学校が小学校部門で優秀賞を、上庄中学校が中学校部門で奨励賞を受賞 した。その他、「福井ふるさと教育フェスタ」や「ふるさと学びの特別賞」に応募し受賞する学校もあり、ふるさと教育に対する意識が高まっている。 | | | ○ |
| | | ② | ●大野市学力状況調査の実施と、結果の分析や活用研修会を行うことで、授業の見直しや改善を図るとともに、市の学力状況を客観的な視点で把握した。 | | | |
| | | ③ | ●授業にICT機器を活用し、児童生徒の情報活用能力等を育成するため、全児童生徒及び全教員にタブレット端末を配布し、全教室に大型モニターを整備した。 | | | |
| | | ④ | ●安心して通える、確かな学力を育む「魅力ある学校づくり」の推進を目指して、年3回の担当者会議、「大野っ子」育成の集い、授業アドバイザーの各学校への派遣などを実施し、特色を生かした学校づくりと、不登校の未然防止及び魅力ある教職員の育成に向けて取り組んだ。 | | | |
| | | ⑤ | ●児童生徒の心のストレスを緩和する結の故郷教育相談員を10人、発達障害などを抱えた児童生徒を支援する結の故郷教育支援員を25人配置した。相談員や支援員に対して研修会を行い、専門性の向上につなげた。 ●要保護児童やひとり親家庭に対する支援として、家庭児童相談員、母子・父子自立支援員、社会福祉士に加え、新たに保健師を配置し、相談体制を強化した。毎月、関係機関による実務者会議を開催し、要保護児童に対する支援状況の確認を行い、必要に応じて個別のケース会議を開催し、総合的な対応を行った。8月には大野市児童虐待防止研修会を開催した。 | | | |
| | | ⑥ | ●青少年の安全確保と健全育成を目的に、各種機関、団体、地域と連携して、子どもの見守りや校区活動の支援を行った。新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、 青少年健全育成推進大会 を会場とオンライン配信のハイブリッド方式により、3年ぶりに開催した。 | ※ | | |
| | | ⑦ | ●家庭における子どもの健やかな成長を支援するため、親子ヨガ教室、親子野外レクリエーションなど、 家庭教育講座 を生涯学習センターや学校、公民館において開催し、年間で延べ414人の参加があった。 | | | |
| | | ⑧ | ●読書の楽しさを子どもたちに伝えるため、学校へ図書館司書や読みきかせボランティアを派遣し、ブックトークや絵本の読みきかせを行った。また、 6月より毎月小・中・高等学校へ図書館司書が選書した図書を届ける「おとしょちゃんのうきうきお届け便」を開始した。 | ※ | | |
| 2-2 | 児童生徒の教育環境を整えます | ① | ●幼小連絡協議会では園長と小学校長が、中高連絡会では中学校長と県立高校の校長が、それぞれ取り組みの成果や課題などを協議し、共通理解を深めた。 | | | ○ |
| | | ② | ● 中学校再編準備委員会を立ち上げ、総務・PTA・学校運営・通学安全の4つの部会を設け、再編に係る具体的な協議を行った。 下庄小学校、開成中学校、陽明中学校の施設改修では、児童生徒のより良い教育環境を整備するため、プロポーザル方式で設計者を決定し、児童生徒へのアンケートやワークショップを活用した意見を基に実施設計を行った。 | | | |

| | | | | | | |
|-----|-----------------------|---|--|--|---|---|
| 2-3 | 地域と学校が連携して子どもの育ちを支えます | ① | ●夏休み中の居場所づくりや他校の児童との交流や他地域の伝統文化等の体験を通して、児童の地域への愛着を深めるため、5つの公民館で「夏休みこどもチャレンジ教室」を延べ5回開催し、延べ96人の参加があった。 | | | |
| | | ② | ●放課後における安全で安心な子どもの居場所を確保するため、市内5児童センターにおいて、放課後児童クラブを適切に運営した。新型コロナウイルス感染症対策を講じるため、児童センターにおける自由来館については、一部制限を加えた。また、夏休みに、放課後児童クラブ野外交流会を実施し、冬休みには、放課後子ども教室との連携事業を実施した。(再掲) ●乾側、阪谷、富田、小山、上庄の5地区において、安全管理員に地域住民の協力を得て放課後子ども教室を実施・運営した。(再掲) ●新たに、放課後子ども教室の令和5年度の加入申込みを原則オンライン化し、手続きの簡素化、事務の効率化を図るとともにペーパーレス化に取り組んだ。(再掲) | | | ○ |
| | | ③ | ●登下校時の児童生徒の安全確保や危険個所の早期把握を図るため、見守りボランティアによる登下校の見守り活動を実施した。 | | | |
| | | ④ | ●ふるさとを知り、家庭や地域のきずなを深めるため、公民館で歴史講座や食文化継承講座の開催、ジュニアリーダー活動を行った。「結の故郷 小学生ふるさと芸能発表会」は新型コロナウイルス感染症の影響踏まえて中止とした。 | | | |
| その他 | その他 | ●児童生徒に文化芸術に興味を持ってもらうため、ヴァイオリニストの松谷由美氏が全小学校4年生に対して、ホルン奏者の長谷川陽一氏が全中学校1年生に対して音楽の授業を実施した。 | | | ○ | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|----------------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|----|------|----|
| 1 | 「学校が楽しい」と回答する児童生徒の割合 | 児童生徒アンケートで「学校が楽しい」と回答する児童生徒の割合 | 小94.0 中89.0 | 小94.5 中91.9 | 小91.7 中92.9 | 小95.5 中91.5 | % | ※ | |
| 2 | 子どもの生涯学習事業参加回数 | 18歳以下の子ども一人当たりの年間生涯学習事業参加回数(生涯学習センター、公民館、図書館主催) | 1.41 | 1.04 | 1.02 | 1.45 | 回 | ※ | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|---|
| 1 | コロナ禍で体験的な活動や、仲間と協働する場面が少なくなる傾向にあったが、自分たちの思いを反映させながら、工夫して教育活動を実施できたことに手ごたえを感じる中学生も多かった。子どもが主体となる教育活動を引き続き推進する。 |
| 2 | コロナ禍でも可能な限り子どもたちが参加できる取り組みに努めたが、子どもへの感染が拡大し、県の新型コロナウイルス感染症拡大特別警報等が長期間発令されたことによる事業中止があったため、実績は前年並みとなった。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- 子どもたちがさまざまな体験や学びができるようにしてほしい。
- 大野が大好きな子ども達を育てて欲しい。そうすれば、将来大野に戻って来ると思う。
- 児童に直接対応する教員の資質向上のための施策を充実されたい。
- 子どもの居場所づくりのため、郊外の小学校の横にも幼稚園の旧園舎などを利用した児童センターを設置し、放課後児童クラブと子ども教室の運営を統一したものにしていきたい。
- 教員の働き方改革など、生徒を受け入れる先生の心も身体も健康であって欲しいと願う。

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

- デジタル機器の整備が進むにつれ、コンテンツ開発やリテラシー向上のみならず、今後は教員側のマインドセット変革も課題となるのではないかと。



◆「学びを止めない」
コロナ禍でのオンライン授業



◆夏休み子どもチャレンジ



◆幼小連絡協議会

施策評価シート

No. 3

| | | | |
|------|------------------------|---|----------|
| 評価課 | 健康長寿課 | | |
| 関係課 | スポーツ推進課、市民生活・統計課、政策推進課 | | |
| 基本目標 | 健康福祉 | 健康で自分らしく暮らせるまち | |
| 項目 | 健康・医療 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 市民が、自ら健康づくりに取り組み、地域医療体制や感染症対策が整った環境で、健やかで幸せに暮らすまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 | |
|-----|---|-----|---|------|----|-----|---|
| 3-1 | 赤ちゃんからお年寄りまで、ライフステージに応じた切れ目のない健康づくりを支援します | ① | ●健康づくりに取り組む人が増えるよう、活動量に応じてポイントを付与する「おおのヘルスウォーキングプログラム」では、福井ユナイテッドによる正しい歩き方講座などを行い、前年度からの継続者661人に加え、新たに969人の募集をし、合わせて1,630人が参加した。 ●ラジオ体操による健康づくりを目的に、特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会を開催し、372人が参加した。また、同日に運動や食育による健康づくりを啓発するイベントとして、スポーツ・レクリエーション祭と健康・食守フェスタを同時開催した。 | | ※ | | |
| | | ② | ●市民の興味や関心、目的に応じた運動やスポーツの機会を提供するため、小学生向けにエクサイトウィークやスキー教室、一般向けに登山教室やSUPヨガ教室、高齢者向けにすわるピクス教室や自宅でする筋トレ教室など、多種多様な教室を開催し、年間延べ1,757人の参加があった。 | | | | |
| | | ③ | ●高齢者の健康づくりと介護予防を推進するため、「高齢者の保健事業と介護予防の一体化事業」を令和6年度から実施できるよう、後期高齢者の健康に関する現状や課題の整理、目標の設定を行い、県後期高齢者医療広域連合と協議し、事業に取り組むための体制整備や事業計画などを確認した。 | | | | ○ |
| | | ④ | ●高齢者のフレイル予防や継続的な健康づくりのため、地区老人クラブなどに対し、市民ボランティア(フレイルサポーター)によるフレイルチェック(2回)やフレイル予防講座(10回)などを実施した。 | | ※ | | |
| | | ⑤ | ●疾病の早期発見、早期治療に繋げるため、特定健診(※1)を実施した。受診率向上を図るため、未受診者に対し、過去の健診歴や疾病傾向等を記載したアドバイスシートを送付し、受診を勧めた。また、新規に国保に加入した方へ特定健診の受診券を送付した。 ●特定保健指導(※2)については、37人に実施し、併せて、糖尿病の疑いのある方37人に受診勧奨を行い、早期の治療を促した。 | | ※ | | |
| 3-2 | 地域医療体制の充実を図ります | ① | ●在宅医療サービスの内容や利用方法などについて情報共有を図るため、市内医療機関等の在宅医療サービスに関する情報冊子を作成し、関係機関に配布した。 | | | | |
| | | ② | ●公的医療機関として安定的な救急医療体制の確保に取り組み、休日急患診療所は、2,171人の受診、うち二次救急医療への転送が14件、三次救急医療への転送が1件、和泉診療所は、5,947人の受診、うち二次救急医療への転送が8件があった。 | | ※ | ○ | |
| | | ③ | ●65歳到達者や75歳到達者に対して、在宅療養やかかりつけ医普及啓発に関するパンフレットを配布した。(実績:1,050枚) ●かかりつけ医に関する啓発として、かかりつけ医の探し方やメリットなどを紹介する記事を広報おおの3月号に掲載した。 | | | | |
| 3-3 | 感染症などの予防や対策に取り組む体制を整えます | ① | ●新型コロナウイルス感染症に関する情報を対策本部会議などで共有するとともに、県や医師会と連携し、必要に応じて相談・協議を行い、迅速な対策を講じた。 | | ※ | | |
| | | ② | ●新型コロナウイルス感染症のワクチン接種については、県や医師会などと連携し、医療機関での個別接種(市内13医療機関)や集団接種(20回)を実施した。 | | ※ | ○ | |
| | | ③ | ●感染症の予防や対策に関する情報を、広報おおのや市ホームページ、市公式LINEを活用し、市民に迅速な情報提供や周知啓発を行った。 | | ※ | | |
| | その他 | その他 | ●予防接種法に基づく定期予防接種(11,230回)や風しんの追加的対策事業(抗体検査32回、予防接種12回)を実施し、乳幼児から高齢者までの感染症予防に繋げた。また、満1歳から中学3年生の子を持つ保護者に対して、任意インフルエンザ予防接種費用の一部を助成した。(1,348件) | | | ○ | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

※1特定健診:日本人の死亡原因の約6割を占める生活習慣病の予防のために、40歳から74歳までの方を対象に行う、メタボリックシンドロームに着目した健診。

※2特定保健指導:特定健診の結果から、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できる方に対して、専門スタッフ(保健師、管理栄養士など)が生活習慣を見直すサポートを行う。

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|-----------------------|-----------------------------------|-------------|-------------|--------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 特定健康診査対象者に対する受診者の割合 | 国民健康保険加入者で40～74歳の特定健康診査受診率 | 44.1 | 37.6 | 38.0 (見込) | 60.0 | % | ※ | ※ |
| 2 | 特定保健指導対象者に対する指導修了者の割合 | メタボリックシンドロームの該当者・予備群の人に対する保健指導実施率 | 29.8 | 14.6 | 18.5 (見込) | 60.0 | % | ※ | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

| (成果指標の検証) | |
|-----------|--|
| 1 | コロナ禍の影響により数値が低調となった。健診の受診勧奨等を実施した結果、コロナ禍前の受診率までは回復していないものの、令和3年度(37.6%)に比べ特定健康診査受診率が向上した。 |
| 2 | コロナ禍の影響により数値が低調となった。特定保健指導対象者に対して講座などを実施した結果、コロナ禍前の実施率までは回復していないものの、令和3年度(14.6%)に比べ特定保健指導実施率が向上した。 |

| | |
|--------------------|----------|
| ①②を踏まえた内部評価 | B |
|--------------------|----------|

| 総合計画・総合戦略推進会議委員の意見 | 総合評価 |
|--|----------|
| <ul style="list-style-type: none"> ●後期高齢者の健康に関する取り組みについては、広域連合と協議して取り組むとある。老人クラブとしてもその施策に積極的に取り組みたい。 ●ヘルスウォーキングプログラムは高齢の方だけでなく、中間世代の参加も増えている。歩くために外に人が多くいることは、その地域の元気度につながっていると思う。 ●医療機関でのコロナワクチン接種は高齢者や障がいのある人にとって良いものであった。 ●「フレイル予防」は高齢者等のサロンでも人気であり、予防の大切さを伝える良いものである。 ●健康診断後の保健指導などのアフターフォローは有難く思う。 ●ヘルスウォーキングプログラムは沢山の方が参加し、健康に対して意識が高まったと思う。 ●色々な行事も通常にもどり、身体を動かす機会が増え健康診断の結果に反映される事を期待する。 ●コロナワクチンの個別接種の対応は早く良かった。 ●健康で長生き出来る人生が送れるように、体を動かすイベントを増やして欲しい。 ●交通が不便な地区の高齢者のための在宅医療や移動支援などをさらに充実していただきたい。 | B |
| 施策評価アドバイザーの意見 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●年齢層や体カレベルに合わせた多様な健康プログラム/教室や、食も含めたイベント等が開催されている。 | |



◆おおのヘルスウォーキングプログラム(福井ユナイテッド)



◆フレイル予防講座



◆在宅療養パンフレット

施策評価シート

No. 4

| | | | |
|------|------------------------------|---|----------|
| 評価課 | 福祉課 | | |
| 関係課 | 健康長寿課、交通住宅まちづくり課、産業政策課、地域文化課 | | |
| 基本目標 | 健幸福祉 | 健幸で自分らしく暮らせるまち | |
| 項目 | 地域福祉 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 市民が、お互いに人格と個性を尊重し、支え合い、助け合い、住み慣れた地域で安心して暮らすまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|-----|-----------------------------|-----|---|------|----|-----|
| 4-1 | 地域共生社会の実現に向けて取り組みます | ① | ●ボランティアの交流や情報交換を促して活動しやすくなるよう、社会福祉協議会の「ボランティアセンター」の運営を費用面で支援した。(ボランティア登録者数:1,328人) ●ボランティアの育成のため、社会福祉協議会が小中学校で実施した福祉教育(手話や車いす体験など)の取り組みに対して費用面で支援した。(11校で実施) | ※ | ※ | ○ |
| | | ② | ●地域福祉活動の活性化を図るため、地区民生委員児童委員協議会の例会開催や各種研修活動、福祉関連事業への参加など、民生委員・児童委員や他団体、関係機関との情報共有、連携の強化を支援した。(研修活動:市民児協 7回、地区民児協 5地区11回)(関係機関との連携:情報交換会・懇談会 5地区8回) | ※ | | |
| | | ③ | ●家族関係や債務整理など、多様化する生活上の困りごとについての相談に対応するため、弁護士による無料法律相談を提供した。(年24回開催 相談者131人) ●ストレスを抱えている人やその家族に対し、専門職による無料相談を提供した。(年12回開催、相談者9人) | | | |
| | | ④ | ●生活課題を抱えた人を地域で支える体制をつくるため、自立相談支援センター「ふらっと」において、ひきこもりや生活困窮者などの課題を把握し、個人の状態に合った支援計画を策定し、関係事業と連携した相談支援を行った。(新規相談44件、継続62件、計106件、うち71件終結) | | | |
| | | ⑤ | ●地域課題の解決に繋げるための包括的な支援体制を整備するため、各地区社会福祉協議会、福祉委員等の地域福祉活動を支援した。(地区社協イベント:14回開催、427人参加、地区社協研修会:8回開催、155人参加) | | | |
| | | ⑥ | ●成年後見制度を必要とする方が安心して利用できるよう、地域連携ネットワークの核となる「中核機関」を市社会福祉協議会に委託し、運営を開始した。(広報講演会1回開催・123名参加、相談件数138件、顧問弁護士相談19件、申立件数1件、申立支援件数5件) | | | |
| 4-2 | 高齢者が安心して生きがいを持って暮らせるよう支援します | ① | ●認知症の介護を必要とする高齢者の現状を踏まえ、第8期介護保険事業計画に即して令和4年度に認知症グループホーム1件の施設整備を行った。 | | | ◎ |
| | | ② | ●住民主体の助け合い・支え合いの地域づくりに向けた話し合いの場である「第2層協議体(公民館単位)」を設置するため、 下庄地区で住民勉強会を開催した。この結果、第2層協議体が設置され、既設6つと合わせて計7つとなった。 ●既設の協議体において、住民の困りごと・地域課題の把握のためのアンケートを行ったほか、互助による生活支援、住民主体の通いの場のモデル事業を開始した。(実績:生活支援モデル事業1箇所、通いの場モデル事業2箇所) ●広報おおのに協議体メンバーの活動状況などを特集記事として掲載し、市民へ協議体の周知を図るとともに、メンバーの活動意欲の向上につなげた。 ●阪谷地区において座談会や勉強会、アンケート調査、住民へのヒアリングを先行的に実施した。特に地域の支え合いによる移動支援に関心の高かった柿ヶ嶋区において、地域住民が運転を担う助け合いによる移動支援を14日間、試験的に実施した。 ●大野地区が地区地域課題解決検討会において地域課題の把握及び解決に向けたまちウォークやフォーラムを、阪谷地区では3回の座談会を開催した。地域の互助による屋根雪下ろし支援事業は、34集落が実施した。 ●移動支援のため、タクシー利用助成券の配布対象を同居家族の有無に関わりなく、自動車運転免許証を有しない全ての高齢者(65歳以上)に拡充した。(実績:配布者数345人、助成券利用枚数1,064枚) | | ※ | |
| | | ③ | ●高齢者が身近な場所で交流や活動ができる場を増やすため、従来の高齢者ふれあいサロンの活動に加え、乾側地区において第2層協議体メンバーが中心となり、新たな形で住民主体の通いの場モデル事業を実施した。(実績:新たな形の通いの場2箇所) ●大野市シルバー人材センターの活動を支援し、高齢者が生き生きと自分らしく働く場の確保に繋げた。 | | ※ | |
| | | ④ | ●医療と介護の連携を推進するため、在宅医療コーディネーターを1人配置し、市民や医療機関等からの相談対応を行った。 ●ACP(人生会議)をテーマとした講演会やミニ出前講座を実施し、在宅医療と介護の連携についての普及啓発を行った。(実績:講演会1回、ミニ出前講座13回) | | | |

| | | | | | | |
|-----|---------------------------------|---|---|--|--|---|
| 4-3 | 障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援します | ① | ●障害者相談支援センターで障がいの相談に対応し、障がいの特性や状態に応じた福祉サービスへつなげるなどの支援を行った。(相談件数2,440件) ●障がいのある人が地域で自立した生活を営むための支援を行った。(計画相談支援1,121件、介護給付3,692件、訓練等給付2,715件、日中一時支援1,771回) ●身体・知的障害者相談員を設置し、障がいのある人や保護者等からの相談に応じて、必要な助言、支援を行った。(相談員配置:身体6人、知的3人、相談件数:身体6件、知的1件) | | | |
| | | ② | ●障がいのある人が、地域で自立した生活を営むことができるよう、屋外での移動が困難な障がいがある人について、外出のための支援を行った。(個別支援型:実利用数56人、延利用時間98時間、車両移送型:延利用数451人、延利用時間465時間) | | | ○ |
| | | ③ | ●障がいや虐待防止に対する市民の理解を促すため、小中学校での福祉体験教室、障害者就労支援施設への優先発注、障害者虐待防止ネットワークの活動に取り組んだ。(福祉体験教室:市内11校 優先発注:15件、障がい者虐待報告件数6件) | | | |
| | | ④ | ●児童デイサービスセンターにおいて、心身の発達に支援を必要とする児童に対し、日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練を行った。(延利用者1,024人)また、保育所等における気がかりのある子については、保育所等を巡回して発達相談を行った。(対応児童94人) | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|------------------|--------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | ボランティア登録者数 | ボランティアの登録者数 | 1,293 | 1,332 | 1,328 | 1,350 | 人 | ※ | |
| 2 | 通いの場の設置数 | 65歳以上の高齢者が月1回以上活動実績がある通いの場の設置数 | 83 | 94 | 95 | 90 | 箇所 | ※ | |
| 3 | 要介護認定率 | 大野市における要介護認定率 | 18.7 | 18.6 | 18.5 | 19.4以下 | % | | ※ |
| 4 | 障害者相談支援センターの相談件数 | 福祉サービスの利用支援などの年間相談件数 | 3,001 | 2,731 | 2,440 | 3,200 | 件 | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

| (成果指標の検証) | |
|-----------|---|
| 1 | コロナ禍でイベントが中止や縮小となるなか、登録者は一定数を維持している。 |
| 2 | コロナ禍であるが、通いの場の設置数は目標値を上回った。コロナの影響や運営側の後継者不足により開催を見合わせた場所もあったが、第2層協議体を通じて立ち上がった場所もあり、感染対策を行いながら高齢者が自主的に集って閉じこもり予防に取り組んだ。 |
| 3 | 後期高齢者数の減少、介護予防事業の推進などにより、要介護認定者数、要介護認定率が微減した。 |
| 4 | 相談内容により、ハローワーク、障害者職業センターなどの関係機関と連携して対応に取り組んだ。解決が困難なケースの増加に伴い1件あたりの相談が長時間になったこと、計画相談が定着してきたこと等により、相談件数が減少したと推測する。 |

| | |
|--------------------|----------|
| ①②を踏まえた内部評価 | A |
|--------------------|----------|

| 総合計画・総合戦略推進会議委員の意見 | 総合評価 |
|--|----------|
| <ul style="list-style-type: none"> ●町内活動で高齢を理由に参加を免除しており、参加率が低くなっている。町内活動の人材の掘り起こしに苦慮している。 ●新たな地区に第2層協議体が設置されたことは良いことであり、自らの地区を知る良い機会になると思う。 ●誰もが住み慣れた地域で過ごすことができるよう、中核機関を設置したことは良いと思う。 ●ボランティアの登録数が評価できる。 ●降雪量の増加も予想され、冬季の高齢者への除雪の支援を充実していただきたい。 ●家から出ることに抵抗がある高齢の方や障害のある方への支援策をご検討いただきたい。 ●タクシー利用券の配布は初めて知ったので、もっと周知していただきたい。 | A |
| 施策評価アドバイザーの意見 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●住民それぞれの生活や地域の課題に応じて、各専門家による個別相談会等きめ細かい対応がなされている。 ●住民自身で課題を解決するための勉強会やモデル事業の開催とともに、現状把握調査も定期的に行われている。 | |



◆民生委員・児童委員見守り活動



◆住民主体の通いの場モデル事業「大門の～んびりこびり」



◆大野でいきいきシニア安心パッケージ

施策評価シート

No. 5

| | | | |
|------|-----------------------|---|----------|
| 評価課 | スポーツ推進課 | | |
| 関係課 | 福祉課、健康長寿課、教育総務課、観光交流課 | | |
| 基本目標 | 健幸福社 | 健幸で自分らしく暮らせるまち | |
| 項目 | スポーツ | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 市民が、それぞれのライフステージでスポーツを楽しみ、健康の増進と競技力の向上が図られ、豊かで充実した生活を送るまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|-----|--------------------|-----|---|------|----|-----|
| 5-1 | スポーツを楽しむ取り組みを推進します | ① | ●3年ぶりに開催した「第58回越前大野名水マラソン」は、コロナ感染症を踏まえて、参加者を県民に限定した「現地でのマラソン大会」と、場所、日時を問わず誰もが参加できる「オンラインマラソン」の2部構成で実施した。(エントリー数: 県民マラソン1,123人、オンラインマラソン504人) | ※ | ※ | ○ |
| | | ② | ●ラジオ体操による健康づくりを目的に、特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会を開催し、372人が参加した。また、同日に運動や食育による健康づくりを啓発するイベントとして、スポーツ・レクリエーション祭と健康・食守フェスタを同時開催した。(再掲) ●市民の興味や関心、目的に応じた運動やスポーツの機会を提供するため、小学生向けにエキサイトウィークやスキー教室、一般向けに登山教室やSUPヨガ教室、高齢者向けにすわるピクス教室や自宅でできる筋トレ教室など、多種多様な教室を開催し、年間で延べ1,757人の参加があった。(再掲) | | ※ | |
| | | ③ | ●国民体育大会などで大野市で開催された競技を普及するため、カヌー教室や自転車を利用した体験教室、小学生相撲選手権を実施した。 | | | |
| | | ④ | ●障がい者のスポーツ参加を推進するため、障がい者と障がい者支援に関わる施設職員を対象としたニュースポーツ教室を開催した。(参加者24人) ●障がいを持つ子どもとその保護者を対象にした親子参加型の水泳教室を開催した。(参加者29人) | | | |
| | | ⑤ | ●サイクルツーリズムを推進するため、大野・勝山・永平寺観光推進エリア創出計画実行委員会で、道の駅「越前おおの 荒島の郷」や城下町東広場、道の駅「恐竜渓谷かつやま」、えちぜん鉄道勝山駅、えい坊館の5カ所をレンタルスポットとするレンタサイクル「九頭竜ぐるっとペダル」を4月から11月まで運行し、131件の利用があった。 ●大野・勝山・永平寺観光推進エリア創出計画実行委員会で「九頭竜ぐるっとサイクルスタンプラリー」を7月から11月まで実施した。2市1町で15のスタンプスポットを設置し、130人が1,132のスタンプを獲得した。 | | ※ | |
| | | ⑥ | ●誰もが目的や体力に応じてスポーツを楽しめる基盤づくりとして、総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」の活動を支援した。 | | ※ | |
| | | ⑦ | ●3年ぶりに開催した「第58回越前大野名水マラソン」は、コロナ感染症を踏まえて、参加者を県民に限定した「現地でのマラソン大会」と、場所、日時を問わず誰もが参加できる「オンラインマラソン」の2部構成で実施した。(エントリー数: 県民マラソン1,123人、オンラインマラソン504人)(再掲) ●誰もが気軽にスポーツに親しめるよう、コンピューターゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉えるeスポーツ大会を実施した。 | ※ | ※ | |
| | | ⑧ | ●スポーツ振興くじ助成を活用しながらエキサイト広場総合体育施設の備品(バスケットボールゴール1対)や、コロナ禍においても利用者が安心・安全に施設を利用できるよう、アリーナやトイレ照明のLED化、トレーニングルームの拡張を行った。 | | | |
| 5-2 | 競技力の向上を支援します | ① | ●全国大会などで活躍する選手を支援するための全国大会等出場費補助や激励費の支給件数は、昨年度の件数を超えた。(全国大会等出場費補助58件、国体出場選手延べ46人) | | | ○ |
| | | ② | ●競技者の競技力や指導者の資質向上を目的として、軟式野球連盟主催の東京ヤクルトスワローズの中村悠平選手を講師として招いた野球教室や、市スキー連盟主催の日本スキー連盟ナショナルデモンストレーターを講師に招いたスキー教室に対して補助を行った。 | | | |
| | | ③ | ●スポーツ団体の継続した活動や活性化につながるよう、スポーツ少年団の事務担当者を対象に、スポーツ少年団の登録や各種助成制度、指導者養成会等の情報提供と意見交換を行った。 ●実施方法等を変更した市民スポーツ大会について、市スポーツ協会や地区体協と反省点や課題等の見直しを図り、翌年度の事業計画に反映した。 | | | |
| | | ④ | ●スポーツ指導者を育成するため、福井県スポーツ少年団等からの指導者養成に関する情報を市内スポーツ少年団に提供し、指導者の資格取得を支援した。 | | | |

| | | | | | | |
|-----|----------------------|---|---|--|--|---|
| 5-3 | 子どものスポーツ活動の充実に取り組みます | ① | ●資質の高い指導者を養成することにより、スポーツ振興と競技力の向上を目指すため、指導者の日本スポーツ協会等の公認資格取得を支援した。(新規資格取得者9人) | | | ○ |
| | | ② | ●スポーツ交流を通じて子どものスポーツ活動の意欲向上を図るため、ACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)体験教室と併せてACP普及員の育成研修会を実施し、体験教室に参加した未就学児等と普及員の育成研修会に参加した中高校生との運動を通じた交流機会を設けた。 | | | |
| | | ③ | ●サッカー、バスケットボール、軟式野球の3競技において、地域スポーツ団体に委託し、休日の部活動地域移行の実践研究に取り組んだ。 | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|--------------------|-------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | スポーツ指導者公認資格の新規取得者数 | スポーツ指導者公認資格の新取得者数(累計) | — | 0 (累計) | 9 (累計) | 40 (累計) | 人 | | |
| 2 | 市民1人当たりの体育施設利用回数 | 市民1人当たりの体育施設(スポーツ振興担当所管)の利用回数 | 7.66 | 6.90 | 6.81 | 9.00 | 回 | ※ | ※ |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

| (成果指標の検証) | |
|-----------|--|
| 1 | 今年度よりスポーツ指導者資格取得補助を新たに創設したことで、スポーツ指導者の公認資格取得を支援し、9名が資格を取得した。 |
| 2 | 新型コロナウイルス感染症による影響のほか、明治公園テニス場及び大屋根広場ハードコート整備の工事により、工事期間中の施設利用を中止したため、体育施設の利用者数が減少した。 |

| | |
|--------------------|----------|
| ①②を踏まえた内部評価 | B |
|--------------------|----------|

| 総合計画・総合戦略推進会議委員の意見 | 総合評価 |
|---|----------|
| <ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの事業が、特定の人のみが参加し、新規には参加しにくい環境になっていると思うので、気軽に参加できる環境を作ってほしい。 ●オンラインマラソンは自分のタイミングでできるため、取り組みとして良いと思う。 ●コロナ禍の中でもスポーツイベントが行われていたが、案外知らない人もいたのではないかな。 ●スポーツ指導者公認資格者は、部活の地域移行により、一気に増えると思う。時間的なこと、責任のあり方など、課題は多いと思う。 ●名水マラソンはコロナの中、県民とオンラインにより実施した勇気を評価する。 ●色々大会等が通常に開催され、施設も充実し体育施設の使用回数は目標数値に近くなると思う。 ●スポーツ活動に興味がない市民を巻き込み、参加を促す体験イベントや種目を増やしていただきたい。 | B |
| 施策評価アドバイザーの意見 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ強度に合わせた教室、イベントが企画されている。 ●今後は、部活動の段階的な地域移行が進むにつれ、地域の指導体制強化も必要となるのではないかな。 | |



◆第58回越前大野名水マラソン



◆特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会



◆ACP体験教室・普及員育成研修会

施策評価シート

No. 6

| | | | |
|------|---------|--|----------|
| 評価課 | 農業林業振興課 | | |
| 関係課 | 産業政策課 | | |
| 基本目標 | 地域経済 | 歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち | |
| 項目 | 農業 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 次世代技術を生かした農業の普及が進み、多様な担い手によって、活力ある農山村が引き継がれているまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|-----|-----------------------------|-----|--|------|----|-----|
| 6-1 | 魅力ある農業経営を実現します | ① | ●地域を支える担い手が、安定した農業経営ができるよう農業機械購入などを補助金により支援した。(18件) | | | ○ |
| | | ② | ●新規就農者や後継者の確保と育成を図るため、 就農奨励金で新規就農者2人 を支援した。 | | ※ | |
| | | ③ | ●女性や高齢者など、誰もが生き生きと農業経営に参画できるよう、新たな園芸作物にチャレンジする生産者などを補助金により支援した。(3件) | | | |
| | | ④ | ●スマート農業やデジタル技術の活用を支援するため、国や県の補助金を活用し、 スマート農業関連機器の整備を費用面で支援 した。(4件) | | ※ | |
| 6-2 | 特色ある越前おおの産農林水産物の生産や販売を振興します | ① | ●大野市の気候や風土に合った特産作物の生産を促進するため、出荷奨励金などによる支援を実施した。(穴馬スイートコーン18件、穴馬かぶら8件) | | ※ | ○ |
| | | ② | ●農林水産物のブランド力の向上と販路拡大に取り組むため、越前おおの農林楽舎や株式会社社平成大野屋に委託し、実店舗での販売のほか、市外、県外のイベントやECサイトなどのウェブを活用した情報発信、PR活動に取り組んだ。 ●農産物のブランド力向上を図るため、「越前おおの おいしいお米コンテスト」で金賞を受賞した米を越前おおの農林楽舎で販売した。 ●そばの消費拡大を目的に 3年ぶりに開催した「越前おおの新そばまつり」では、二日間で過去最高となる約1万2,900杯を販売した。 | | ※ | |
| | | ③ | ●道の駅「越前おおの 荒島の郷」や道の駅「九頭竜」での販売、ふるさと納税などを活用して農林水産物の多様な販売活動を展開した。 | | ※ | |
| | | ④ | ●特産作物を含む園芸作物を生産する農業者の育成と支援に取り組むため、 生産に必要な農業機械の導入を費用面で支援 した。(7件) | | ※ | |
| | | ⑤ | ●アユなど淡水魚の稚魚の放流や養殖を支援するため、漁業協同組合の取り組みを補助金により支援した。 | | ※ | |
| 6-3 | 多様な人材の活躍による農山村の維持と活性化を目指します | ① | ●農山村の維持や活性化を促すため、若者や女性、非農家などの「稼ぐ力」の向上につながる農業体験などの取り組みへの助言や運営の協力を行った。 | | | ○ |
| | | ② | ●中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度などの各種支援制度を有効活用することで集落の活性化を促した。 ●初心者向け園芸栽培講座や果樹栽培講座など、各種講座を開催し、誰もが農業を学び、触れ合える機会を提供した。(延べ65人が参加) | | ※ | |
| | | ③ | ●地域ぐるみの鳥獣害対策に対し支援するため、電気柵の更新を補助した。 山際の集落13地区について大規模緩衝帯を整備 した。 | | | |
| 6-4 | 農地の適切な管理と有効利用を図ります | ① | ●農業委員会が中心となって農地パトロールや農地所有者や担い手との調整などを行い、農業の担い手への農地の集約と集積を進め、 集積率は74.6% となった。 | | | ○ |
| | | ② | ●中山間地域等直接支払事業補助や多面的機能支払交付金事業などの支援策を活用し、集落ぐるみでの農地の保全管理に取り組んだ。 | | | |
| | | ③ | ●農業生産基盤を整備するため、堀兼地区、下庄北部地区、大野阪谷2期地区、上庄大井1期地区、上庄大井2期地区の5地区の土地改良事業を支援した。 | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|-----------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 担い手への集積率 | 担い手が耕作している農地面積の割合 | 67.9 | 73.2 | 74.6 | 80 | % | | |
| 2 | 耕作放棄地の面積 | 毎年増加傾向にある耕作放棄地の発生抑制 | 3 | 3.9 | 2.5 | 3.6以下 | ha | | ※ |
| 3 | 道の駅年間来場者数 | 道の駅「越前おおの 荒島の郷」への年間来場者数 | — | 75.4 | 63.5 | 80 | 万人 | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|---|
| 1 | 農地中間管理事業を活用し、着実に農地集積が進んでいる。 |
| 2 | 非農地判断により耕作放棄地の面積は減少したが、山際の小区画の圃場は担い手が耕作できず放棄地となってしまう。 |
| 3 | 開駅2年目となり、開駅当初と比べると来場者数は落ち着いたが、新型コロナウイルス感染症の沈静化や、中部縦貫自動車道の勝原IC開通の影響もあり、年間来場者数目標を上回る63.5万人の来場者があった。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

総合評価

- 担い手へ農地を集積している中、労働力削減に向けてスマート農業整備支援は高く評価できる。今後も取り組むべきである。
- 農産物への鳥獣害に対して、電気柵の更新、山際集落に対し整備することは評価できる。
- 山際圃場や小区画圃場の耕作は、担い手にとって機械の運搬や作業効率が悪く請け負いにくい。今後、耕作放棄地へ鳥獣被害の少ない花桃や林産物の植付けに対する苗木補助支援を検討していくと良い。
- 越前おおの新そばまつりの実施は評価できる。新そばまつりの実施は、どんな広報よりも効果的であると思われる。
- 6-2①に対して、出荷奨励金による支援は目に見えないため、支援方法を種苗・資材助成等に変更した方がより生産者は支援されている実感が湧き意欲がでると思う。支援方法の変更を検討されたい。
- 現在、担い手において後継者問題や人員不足が多く見られるため、雇用に係る対策を行うと良い。
- 農作物を獣から守るため、大規模緩衝帯を継続するべきである。
- スマート農業関連機器整備について、今後も重要度が増していくと考えられる。費用面での支援は引き続きお願いしたい。
- 「交流人口」を増やし「関係人口」も増やす施策としての農業体験イベントを造成するべきである。例えば、農作物の成長を大野の農家がSNSで都市部の契約者へ毎日発信し、年数回程度、現地で農作業体験や収穫(保管)農作物を農家で味わうイベントなど。都市部の人が参加しやすい農業体験イベントを開催し、その中から市内で農業従事する意向のある者を抽出し、集中的に市の農業支援等を行い担い手数の増加を図る。
- 後継者育成や若手農業従事者育成のため、若者にとって農業が魅力的に感じるような事業展開の継続を望みます。特にスマート農業の発展を進めていただきたい。
- 道の駅等に販売する農林水産物に対し、生産者の「見える化」(生産された方の写真等を載せる)を行うことにより、生産者と消費者が近い関係になると思う。

B

施策評価アドバイザーの意見

- 生産・販売面からの支援、ハード整備・人材育成などバランスよく取り組まれており、担い手への集積率や耕作放棄地面積の減少などに少しずつ繋がっているのではないかと。



◆特産作物のPR
3年ぶりにそばまつり開催



◆プランターを用いた園芸栽培講座



◆お米コンテスト上位受賞米のウェブ販売

施策評価シート

No. 7

| | | | |
|------|---------|--|----------|
| 評価課 | 農業林業振興課 | | |
| 関係課 | — | | |
| 基本目標 | 地域経済 | 歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち | |
| 項目 | 林業 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 豊かな森林資源を活用した林業により、資源の循環と森林の多面的機能が発揮されたまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 | |
|-----|--------------------|-----|--|------|----|-----|---|
| 7-1 | 林産物の生産能力の向上を支援します | ① | ●森林施業の効率化を図るため、林道や作業道の整備を計画的に進め、林道の舗装率は51.5%、路網整備の延長累計は6,060mとなった。 | | | | |
| | | ② | ●特用林産物のマイタケについて、令和4年度の株式会社昇竜での生産量は133.1tとなり、前年度の122.8tを上回った。 昨年に続き「越前おおの 荒島の郷」「九頭竜」など道の駅での販売が堅調に推移したほか、紅葉まつりなどイベントの復活により出店販売による売上が増え、前年度比110%の売上となった。 | ※ | ※ | ○ | |
| | | ③ | ●子どもの頃から木製品に触れる機会を提供し森林資源の循環を図るため、保育園やこども園などへ国産材のおもちゃ(16件)や大型遊具(6件)の導入を補助金などにより支援した。 | | | | |
| 7-2 | 山林を適切に管理します | ① | ●森林環境譲与税を活用し、森林施業の集約化に向け、4地区94件に対して森林所有者への意向調査を進めた。 | | ※ | | |
| | | ② | ●山林の適切な管理を進めるため、木質バイオマス発電所への間伐材7,070m ³ の搬出を補助金によって支援した。 | | ※ | | |
| | | ③ | ●獣害対策として、猟友会が分解処理施設へ持込んだシカ478頭分について運搬費用を補助した。 | | | | ○ |
| | | ④ | ●森林の多面的機能の啓発を図るため、市内の小学2年生に、どんぐりの苗木を種から育ててもらい、どんぐりの里親事業を実施した。 ●越前おおのエコフィールド管理・運営協議会(令和4年度末加盟団体数 33団体)の活動を通じて、森林の大切さなどについて意識啓発を図った。 | ※ | | | |
| | | ⑤ | ●水源涵養機能などの維持を図るため、ブナの森環境保全林の保護・保全管理を行ったほか、小水力発電などの林地の開発行為について事業者からの問い合わせに対応した。 | | | | |
| 7-3 | 林業従事者の確保と育成に取り組めます | ① | ●林業従事者の確保と育成に向け、フォレストワーカー研修を受講しながら働く1年目から3年目までの就労者を雇用する林業事業体を支援した。さらに林業事業体を支援するため、林業機械のレンタルなどへの補助制度を追加(林業機械20台のレンタル料を補助)した。 | | ※ | ○ | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|--------|----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 林業作業士数 | 林業作業士として農林水産大臣が登録した者 | 30 | 30 | 33 | 35 | 人 | | |
| 2 | 森林間伐面積 | 市有林、私有林の間伐面積 | 118 | 106 | 93 | 130 | ha | | ※ |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|--|
| 1 | ふくい林業カレッジで行われるフォレストワーカー研修を受講する新規就労者の支援や退職金共済掛金への補助を通じて林業事業体や雇用者を支援している。 |
| 2 | 間伐の施業を進めてきた結果、効率的な施業が可能な山林が少なくなっており、間伐面積の拡大が難しくなっている。林業事業体に対し林業機械レンタル等を支援することで、施業を促している。 |

①②を踏まえた内部評価

C

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- イベントの開催によりマイタケの売上が増えており、評価できる。
- 獣害対策として運搬費用の補助は評価できる。
- 林業作業士数が増加傾向であるので評価できる。
- 脱炭素に向けた皆伐地及び新植地を確保するべきである。
- 担い手育成は難しいと思われるが、重要である。
- 「交流人口」を増やし「関係人口」も増やす施策としての林業体験イベントを造成するべきである。例えば、フォレストワーカー体験イベントを都市部に向け情報発信し、林業従事者の協力を得て宿泊を伴う林業体験を提供するなど。
- 上記イベント参加の呼び水として「紅葉まつり」などでのミニ体験イベントとリンクさせる。
- 若手林業従事者増加させるための就労支援策(金銭面や労働環境改善)を強化してするべきである。
- 大野市は他市町に比べ森林比率も高く今後も必要な産業であると思うため、スマート林業(林業のデジタル化)普及のためおよびスマート林業の第一人者としてため助成・補助を強化してはどうか。

総合評価

C

施策評価アドバイザーの意見

- 林業従事者の確保・育成支援に加え、林産物や加工製品の購入補助等により、川上から川下産業までの一体的な支援がなされている。



◆どんぐりの里親事業



◆木の薫る遊び場事業



◆越前おおのエコフィールド秋イベント

施策評価シート

No. 8

| | | | |
|------|-------|-------------------------------|----------|
| 評価課 | 産業政策課 | | |
| 関係課 | - | | |
| 基本目標 | 地域経済 | 歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち | |
| 項目 | 商工業 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 人の交流や物流が拡大し、多くの店舗や企業が活気に満ちたまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|-----|-----------------------|-----|--|------|----|-----|
| 8-1 | 事業者の経営課題に対して総合的に支援します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●商工会議所や県産業支援センターとの連携により窓口にてワンストップサービスで創業、承継相談を行った。 ●「越前おおの産業ブランド力向上戦略」に基づき、事業者の稼ぐ力を応援するため、市内の専門家や商工会議所、市をメンバーとした「<u>結の故郷ビジネスサポートチーム(結サボ)</u>」を結成した。相談会を11回開催し、延べ24件(8事業者)の相談を受け付け、経営課題の解決や稼ぐ力向上に向けた診断や助言を行った。 | ※ | ※ | ○ |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●事業者の「稼ぐ力」の向上を図るため、越前おおのブランドを活用した商品の開発や販路拡大に向けた市内事業者の取組に補助した。(14件) ●コロナ禍の規制緩和がなされる中で、これまで中止となっていたイベントが再開され、平成大野屋に委託する販路拡大情報発信事業により、出向宣伝や特産品カタログの新規作成やECサイトのWeb広告を行い、出向宣伝による特産品の売上は、前年度の66千円から2,083千円に増加したほか、ECサイトにおいては、前年比でサイトへのアクセス数は126%、売上は133%となり、販路拡大につながった。 ●ふるさと納税を活用して魅力的な返礼品の情報発信を強化した結果、寄附金額は過去最高の約1億1,900万円となった。(再掲) ●中京、関西、北陸圏の都市部のメディアへのセールス活動を行うとともに、PR広告を行い、本市のブランド向上を図った。 ●大野の魅力SNSで定期的に発信し、ファンを獲得するため、Instagramに「越前おおのブランド公式」アカウントを新設して情報発信を行った。 | ※ | ※ | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●平成大野屋のレストラン「はいから茶屋」の経営改善のため、醤油カツ丼、おろしそばなどの「大野ならではの」メニューを残しつつ、レストランメニューから喫茶メニューに変更して営業を行った。 | ※ | ※ | |
| | | ④ | <ul style="list-style-type: none"> ●ふくいデジタルバウチャー推進協議会が運営する「ふく割」システムを活用し、デジタルクーポン「おおの割」「もっとおおの割」を発行し、市内の小規模事業者のデジタル技術の活用促進を図った。 ●国の小規模事業者持続化補助金又はIT導入補助金の採択が受けられなかった事業者を支援する補助制度を設け、6事業者の生産性向上の取り組みを支援した。 | ※ | ※ | |
| | | ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ●空き工場を活用して事業拡大した企業1社に対して企業立地助成金を交付した。 ●県と連携し、製造業を中心に大野市富田産業団地等への誘致活動を進めたが、誘致に至らなかった。 | | ※ | |
| | | ⑥ | <ul style="list-style-type: none"> ●大野商工会議所や県産業支援センターとの連携により、窓口にてワンストップサービスで国や県の支援施策について相談を受け付ける体制づくりに努めた。 ●企業の先端設備導入を促進するため、市内企業の先端設備等導入計画の認定を20件行い、償却資産にかかる3年間の固定資産税の減免を行った。 | | ※ | |
| | | ⑦ | <ul style="list-style-type: none"> ●大野商工会議所に委託し、事業継続力強化計画策定セミナーを実施し、7事業所が参加したが、新たな計画策定には繋がらなかった。 | | ※ | |
| 8-2 | まちなかのにぎわいを創出します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●(株)平成大野屋に委託し、特産品の販路拡大と情報発信を行い、市民や観光客の集客につなげた。 ●七間楽市や七間ハロウィンなど商店街が行うにぎわい創出イベントの開催事業費や越前おおの三大朝市物産まつり等の経費の一部を補助し、まちなかへの集客とにぎわいの創出を図った。 ●六間通りのイルミネーションや三番商店街ののぼり旗の設置など、商店街が行うにぎわい創出事業に対して、その経費の一部を補助した。 ●産業と食彩フェアやふるさと味物語の運営経費の一部を補助した。 ●まちなかのにぎわい創出と建設業の魅力発信のため、「<u>重機パークin越前おおの</u>」の開催を補助金により支援した。 | ※ | ※ | ○ |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●コワーキングスペースとレストラン機能を有したカンケイ商店の更なる整備を行い、まちなかのにぎわい創出を図るまちなか商店街集客力向上協議会に対し、その整備費の一部を補助した。 ●都市機能誘導区域内の空き家等を活用しにぎわい創出を行う事業者に対する補助事業である店舗形成事業で、1者に対して、店舗形成に必要な経費の一部を補助した。 | ※ | ※ | |
| その他 | | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ●将来的な観光地域づくり法人設立を視野に入れ、観光を軸に稼ぐ新組織の設立を目指して関係機関に働きかけを行い、新組織設立に向けた関係機関の合意形成が図られた。(再掲) | | | ○ |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|-------------|-------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 創業者数 | 市の支援策による創業件数(累計) | — | 0 (累計) | 1 (累計) | 10 (累計) | 件 | ※ | ※ |
| 2 | まちなかの観光入込客数 | 大野市を訪れる観光客の総数のうち、まちなかへの年間入込客数 | 82.9 | 33.5 | 50.3 | 125.0 | 万人 | ※ | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|---|
| 1 | コロナ禍により停滞していた経済活動が回復し始めたため、創業の機運が高まった。 |
| 2 | コロナ禍の規制が緩和され、外出・旅行をする人が増加したこと、イベントの再開等が要因となり、観光入込客数の増加につながった。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- ふるさと納税を活用し返礼品の情報発信を強化した結果、寄付金額が過去最高額になったことは高く評価できる。
- 六間通りで行っているイルミネーションを各地域で数力行うと良いと思う。
- 富田産業団地の誘致を強化するべきである。
- 結サポについて、利用実績があり評価できる。アドバイスを受けた後、フォローできるような仕組みがあれば更に良い。
- まちなかの人流の停滞が依然続いている。JR福井駅と結ステーションの往復二次交通の確保が急務である。交通(バス路線)確保のためにも市外来訪者への魅力発信のため平成大野屋事業の抜本的改革が急務である。
- チェーンストア展開業者(コンビニ、スーパーマーケット等流通業者)との提携を図り、市外来訪者による土産品販売収入を増加させることが必要である。
- 市外来訪者数の向上のため、飲食エリアを設けてはどうか。
- 寺町～七間～大野城(城下町広場)等が同時にイベントを開催し、城下町を肌で感じられる複合イベントが必要と感じる。
- ふれあい公園の芝生広場等を活用したイベント(フリマ等)を開催し、市外から大野への人の流れを積極的に作る必要があると感じる。

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

- 観光事業に関しては精力的に取り組まれており、売上やPR効果等数値上での効果が見られる。
- 企業誘致や創業支援については、さらなる取り組みが期待される。



◆七間楽市




◆重機パークin越前おおの



◆結の故郷ビジネスサポートチーム

施策評価シート

No. 9

| | | |
|------|------------------|---|
| 評価課 | 観光交流課 | |
| 関係課 | 産業政策課、交通住宅まちづくり課 | |
| 基本目標 | 地域経済 | 歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち |
| 項目 | 観光業 | 目指す姿 |
| | | 県内外や国外から多くの観光客が訪れ、にぎわい、経済活力にあふれるまち |
| | | 関連するSDGs |
| | |  |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|-----|----------------------------|-----|---|------|----|-----|
| 9-1 | 魅力ある地域資源の磨き上げ、観光資源として活用します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●越前大野城の三階展示品の説明や案内等をリニューアルし、四階展望室に影絵アートや古地図と現地図を比較できるパネルを設置した。三階から四階へ上がる階段をアートに装飾しフォトスポット化した。 ●武家屋敷旧内山家に夏・秋限定で葦を使用した城見窓付きの夏障子と冬限定で桜や荒島岳、大野らしさを感じる動物を配した絵障子を設置した。絵障子は新たにデザインした4枚の障子を追加した。 ●武家屋敷旧田村家の屋敷前や庭先などに約2,000個の風車を備えた風車棚を昨年に引き続き設置した。夏休み前には、一般ボランティアの参加を募り、風車の入替作業を行った。 ●観光協会と連携し、御清水に夏と秋に分けてカラフルな提灯を設置。夏季は大野高校美術部が制作した提灯を飾り、ライトアップすることで名水の城下町を創出する。その他、越前おおの結菜座の回廊と洋館テラスに夏・秋限定で、てぬぐいを約200枚吊し、日本らしい風情を演出した。 ●和泉郷土資料館の壁に恐竜トリックアートを描くとともに、展示室を恐竜や化石に特化したものにリニューアルした。合わせて、施設の愛称を募集し「くずりゅう化石ラボ ガ・オーノ」に決定した。 ●JR越美北線九頭竜湖駅の駅舎とホームを「恐竜化石の魅力的な産出地」の駅として装飾。ホームに恐竜化石をデザインしたパネルやアンモナイトベンチ等を設置し、駅舎には恐竜トリックアートや恐竜を背景に配した顔出しパネル等を設置した。越美北線全線開通50周年に合わせて、12月に披露した。 ●南六呂師区において、<u>星空の世界遺産と言われる「星空保護区」の令和5年度認定取得に向け、対象エリアの市有施設等の外灯51基の光害対策を行った。</u>県とも連携し、県有施設の外灯約180基についても対策を講じた。 ●県と連携して令和4年3月に策定した「六呂師高原活性化構想」に沿って、県が実施主体となり、「六呂師高原開発計画案作成及び調査業務に係る企画提案」の公募を民間事業者から行った。提出期限までに企画提案がなかったため、募集期間を令和5年9月末まで延長した。 | | ※ | ○ |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●アウトドアスポーツやレジャーを促進するため、道の駅「越前おおの 荒島の郷」で、カヌーやクライミング体験等のアウトドアアクティビティを提供し、3,313人の利用があった。また、桜の木の記念植樹を行うなど、施設としての魅力向上を図った。 ●道の駅九頭竜では、駅舎の装飾に合わせて、既存の大型の広告看板を恐竜の化石が描かれているデザインにリニューアルした。 | | ※ | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●市民主体の誘客を進めるため、九頭竜新緑まつりを委託事業から補助事業へ切り替え、新緑の時期に民間事業者のノウハウを生かしたイベントに支援した。九頭竜まるごと体験マルシェ実行委員会が5月14日から5月22日までの期間、「九頭竜まるごと体験マルシェ」を和泉エリアの各観光地で展開した。 | | ※ | |
| | | ④ | <ul style="list-style-type: none"> ●六呂師高原の活性化を推進するために、県と調整を行い、円山公園で飼育していたポニーやウサギを新しい施設へ譲渡し、令和5年3月末まで円山公園の閉鎖を行い維持管理費を縮減するとともに、トロン温浴施設うらら館に係る借地を購入し、今後の活性化の利便を図った。 | | ※ | |

| | | | | | | |
|-----|-----------------------------|---|---|--|---|---|
| 9-2 | 観光客の来訪を増やし満足度を高める取り組みを推進します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●市内事業者所有の観光バスの内装を星空のデザインに改修する支援を行い、県内初の星空観光バスが完成し、星空ツーリズムを推進した。 ●商工会議所や県産業支援センターとの連携により窓口にてワンストップサービスで創業、承継相談を行った。(再掲) | | ※ | |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●(株)平成大野屋に委託し、特産品の販路拡大と情報発信を行い、市民や観光客の集客につなげた。(再掲) ●観光協会と連携し、おおの城まつりの期間に合わせて、越前大野城の夜間開館と石垣広場でのナイトイルミネーションと提灯散策を実施した。 ●市内菓子店11店で利用できるクーポン、オリジナル巾着、天空の城ノベルティ、レンタサイクル・レンタル傘割引クーポンなどがセットとなる「越前おおのはしごスイーツ」を継続して1,000円で販売し、869セットを売り上げた。 | | ※ | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●サイクルツーリズムを推進するため、大野・勝山・永平寺観光推進エリア創出計画実行委員会で、道の駅「越前おおの 荒島の郷」や城下町東広場、道の駅「恐竜溪谷かつやま」、えちぜん鉄道勝山駅、えい坊館の5カ所をレンタルスポットとする、レンタサイクル「九頭竜ぐるっとペダル」を4月から11月まで運行し、131件の利用があった。(再掲) ●大野・勝山・永平寺観光推進エリア創出計画実行委員会で「九頭竜ぐるっとサイクルスタンプラリー」を7月か11月まで実施した。2市1町で15のスタンプスポットを設置し、130人が1,132のスタンプを獲得した。(再掲) ●越前北線の観光利用を促進するため、サイクリトレインモニターツアーを9月は福井駅発、越前大野駅着で、10月は越前大野駅発、福井駅着とし、自分の自転車を列車に持込み、下車駅周辺エリアを自転車車で周遊するイベントをそれぞれ9人の参加者で実施した。 ●大野・勝山・永平寺観光推進エリア創出計画実行委員会でNAVITIMEスタンプラリー(参加者66人)を、越前美濃街道広域観光交流推進協議会でJAFドライブスタンプラリー(参加者528人)を実施し、広域における周遊を推進した。 ●道の駅「越前おおの 荒島の郷」では、4月の周年祭、令和5年3月のハイウェイウォークに併せてブースを出すなど集客を図った。8月には開駅からの来場者数が100万人を達成し、年間目標来場者数60万人を上回る63.5万人の来場者があった。 ●道の駅「越前おおの 荒島の郷」にて10月に実施したアンケートでは、約4割の方が荒島の郷を訪れた後に道の駅九頭竜を訪れる、または市内観光をすると回答しており、市内周遊の拠点として一定の成果があった。 | | ※ | ○ |
| | | ④ | <ul style="list-style-type: none"> ●パークホテル九頭竜キャンプ場トイレの洋式化や平成大野屋結楽座、和泉前坂家族旅行村のトイレをシャワー付き便座に取替えた。 ●ふくい嶺北連携中枢都市圏外国人観光客受入環境整備事業補助金を受けて、市内宿泊事業者が制作するホームページの多言語化に対し支援した。 | | ※ | |
| | | ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ●観光客の多様な宿泊需要に対応するため、県と連携し、より魅力的な施設へと環境整備する民間事業者2者に対し経費支援を行った。 ●国民宿舎パークホテル九頭竜の客室のリニューアルに向け、恐竜客室の改修工事に着手した。また、フレアール和泉の令和5年度再開に向けて改装を行った。 | | ※ | |
| | | ⑥ | <ul style="list-style-type: none"> ●将来的な観光地域づくり法人設立を視野に入れ、観光を軸に稼ぐ新組織の設立を目指して関係機関に働きかけを行い、新組織設立に向けた関係機関の合意形成が図られた。 | | ※ | |
| | | ⑦ | <ul style="list-style-type: none"> ●令和6年春の北陸新幹線福井開業を控え、バスや鉄道などの二次交通の充実を図るため、嶺北地域で「ふくいMaaS」の実証実験の取り組みを行った。令和4年度は、スマートフォンアプリ「RYDE PASS」を使い、大野・勝山歴史探検パスなど期間限定のお得な電子企画切符を販売した。 | | ※ | |
| 9-3 | 観光営業活動の強化と情報発信を充実します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●インスタグラムやフェイスブック、ツイッターによる観光誘客を目的とした広告を24回掲出し、1年を通してイベントやグルメ、観光資源などの情報発信を行った。 ●中部縦貫自動車道県内全線開通および北陸新幹線福井敦賀開業を見据え、四季毎の観光ポスターの制作を行った。 | | ※ | |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●旅行会社に対する観光営業活動として、オンライン商談会や対面商談会への参加、個別営業活動を延べ8回、60社に実施した。 ●福井市が主体となり令和5年3月に福井駅前で行われた北陸新幹線福井開業1年前イベントに、勝山市、永平寺町とともに参加し、観光PRを行った。 ●令和5年3月に中部縦貫自動車道大野IC-勝原IC開通記念イベントに合わせて実施された「道の駅越前おおの 荒島の郷」の観光PRイベントに「越前美濃街道広域観光交流推進協議会」で出展を行った。 ●道の駅「越前おおの 荒島の郷」について、県内、石川、中京、関西へのメディアセールスによる情報提供を行った。 | | ※ | ○ |
| | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ●星空保護区の認定取得、「星空の街・あおぞらの街」全国大会の開催など「日本一美しい星空」を市の観光コンテンツとして前面に推し進める機運情勢を図るため、星空関係団体で組織する「星のまちおおの推進協議会」を令和5年1月に設置した。国際ダークスカイ協会主催による星空保護区シンポジウムの本市開催に協力し、星空保護区の意識向上を図った。 | | | ○ | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|---------------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 観光消費額 | 日帰り観光客1人当たりの消費額 | 2,945 | 3,208 | 3,704 | 5,000 | 円 | ※ | ※ |
| 2 | 宿泊者数 | 延べ宿泊者数(暦年) | 86,100 | 70,700 | 67,300 | 130,000 | 人 | ※ | |
| 3 | 観光入込客数 | 観光客の延べ人数(暦年) | 199 | 176 | 206 | 330 | 万人 | ※ | |
| 4 | 道の駅年間来場者数(再掲) | 道の駅「越前おおの 荒島の郷」への年間来場者数 | — | 75.4 | 63.5 | 80 | 万人 | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|--|
| 1 | 令和3年同様、道の駅「越前おおの 荒島の郷」による消費意欲の増加や有料周遊観光コンテンツ「はしごスイーツ」の旅ツアーとの連携による販売、越前大野城での御城印や越前大野駅・九頭竜湖駅での御乗印の販売など観光関連商品の造成等が影響している。 |
| 2 | 九頭竜温泉「ホテルプレアール和泉」の4月からの休館や宝慶寺憩いの森の閉鎖などが影響している。 |
| 3 | 新型コロナウイルス感染症による移動制限の緩和とともに、おおの城まつりをはじめ、3年ぶりに再開した市内イベントや新たなイベントが開催された。郊外では令和3年同様に3密を避けてアウトドアを楽しむ人がキャンプ場等が賑わい、九頭竜紅葉まつりや道の駅「越前おおの 荒島の郷」でのイベントなどが開催されたことが影響している。その他、10月に一乗谷朝倉氏遺跡博物館が開館し、本施設と連携した越美北線ツアーが実施された。 |
| 4 | 開駅2年目となり、開駅当初と比べると来場者数は落ち着いたが、新型コロナウイルス感染症の沈静化や、中部縦貫自動車道の勝原IC開通の影響もあり、年間来場者数目標を上回る63.5万人の来場があった。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

総合評価

- 星空保護区認定取得に向けた外灯光害対策は大きく評価できる。
- 荒島の郷に本格的なキャンプができる環境を整備することにより、より観光業が盛り上がると思う。道の駅では、キャンプ用のバーベキューセットなど販売できるとよい。
- 様々な取組みを行っていることは高く評価できる。
- 宝慶寺いこいの森の復活を期待する。
- 荒島の郷を訪れた方のうち、4割が市内観光や道の駅九頭竜を訪れようとしているとのアンケート結果から、市内へ観光客が流れていることが評価できる。
- 二次交通不確保、宿泊収容能力不足、ガイド機能不十分をそれぞれ改善するための観光施策が必要である。
- 市外来訪者の滞在時間延長と宿泊促進のための施策が必要である。(具体的な取組み: 麺類組合と連携した「朝ラーメン」の提供など)
- 年間宿泊数減少から考えると、日中は大野を観光し、芦原温泉や市外に宿泊する観光客が増えていると想定される。夜の魅力発信(星空観察会やプチ祭りを増加させる等)を強化するべきである。
- 山奥や水資源が豊富な地域ならではのアクティビティ(溪流下り・溪流釣り・勝原園地でのイベント)等を開催し、水と関連付けし大野市の強みを活かせるイベントの開催や情報発信を望む。

B

施策評価アドバイザーの意見

- 民間事業者のノウハウ活用や、他市町との連携による広域観光誘客が計画されており、明確なターゲット層に向けてコンテンツや交通手段、アクティビティ、情報発信手段が構築されている。



◆ 九頭竜湖駅駅舎及び駅ホーム装飾



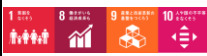
◆ 越前大野城装飾



◆ 越前大野城夜間開館&イルミネーション

施策評価シート

No. 10

| | | | |
|------|--------|--|---|
| 評価課 | 産業政策課 | | |
| 関係課 | こども支援課 | | |
| 基本目標 | 地域経済 | 歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち | |
| 項目 | 働く環境 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 新たな魅力ある企業の立地や市内企業の働きやすい環境整備により、若者や子育て世代をはじめ、市民が生き生きと働くまち |  |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|-----------------------------------|-----|---|------|----|-----|
| 10-1 | 企業の魅力や生産性、労働環境の向上と、多様な人材の就労を支援します | ① | ●商工会議所や県産業支援センターとの連携により窓口にてワンストップサービスで創業、承継相談を行った。(再掲) | ※ | ※ | ○ |
| | | ② | ●国や県の優良企業認定制度の紹介を行うとともに、働く人にやさしい企業や子育て世代にやさしい企業の認定を推進し、令和4年度は働く人にやさしい企業7社、子育て世代にやさしい企業5社を新たに認定し、ホームページなどで情報発信を行った。(再掲) ●大野市に働く人が定着し、誰もが働きやすい環境づくりを促進するため、育児休業の代替職員の雇用や男性の育児休業取得の支援、働き方改革セミナーの開催などに取り組んだ。(再掲) ●企業の先端設備導入を促進するため、市内企業の先端設備等導入計画の認定を20件行い、償却資産にかかる3年間の固定資産税の減免を行った(再掲) ●国の小規模事業者持続化補助金又はIT導入補助金の採択が受けられなかった事業者を支援する補助制度を設け、6事業者の生産性向上の取り組みを支援した(再掲) | ※ | ※ | |
| | | ③ | ●新婚世帯に対し、結婚に伴う新居の住居費や引っ越し費用などのスタートアップに係る費用を支援した(4組に補助)。加えて、25歳以下の新婚世帯に対しては、結婚祝金を支給した(9組に支給)。 ●国や県の優良企業認定制度の紹介を行うとともに、働く人にやさしい企業や子育て世代にやさしい企業の認定を推進し、令和4年度は働く人にやさしい企業7社、子育て世代にやさしい企業5社を新たに認定し、ホームページなどで情報発信を行った(再掲) ●育児休業の代替職員の雇用や男性の育児休業取得を支援したほか、働き方改革セミナーを開催するなど、大野市に働く人が定着し、誰もが働きやすい環境づくりを促進した(再掲) ●企業の先端設備導入を促進するため、市内企業の先端設備等導入計画の認定を20件行い、償却資産にかかる3年間の固定資産税の減免を行った(再掲) ●国の小規模事業者持続化補助金又はIT導入補助金の採択が受けられなかった事業者を支援する補助制度を設け、6事業者の生産性向上の取り組みを支援した(再掲) | ※ | ※ | |
| | | ④ | ●大野市シルバー人材センターの活動を支援し、約600人の高齢者の生きがいと就労の場づくりを行った。 ●外国人を受け入れる3団体が行う非実務研修事業に対し補助し、市内企業の外国人研修生の受け入れ支援を行うなど、多様な人材が就労できるよう取り組んだ。 ●商工会議所が行う多様な人材を活用するために必要な知識を習得するためのセミナーの経費の一部を補助した。 | ※ | ※ | |
| | | ⑤ | ●大野市シルバー人材センターの活動を支援し、約600人の高齢者の生きがいと就労の場づくりを行った。(再掲) | | | |
| | | ⑥ | ●外国人を含め、多様な人材が就労できる環境づくりを進めるため、外国人を受け入れる3団体の非実務研修事業に対し補助し、市内企業の外国人研修生の受け入れなどを支援した。 | | | |
| | | ⑦ | ●国や県の優良企業認定制度の紹介を行うとともに、働く人にやさしい企業や子育て世代にやさしい企業の認定を推進し、令和4年度は働く人にやさしい企業7社、子育て世代にやさしい企業5社を新たに認定し、ホームページなどで情報発信を行った。(再掲) | | ※ | |
| | | ⑧ | ●職業訓練センターにサテライトオフィスやレンタルオフィスのニーズに応えることのできる場所を設け、相談に備えた。 ●コワーキングスペースとレストラン機能を有したカンケイ商店の更なる整備を行い、まちなかのにぎわい創出を図るまちなか商店街集客力向上協議会に対し、その整備費の一部を補助した。(再掲) | | ※ | |
| 10-2 | 企業誘致を進めるとともに新たな産業を育成します | ① | ●県と連携し、製造業を中心に大野市富田産業団地等への誘致活動を進めたが、誘致に至らなかった。(再掲) ●令和3年度に株式会社モンベルに売却した区画に、同社が物流センターを建設し、3月末に操業を開始した。 | | ※ | △ |
| | | ② | ●新たな産業を創造するため、ICT関連企業の産業団地やサテライトオフィスへの誘致活動を進めたが、誘致に至らなかった。 | | ※ | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|------------------------|------------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 国・県の働き方改革関係 制度認定企業数 | 市の支援策による国・県の働き方改革関係 制度認定企業数(累計) | — | 0 (累計) | 4 (累計) | 10 (累計) | 社 | ※ | |
| 2 | 工場新設等に伴う雇用創 出数 | 企業が大野市民を雇用した数(累計) | — | 12 (累計) | 12 (累計) | 50 (累計) | 人 | | ※ |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|---|
| 1 | 市の働き方改革や子育て支援に取り組む企業の認定を取得した数社が、次のステップである県の認定の取得につながった。(さらに要件の高い国の認定の取得には至らなかった。) |
| 2 | 企業立地助成金の交付要件の緩和により、本助成金を活用した企業が従業員4人を新たに雇用したが、大野市民は含まれていなかった。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- 10-1③に対して新婚世帯に対し、新居の住居費、スタートアップに係る費用および結婚祝金を支援することは高く評価できる。
- 富田工業団地の誘致強化による雇用場所の確保を期待する。
- 富田産業団地等への誘致活動について、誘致に至らなかったのは残念だが、移住、雇用創出に期待が持てる。活動を続けてほしい。
- 全国水準以上の福利厚生・給与を提供する企業の誘致又は設立を促進すべきである。
- 市の特長を生かした稼ぐ観光施策の担い手として観光関連事業者の誘致と設立を加速させ、これら企業の収益増加による従業員福利厚生・給与の引き上げを図ることが必要である。
- 進学希望者への奨学金制度に対し「大野(または福井県内)に就職したら〇%返済不要」等の特典を付与した制度とし、経済的にも大野が魅力あることを若者にアピールし、都市部流出に歯止めをかけることが必要である。
- 現在の結婚年齢は上昇しているため、新婚費用支援の対象年齢を引き上げてはどうか。

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

- 多世代に向けた働きやすい環境整備が進められており、目標達成に向け継続的な取り組みが期待される。



◆働く人にやさしい企業・子育て世代にやさしい企業を認定



◆北陸モンベル大野物流センター

施策評価シート

No. 11

| | | | |
|------|---------|------------------------------------|----------|
| 評価課 | 環境・水循環課 | | |
| 関係課 | — | | |
| 基本目標 | くらし環境 | 豊かな自然の中で快適に暮らせるまち | |
| 項目 | 自然環境・ごみ | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 市民が誇る豊かで美しい自然環境が維持され、循環型社会が形成されたまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|--------------------|-----|--|------|----|-----|
| 11-1 | 脱炭素社会の実現に向けて取り組みます | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●大野市脱炭素ビジョン策定協議会において、2050年カーボンニュートラルの達成と市民のハッピーな暮らしの同時実現を目指した具体的な取り組みをまとめ、「大野市脱炭素ビジョン」を策定した。 ●大野市脱炭素ビジョンの策定に向けた具体的な取り組み方針を検討協議するため協議会は2回、各分野ごとのワーキンググループは4回開催した。 | | | |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●広報おおのに「チャレンジ！ゼロカーボン」と題し、地球温暖化問題に関する記事を掲載した。 ●子どもから大人まで地球温暖化対策の重要性を啓発するため、Eco落語、Eco遊園地、Eco紙芝居に加え、新たに親子エネルギー教室とエコドライブ体験会を開催し、延べ853人が参加、うち330人から「COOL CHOICE」運動の賛同を得るなど、家庭での意識啓発を促進した。 ●地球温暖化ストップ県民運動「LOVE・アース・ふくい」に協力し、広報物の掲示や出前講座などに取り組んだ。 ●電気の明かりを消して省エネや光害について考えてもらうきっかけにしようするため、令和3年度を14社上回る55社の協力のもと、ライトダウンイベントを実施した。 | | ※ | ○ |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●2050年脱炭素社会の実現に不可欠な脱炭素人材(脱炭素に資する行動変容を積極的に選択する人材)の育成及びその担い手づくりを目的に、主に教育関係者を対象に、環境省の関係団体と連携して環境ワークショップを実施した。(21人参加) | ※ | ※ | |
| 11-2 | 環境の美化と環境教育を推進します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●身近な河川や森林をフィールドにして豊かな自然が体感できる「自然ふれあい探検隊」を、地元の団体や関係機関と連携するなどして、計4回実施した。児童及び保護者延べ107人の参加があり、本市の魅力あふれる豊かな自然環境を体験学習し、自然環境への関心を高めることができた。 | ※ | | |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●環境保全推進のため、和泉地区一斉清掃(クリーンアップ大作戦)を実施した。 ●環境月間の6月に、県が実施する福井の豊かな自然を守る「クリーンアップふくい大作戦」に協力し、行政・住民が一体となり、真名川憩いの島の環境美化活動に取り組んだ。 ●市民協働による環境美化を推進するため、用水路清掃や草刈り、ごみ拾いなど各地区が実施する社会奉仕活動を支援した。(実施報告のあった地区数 77地区延べ99回実施) | | ※ | ○ |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●不法投棄、野焼きなど環境汚染の早期発見や早期解決を図るため、環境監視員によるパトロールの実施や関係機関と連携した監視体制の強化や啓発活動を行った。また、漏洩事故発生時には、通報連絡フロー図及び役割に関する確認事項に基づき、周辺河川へ油などが流出しないように早急な流出防止等の確認を行った。 | | ※ | |
| 11-3 | ごみの減量化と資源化を推進します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●令和4年度ごみ収集カレンダーに、食品ロス削減のお願いや、紙ごみの分別について掲載し、周知した。また、市民のごみ減量、リサイクル促進など循環型社会づくりに向けて、小学生を対象に出前講座を4回開催、市民団体等を対象にわくわくお届け講座を2回開催し、市民に啓発した。 | | ※ | |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●県民せいきょうと包括連携協定を締結し、家庭で余った食品を施設等に寄付する「フードドライブ」を令和4年度は回数を増やし2回開催した。各家庭から寄せられた余剰食品は福祉施設等に寄贈し、有効活用を図ることができた。 ●リネットジャパンリサイクル㈱が行う、宅配便によるパソコン無料回収サービスをごみの収集カレンダー等へ掲載し周知を図り、令和3年度より74件多い108件の利用があった。 | | ※ | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●ゴミの減量化及び資源循環の促進を図るため、廃棄物減量等推進審議会を開催し、プラスチック資源回収の積極的な取り組み方針を決定した。 ●大野・勝山地区広域行政事務組合ごみの諸課題検討運営委員会ワーキンググループにおいて、プラスチックごみの分別収集について、具体的な運用方法の検討を行い、令和6年4月の開始を決定した。 | | ※ | ○ |
| | | ④ | <ul style="list-style-type: none"> ●家庭ごみを減量化するため、大野市消費者グループ連絡協議会に家庭用生ごみ処理機の使用モニターを委託し、電気式、バイオ式生ごみ処理機10台で生ごみの堆肥化に取り組んだ結果、482キロの生ごみ削減ができた。生ごみの減量化、堆肥化の成果報告を受け、今後の政策方針につなげることができた。 | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|-----------------------|---|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 水質基準を達成した河川の数(全11河川中) | 県や市が実施する11河川の水質検査結果において、環境基本計画で設定した水質基準を満たした河川数 | 11 | 11 | 10 | 11 | 河川 | | |
| 2 | 1人1日当たりのごみの排出量 | 市民1人1日当たりのごみ排出量 | 950 | 941 | 931 | 929 | g | | ※ |
| 3 | ごみの資源化率 | ペットボトルや空缶、紙類などの分別収集や集団回収により一般廃棄物を資源化した率 | 21.9 | 23.0 | 20.8 | 29.4 | % | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|---|
| 1 | 市で検査している11河川中、1河川で市が設定するBOD値を超える数値があったが、国基準内の数値であったため、環境への影響は無いと考えられる。検査日の気象状況等の影響により異常値が検出される場合もあるため、常態的に悪化しているとは言い切れない。引き続き、検査を続け、検査結果を注視していく。 |
| 2 | 市と県民せいきょうが実施した「フードドライブ」により、1トン余りの食品が寄附され、廃棄されず有効利用された。また、リネットジャパンリサイクル(株)によるパソコン等の無料回収サービスの啓発に努め、市民の利用増加が図れたため、使用済小型家電のリサイクルが進んだ。ペーパーレス化の定着や、事業所等の紙ごみのリサイクル化の促進により、ごみの排出量が減少した。 |
| 3 | 令和3年度と比較し、令和4年度のごみの資源化率が低下した要因としては、令和2年度に処理すべきスラグのリサイクル業者への搬出が困難となり、令和3年度に前年度処理量もまとめて搬出したことによる影響である。令和4年度は滞りなく搬出することができた。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- 概ね順調に取り組みが進んでいる。また、一部の取り組みについては、具体性のある成果が得られていることは評価に値する。例えば、Eco落語やEco遊園地等の開催で延べ850名以上が参加したこと、また、省エネや光害の問題解決のきっかけとなるライトダウンイベントの活動では、前年度から14社増の協力を得たことなどが評価できる。
- ごみ収集カレンダーに食品ロスの削減のお願いや紙ごみの分別について周知したことにより市民1人1人当たりのごみ排出量減少にもつながったと思われる評価できる。
- フードドライブの実施はとても評価できる。
- 市内回遊促進策として「食べ歩き」イベントを促進するとともに、包装材ゴミの回収処理もしっかり行うための施策として「ゴミ箱周遊ラリー」を行ってはどうか。

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

- 環境保全やごみ減量化のための啓発に加え、親子で楽しめる教室や体験会、光害対策、余剰食品の福祉利用も含め、より広範な課題を取り上げることで、多くの市民の関心事に挙げられている。



◆ECO落語(開成中学校)




◆自然ふれあい探検隊(中島公園)



◆フードドライブ 福祉施設へ

施策評価シート

No. 12

| | | |
|------|-------------------|---|
| 評価課 | 環境・水循環課 | |
| 関係課 | 建設整備課、上下水道課、産業政策課 | |
| 基本目標 | くらし環境 | 豊かな自然の中で快適に暮らせるまち |
| 項目 | 水環境 | 目指す姿 |
| | | 恵まれた水環境や地域固有の水文化が継承され、人と水との豊かなかわりが実現されたまち |
| | | 関連するSDGs |
| | |  |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|---------------------------|-----|--|------|----|-----|
| 12-1 | 流域マネジメントを推進します | ① | ●地域における関係者の合意形成を図りつつ、持続可能な地下水の保全と利用を推進するための協議会「 <u>大野市水循環推進協議会</u> 」を開催し、 <u>行政機関および関係団体から取り組み状況の情報共有を図った。</u> ●令和3年度から40haに拡大した冬期間の水田湛水を令和4年度も実施し、地下水の涵養を図った。 | | ※ | ○ |
| | | ② | ●水資源の保全と利用の調和を図るための指針作成の基礎資料となる市民アンケート調査を市民1,000人に対象として実施し、438人から有効回答を得た。 | | ※ | |
| | | ③ | ●名水をはじめとする「越前おおのブランド」を活用した商品開発など、市内事業者の「稼ぐ力」の向上を図る事業に対し補助することにより、越前おおのブランドの活用を促進した。 ●テレビ番組や雑誌、新聞広告、Web記事等において、本市の豊かな自然環境や水がきれいであることなどをPRし、イメージアップを図った。 | | ※ | |
| | | ④ | ●大野市水循環推進協議会において、慣行水利権から許可水利権への変更について協議を行った。 | | | |
| 12-2 | 水循環に関わる人材の育成と水文化の継承を推進します | ① | ● <u>越前おおの水のがっこう</u> を拠点として、幅広い世代の市民を対象とした水に関する講座等を一般市民向け4回、中学生向け2回、小学生向けに1回開催し、それぞれ94人、16人、22人の参加があった。講座等の開催により、水循環に関わる人材の育成及び健全な水循環の構築に向けた取り組みに関わる市民の裾野の拡大を図った。 | ※ | ※ | ○ |
| | | ② | ●大野市と香川大学が教育及び研究等の分野で連携協力を行い、地域の発展と人材育成等の推進を図るために「 <u>大野市と香川大学との連携協力に関する協定</u> 」を締結した。 | ※ | | |
| | | ③ | ● <u>イトヨの保護を通じた環境教育を進めるため</u> 、本願清水イトヨの里で総合学習として市内の小中学校4校215人を受け入れた。また、企画展や小学生向けにイトヨ観察会を3回開催した。 | ※ | | |
| 12-3 | 気候変動や地下水障害への対応に取り組めます | ① | ●大野市と香川大学が教育及び研究等の分野で連携協力を行い、地域の発展と人材育成等の推進を図るために「大野市と香川大学との連携協力に関する協定」を締結した。(再掲) | | ※ | ○ |
| | | ② | ●市内31か所(34観測井)で地下水位の観測を実施し、地下水低下時には地下水注意報を発令して、市民への情報提供と節水への呼びかけを行った。また、令和3年度の記録的な地下水低下の対応等を踏まえ、 <u>地下水位の低下に応じて、関係者の必要となる対応及び水利用者が取るべき行動を示した「地下水位低下対応計画」を作成した。</u> ●元町地係を発生源とする有機溶剤による水質汚染が拡大していないか確認するため、18か所で年4回の地下水の水質調査を実施した。検査の結果、汚染の拡大は確認されていないことが確認できた。 ●地球温暖化が地下水へ与える影響を把握するため、9か所の観測井の地下水温度の観測を実施した。経年変化を見ると全ての観測井において上昇する傾向が確認された。 | | | |
| 12-4 | 河川や地下水の水質保全に取り組めます | ① | ●公共下水道の整備を進め、整備済み面積は前年度より27ha増え739haとなった。(全体計画面積918ha) ●公共下水道への加入促進を図るため、 <u>戸別訪問(449件)及び下水道の日のパネル展示などによる普及啓発</u> や、下水道接続に係る経費への補助(ご近所接続奨励金2件4人など)を行った。 | | | ○ |
| | | ② | ●農業集落排水処理施設を効率的に運営するため、15処理施設の <u>維持管理業務を一括して委託した。</u> (委託期間 令和4年度から令和8年度) | | | |
| | | ③ | ● <u>浄化槽設置整備事業補助</u> により合併処理浄化槽の整備を促進した。合併処理浄化槽の設置数は、前年度より6基増の1,685基となった。 | | | |
| | | ④ | ●市内41か所の地下水を採取し、水道法における飲料水基準に準拠して40項目の検査項目について <u>水質検査を実施した。</u> 検査の結果、地下水を飲用しているエリアでは <u>良好な水質が維持されていること</u> を確認した。 | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|----------------------------|---|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 保全目標水位に対する超過日数(過去10年の平均) | 基準観測井(春日公園)における保全目標水位5.5mを超過した日数の過去10年間の平均値 | 45 | 54 | 50 | 36 | 日 | | ※ |
| 2 | 地下水質の水道法に定める飲料水水質適合基準との適合率 | 水質調査した井戸のうち、水道法に定める飲料水水質適合基準に適合した井戸の割合 | 97.5 | 97.5 | 100 | 100.0 | % | | |
| 3 | 水洗化率 | 処理区域内の水洗化率 | 44.1 | 46.8 | 47.9 | 52.4 | % | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

| (成果指標の検証) | |
|-----------|--|
| 1 | 地下水位は、気象の影響を強く受けるため、リスク管理の強化が必要 |
| 2 | 地下水質は、飲用できる良好な水質を維持できている。 |
| 3 | 公共下水道の加入促進及び合併処理浄化槽の整備促進により、前年度比1.1%増となった。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- 概ね順調に取り組みが進んでいる。例えば、市民を対象とした水に関する講座や環境教育を市民や児童生徒を対象として複数回開催したこと、また、公共下水道の整備済み面積が前年度よりも27ha 増えたことなどが評価できる。
- 幅広い世代の市民に対して、水に関する講座等を開催し、裾野拡大については評価できる。
- 地下水質について、良質な水質が維持されていることも評価できる。
- 水が美味しい大野なので、これからも飲用出来る良質なお水の維持は今後も続けて欲しい。
- 「イトヨの里」を市外来訪者「観光施設」と捉え直し、収益増のための集客を図ってはどうか。
- 大野の水がどのように①発酵食品(酒・味噌・醤油等)を美味しくしているのか、②健康増進(腸活・アレルギー抑制)に役立っているのかを研究し市外(特に都市部来訪者)へ公表PRすべきである。

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

- 小中学生、大学生から一般市民まで、多段階で難易度別の教室・講座、研究連携が行われている。



◆大野市水循環協議会




◆香川大学との連携協定締結式



◆水に関する講座の開催(小学生)

施策評価シート

No. 13

| | | | |
|------|-------------|------------------------------------|---|
| 評価課 | 交通住宅まちづくり課 | | |
| 関係課 | 建設整備課、上下水道課 | | |
| 基本目標 | くらし環境 | 豊かな自然の中で快適に暮らせるまち | |
| 項目 | 生活環境 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 大野らしい景観が守られ、快適に暮らすことができる生活環境が整ったまち |  |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|------------------------|-----|--|------|----|-----|
| 13-1 | 景観に配慮したまちをつくります | ① | ●市民・事業者、地域団体、行政による持続可能な都市づくり・地域づくりを推進するため、大野市都市マスタープラン改訂委員会(2回)や大野市都市計画審議会を開催し、12月に都市マスタープランを改訂した。 | | | ○ |
| | | ② | ●市内定住を促進するため、転入者や子育て世帯、多世代同居世帯など20件に対し、中古住宅(空き家)取得やリフォーム支援を行った。 ●子育て世帯などのまちなか居住を促進するため、町家住宅に入居する4世帯に対し、家賃軽減を実施し支援した。 | | | |
| | | ③ | ●景観形成地区内の七間通り、五番通り、寺町通りの住民に地区の景観を修景していくことについてどのように考えているかのアンケートを実施した。 | | ※ | |
| | | ④ | ●県と連携し、屋外広告物の見回りを行った。また、不適格な屋外広告物に対し指導、助言を行った。 | | | |
| | | ⑤ | ●県と調整を図ったことで、国道158号の新丁トンネルから犬山交差点間の無電柱化が令和6年度より実施される予定となった。 | | | |
| | | ⑥ | ●公園長寿命化計画に基づき、春日公園や寺前公園など、老朽遊具の撤去や補修などを行った。 | | | |
| 13-2 | 安全で快適な住宅環境を整備します | ① | ●高齢者の快適な住環境の確保を支援するため、高齢者向け優良賃貸住宅26戸について家賃低廉化に対する補助を行った。 | | | ○ |
| | | ② | ●安全な住環境整備を促進するため、住宅の耐震改修2件、耐震診断15件及び耐震プラン作成15件、倒壊の危険性があるブロック塀の除却1件に対し助成した。 | | | |
| | | ③ | ●大野市公営住宅長寿命化計画に基づき、市営住宅中挾団地1号棟18戸の住戸改善を行った。また、老朽化している市営住宅西里団地の廃止に向け、15棟中5棟を解体した。 | | | |
| 13-3 | 上下水道基盤を整備し適切な維持管理を行います | ① | ●菖蒲池地区簡易水道を上水道に統合するため、公共下水道工事に合わせて既設配水管の更新を行った。 ●木本地区簡易水道の水源変更に向けて水源調査を行った。 | | | ○ |
| | | ② | ●公共下水道の整備を進め、整備済み面積は前年度より27ha増え739haとなった。(全体計画面積918ha) (再掲) ●戸別訪問(449件)及び下水道の日のパネル展示などによる普及啓発や、下水道接続に係る経費への補助(ご近所接続奨励金2件4人など)により、公共下水道への加入促進を図った。(再掲) | | | |
| | | ③ | ●農業集落排水処理施設を効率的に運営するため、農業集落排水15処理施設の維持管理業務を一括して委託した。(委託期間 令和4年度から令和8年度) (再掲) | | | |
| | | ④ | ●公共下水道と農業集落排水施設の最適化に向け、使用料金改定にかかる長期経営シミュレーション等に必要となる資料の収集を行った。 ●2処理区の農業集落排水施設の統合に向け、使用料金の改定や将来の経営状況について、該当処理施設の代表者等に説明を行った。 | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|---------|------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 住宅の耐震化率 | 人が居住している住宅数に対する耐震性を有する住宅数の割合 | 71.9 | 74.7 | 75.7 | 79.0 | % | | |
| 2 | 上水道有収率 | 給水する水量と料金として収入のあった水量との比率 | 70.0 | 66.4 | 69.3 | 73.0 | % | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|---|
| 1 | 耐震診断・プラン作成による耐震改修の実施、耐震性のない住宅の取り壊しと新築住宅の建築等により微増している。 |
| 2 | 老朽管の更新ならびに漏水修繕の結果、有収率が上昇した。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- 概ね順調に取り組みが進んでいる。また、大野市を取り巻く交通ネットワーク等社会情勢の変化を考慮した都市マスタープランを改定、住宅の耐震改修や耐震診断及び耐震プラン作成などの助成を行うなど、具体的な成果も得られていることは評価に値する。
- 国道158号の新丁トンネルから犬山交差点間の無電柱化が令和6年度から実施されることは、大野らしい景観が守られ評価できる。
- 町中で古くなった空き家が気になる。
- 公共下水道の整備に加え、「背割り水路」の歴史的意義等も併せて公表PRすべきである。

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

- 景観に配慮しつつ、安全で快適な住環境整備のための支援がなされている。



◆都市マスタープラン改訂



◆中挾団地1号棟住戸改善



◆下水道の日パネル展示
(市役所市民ホール)

施策評価シート

No. 14

| | | | |
|------|--------------------------|---|----------|
| 評価課 | 防災防犯課 | | |
| 関係課 | 建設整備課、上下水道課、環境・水循環課、消防本部 | | |
| 基本目標 | くらし環境 | 豊かな自然の中で快適に暮らせるまち | |
| 項目 | 消防・減災 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 災害に強い強靱なまちづくりが進み、緊急時の情報伝達や消防・救急の体制が充実したまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|---|------|--|------|---|-----|
| 14-1 | 災害に備えた体制を整備します | ① | ●緊急時の情報伝達体制を万全に整えるため、更新が必要と判断した同報系防災行政無線について、周波数別のシステム整備費用やメリット・デメリットなどを比較し、今後の更新方針を検討した。その結果、現状の60MHzから新しい周波数帯に変更する方向で決定した。 | | | ○ |
| | | ② | ●福祉避難所として活用する民間施設8か所に必要な資機材を配備した結果、当該民間施設で自主的な避難訓練が行われた。 ●冬季避難に備え、資機材を充実させるため、ジェットヒーター1台を導入した。(計17台) ●備蓄物資更新計画に基づき、計画的に物資を更新した。 | | | |
| | | ③ | ●8月の大雨を受け、大雨の予報があった場合、降雨がない時でも、清滝川から市街地に流入してくる取水口などの水門を事前に操作するなど水防体制の見直しを行った。 ●流域治水協議会等で県や他市町の流域治水の取り組みを情報共有しながら、大野市として、浸水被害が発生した新堀川の上流域にある「奥越ふれあい公園のおおらか池」に調整池機能を持たせることや、普通河川の浚渫など、防災・減災に向けた具体的な取り組みを令和5年度より実施することを決定した。 | | | |
| | | ④ | ●赤根川整備計画区間(L=4.4km)の下流側地区の農業用水取水方法について、引き続き関係地区の理解を得るため、県と協力し説明を行った。 | | | |
| | | ⑥ | ●土砂災害防止を図るため、朝日地係の「こたらび谷川」の県での事業化が決定し、市が砂防指定地の申請を行った。 | | | |
| | | ⑦ | ●老朽化し、耐震性のなかった南部配水場～2号水源及び大野駅春日日本線 篠座東交差点～春日二丁目地係に布設されている水道の基幹管路の更新を行った。 | | | |
| | | ⑧ | ●8月の大雨による水害の発生時には、大野・勝山地区広域行政事務組合並びに勝山市と覚書を締結し、災害廃棄物処理マニュアルに基づき、迅速な対応を行った。 | | | |
| | | 14-2 | 消防・救急体制を強化します | ① | ●耐震性防火水槽を横枕・牛ヶ原(坂戸)・桜塚町にそれぞれ1基整備し、火災時の水利が乏しい地区への水利確保を行った。 | |
| ② | ●救急体制の強化を図るため、災害対応特殊救急自動車1台を更新整備し、最新の救命資器材を導入した。 | | | | | |
| ③ | ●消防緊急通信指令システムを適正に管理し、安定稼働を維持することで、災害状況の早期把握と円滑な支援情報の伝達が行われ、災害時の消防力を強化することができた。 | | | | | |
| ④ | ●救急救命士養成研修及び指導救命士養成研修に職員をそれぞれ1名派遣し、救急隊員の技能向上と救急体制の強化を図った。 ●福井県消防学校が行う研修に職員を派遣し、専門的な知識と技術の習得を図った。 | | | | | |
| ⑤ | ●新型コロナウイルス感染対策の徹底を図り、普通救命講習24回、救急講習31回を開催し延べ883人の受講があった。 | | | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|------------|----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 消防水利の充足率 | 消防水利が足りているエリアの割合 | 58.4 | 59.4 | 59.6 | 65.0 | % | | |
| 2 | 防災メール登録者数 | 防災メール登録者数 | 1,471 | 1,698 | 1,837 | 3,000 | 人 | | |
| 3 | 普通救命講習の受講率 | 生産年齢人口に対する普通救命受講者の割合 | 37.0 | 38.4 | 39.7 | 40.0 | % | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|--|
| 1 | 耐震性防火水槽3基と上水道消火栓2基を新設した結果、水利の乏しい地区の水利確保が図られた。 |
| 2 | 自主防災組織リーダー研修会などで加入を促したことで、登録者数の増加につながった。 |
| 3 | 普通救命講習を24回開催した結果、昨年度より受講者が380人増えて、前年度より1.3ポイント増の39.7%となった。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- 概ね順調に取り組みが進んでいる。また、福祉避難所として指定する施設8カ所に必要な資材を配置したこと、災害対応特殊救急自動車1台を更新するなど、具体的な成果も得られていることは評価に値する。
- 防災・減災の見地から朝日地係「こたらび谷川」の県での事業化の決定は評価できる。
- 福祉避難所として活用する民間施設、避難所に必要な資機材の配備はとて評価できる。
- 本項目に関する歴史的取り組みや市の整備状況を公表PRすべきである(例: 武家屋敷旧田村家が大火後富農屋敷部材で改築されたこと、再建時の越前大野城の耐震防火施策など)

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

- 頻発する様々な災害に対して、配慮を必要とする方々に対応した環境が整備されている。
- 防災メール登録者数は微増ながら着実に増えている。



◆福祉避難所(民間施設)
へ資機材の配備




◆福祉避難所に配備した資機材を
活用した避難訓練



◆更新した救急自動車

施策評価シート

No. 15

| | | | |
|------|---------------|--|---|
| 評価課 | 建設整備課 | | |
| 関係課 | 産業政策課、スポーツ推進課 | | |
| 基本目標 | くらし環境 | 豊かな自然の中で快適に暮らせるまち | |
| 項目 | 道路 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 生活や産業の基盤となる安全な道路と広域ネットワークが整備され、通勤圏や市場が拡大し、交流人口の増加によりにぎわうまち |  |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|----------------------------|-----|---|------|----|-----|
| 15-1 | 幹線道路などの整備を促進します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●中部縦貫自動車道大野油坂道路の早期開通、予算確保について、大野市議会、中部縦貫自動車道大野油坂道路整備促進連絡協議会等と連携し、国土交通省や県選出国会議員等への要望活動を行った結果、過去最高の431億円の予算が確保された。 ●国土交通省より4年度中の開通見込みが公表されていた大野油坂道路の大野IC～勝原IC間が3月19日に開通した。 | | | ○ |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●国道158号境寺・計石バイパスにおける橋梁7橋のうち大宮町地係の羽生川に架かる2号橋、3号橋、4号橋の3橋が完成し、道路本体工事に向けて羽生川の付替え工事が順調に進捗した。 ●一般県道皿谷大野線整備で支障となる物件の補償に関する具体的な協議が進められた。また、中ノ堂公園の移設に向けた協議及び設計業務を実施した。 | | | |
| 15-2 | 雪や災害に強い生活道路を整備、維持します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●長寿命化計画に基づき、重要構造物である橋梁の継続・計画的な点検および補修や、その他の道路施設も計画的に補修・更新を行った。橋梁については3橋の補修を行った。 | | | ○ |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●通学路の安全確保のため「通学路安全プログラム」により市内学校や保育施設から対策要望を受け、各管理者との情報共有や担当の割り振りなどの、対策を行った。 ●通学路確保のため、市道 上野・新塚原線などの道路拡幅の工事を進めた。 | | | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●市民が道路の除雪状況をリアルタイムで把握できるよう、令和3年度に運用を開始した除雪車デジタル運行管理システムを活用し、県のホームページ上に、除雪車が通った主要道路を示した地図を公開する取組みを開始した。 | | | |
| | | ④ | <ul style="list-style-type: none"> ●市内の除雪事業者のオペレータ不足を解消するため、大型除雪車の操作に必要な免許の取得や、運転技能講習、排雪に使われる4トンダンプトラックの運転に必要な免許の取得に掛かる経費の一部を補助し、5名が新規でオペレータ登録した。 | | | |
| 15-3 | 健康づくりや低炭素社会の実現などに向けて取り組みます | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●市道七間線石畳舗装区間の改修要望を地元の区や団体から受け、車線運用や舗装構造とともに、歩きたくなる歩行空間の検討に向けて関係住民に聞き取り調査を行った。 | | | ○ |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●自転車に対する関心や自転車に乗る楽しさの経験を通じて、自転車の利用促進を図るため、小中学生等を対象にしたロードバイク体験会やマウンテンバイク教室のほか、一般の方を対象にした自転車メンテナンス教室を開催した。 | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|-----------|-----------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 補修橋梁数 | 橋梁長寿命化修繕計画に基づき実施する橋梁補修数(累計) | — | 9 (累計) | 12 (累計) | 41 (累計) | 橋 | | |
| 2 | 消雪施設補修箇所数 | 消雪施設修繕計画に基づき実施する補修件数(累計) | — | 3 (累計) | 4 (累計) | 6 (累計) | 箇所 | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|--|
| 1 | 補修費用が高い橋梁を補修したため、令和4年度は3橋となったものの、長寿命化計画に基づき、補修費用の平準化を図りながら計画的に実施し、順調に推移している。 |
| 2 | 長寿命化計画に基づき、施設(操作盤)更新を実施しており、順調に推移している。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- 中部縦貫自動車道大野油坂道路の予算が確保されたこと、長寿命化計画に基づき橋梁の点検や補修が行われていることは、災害に強い生活道路が整備され評価できる。
- 除雪オペレーター不足解消の方策として、免許取得の一部補助は評価できる。
- 雪や災害に強い生活道路の取り組みは色々されているが、狭い道などは除雪が追い付いていないように感じる。
- 特に市内中心部の車道・自転車道・歩道の区分けをすべきである。

総合評価

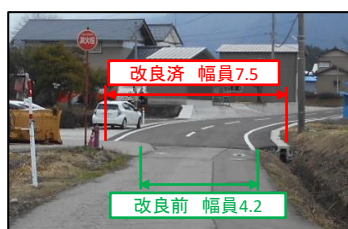
B

施策評価アドバイザーの意見

- 除雪状況のリアルタイム情報公開の活用が期待される。
- 橋梁の補修数は目標値に対して進んでおらず、道路も含めて、利用状況や財政状況も踏まえた供用廃止も必要となるのではないか。



◆ 国道158号 境寺・計石B



◆ 市道 上野・新塚原線



◆ 中部縦貫自動車道大野油坂道路
(大野IC～勝原IC) 開通式典

施策評価シート

No. 16

| | | | |
|------|------------|------------------------|----------|
| 評価課 | 交通住宅まちづくり課 | | |
| 関係課 | 観光交流課 | | |
| 基本目標 | くらし環境 | 豊かな自然の中で快適に暮らせるまち | |
| 項目 | 公共交通 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 誰もが利用しやすい公共交通網が整備されたまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|---|-----|---|------|----|-----|
| 16-1 | 公共交通の維持とまちづくりへの活用を推進します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●越美北線の日常利用を促進するため、補助条件を5人以上の団体から4人以上への変更や、新規に通勤定期券を申込み者に1割増しなど補助を拡充し、472件交付した。 ●越美北線観光利用促進協議会(県、福井市、大野市、JR西日本金沢支社)総会を1回、幹事会を4回開催し、越美北線の観光利用促進及び沿線地域の観光振興を図る施策について協議を行った。 ●越美北線の観光利用を促進するため、乗車記念証「御乗印」を越前大野駅と九頭竜湖駅でそれぞれのバージョンの販売を行った。(延べ販売枚数2,326枚) | ※ | | ○ |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●越美北線全線開通50周年に合わせ、越美北線にまつわる手紙やイラストを募集し、<u>タイムカプセルに収めるイベントを行った。(111通の応募があった)</u> ●大野市内の高校生や沿線でまちづくりに携わる住民の参加を得て、越前大野駅前や周辺のにぎわいづくりに向けたワークショップを開催し、生まれたアイデアを越前大野駅にパネルで展示した。 ●JR越美北線九頭竜湖駅の駅舎とホームを「恐竜化石の魅力的な産出地」の駅として装飾。ホームに恐竜化石をデザインしたパネルやアンモナイトベンチ等を設置し、駅舎には恐竜トリックアートや恐竜を背景に配した顔出しパネル等を設置した。越美北線全線開通50周年に合わせ、12月に披露した。(再掲) | ※ | | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●越美北線を定期的に利用する人に京福バスの回数券の購入を助成する制度や、京福バス勝山大野線の通学利用を補助する制度を創設し、京福バスと越美北線の利用を促進した。また、引き続き65歳以上の市民を対象に、広域路線バスの市内区域に係る運賃を100円で利用できるように差額を助成した。 | ※ | | |
| | | ④ | <ul style="list-style-type: none"> ●大野市地域公共交通活性化協議会を3回開催し、地域の実情や利用者ニーズを共有し、令和6年度からの「大野市地域公共交通計画」の策定と交通ネットワークの再構築について協議をした。また、<u>地域住民による移動支援については、地区別にワークショップを開催し、柿ヶ嶋地区では、地域住民による移動支援を試験的に2週間実施した。</u> | | | |
| | | ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ●サイクルトレインモニターツアーを9月は福井駅発、越前大野駅着で、10月は越前大野駅発、福井駅着とし、自転車列車に持ち込み、下車駅周辺エリアを自転車で周遊するイベントを開催し、それぞれ9人の参加があった。 ●公共交通の利用促進や温室効果ガスの削減、歩くことによる健康増進などを目的に、<u>市内で毎週金曜日をノーマイカーデーと定めて実践し、職員の自動車利用を抑制した。</u> | | | |
| 16-2 | 北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道県内全線開通、人口減少社会を見据え、地域交通のあり方を検討します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●令和6年春の北陸新幹線福井開業を控え、バスや鉄道などの二次交通の充実を図るため、嶺北地域で「ふくいMaaS」の実証実験の取り組みを行った。令和4年度は、スマートフォンアプリ「RYDE PASS」を使い、大野・勝山歴史探検バスなど期間限定のお得な電子企画切符を販売した。(再掲) | ※ | | ○ |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●首都圏や中京圏をターゲットとした新たな周遊ルートの開発として、越美北線と岐阜県の長良川鉄道をつなぐバスツアー(モニターツアー)を7回開催し、延べ90人の参加があった。 ●大野市、福井市、美濃市、郡上市で組織する越前美濃街道広域観光交流推進協議会において「越前美濃街道を巡る旅行商品」の造成に着手し、3月にモニターツアーを3回開催し、延べ50人の参加があった。 | ※ | | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●大野市地域公共交通活性化協議会を3回開催し、地域の実情や利用者ニーズを共有し、令和6年度からの「大野市地域公共交通計画」の策定と交通ネットワークの再構築について協議をした。また、<u>地域住民による移動支援については、地区別にワークショップを開催し、柿ヶ嶋地区では、地域住民による移動支援を2週間、試験的に実施した。</u>(再掲) | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|--------------|---|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 大野市内バスの年間乗客数 | 市内公共交通(まちなか循環バス、乗合タクシー、市営バス、京福バス大矢戸線)の年間乗客数 | 24,674 | 21,989 | 24,025 | 30,000 | 人 | ※ | |
| 2 | 広域路線バスの年間乗客数 | 広域路線バス(京福バス)の年間乗客数 | 205,329 | 159,182 | 166,704 | 225,000 | 人 | ※ | |
| 3 | JR越美北線の年間乗客数 | JR越美北線(全駅)の年間乗客数 | 336,307 | 261,483 | 279,091 | 346,800 | 人 | ※ | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

| (成果指標の検証) | |
|-----------|---|
| 1 | 利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していたが、コロナ禍前の令和元年度程度まで回復してきた。令和3年度に比べ2,036人増加している。 |
| 2 | 新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度より減少しているものの、令和3年度に比べ7,522人増加しており回復傾向にある。 |
| 3 | 新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度より減少しているものの、令和3年度に比べ17,608人増加しており回復傾向にある。 |

| | |
|--------------------|----------|
| ①②を踏まえた内部評価 | B |
|--------------------|----------|

| 総合計画・総合戦略推進会議委員の意見 | 総合評価 |
|---|----------|
| <ul style="list-style-type: none"> ●概ね順調に取り組みが進んでいる。なお、越美北線や京福バス利用者への助成等を創設したこと、公共交通の利用を促進するなどの取り組みなど、具体的な成果を得られている点も評価に値する。 ●公共交通利用促進に向け、助成金事業を積極的に取り組まれていることは評価できる。 ●公共交通を利用する事がほとんどないため、色々な取り組みがされている事が良く分かる。 ●結ステーションと「市内中心部歴史施設の往復ルート」「越前大野城登下城ルート」「犬山登山口の往復ルート」を稼働する電動カートを導入すべきである(CO2排出削減、ガイド付き有料観光周遊イベント造成が可能)。 ●「まちなか循環バス」ルートの一部を観光利用すべきである。(例:六呂師高原での星空体験と結ステーション) | B |
| 施策評価アドバイザーの意見 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●越美北線の定期利用者への助成と観光客向けキャンペーンとが積極的に進められているが、コロナ前の乗客数までは回復できていない。 ●路線バスや観光バスに関しては、実証実験やモニターツアー等将来を見据えて取り組まれている。 | |



◆JR勝原駅前の植栽




◆50周年記念タイムカプセル事業



◆バスの乗り方教室
(京福バス大野線)

施策評価シート

No. 17

| | | | |
|------|--|------------------------------------|---|
| 評価課 | 地域文化課 | | |
| 関係課 | 生涯学習・文化財保護課、総務課、教育総務課、政策推進課、健康長寿課、交通住宅まちづくり課 | | |
| 基本目標 | 地域づくり | みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち | |
| 項目 | ひと・地域 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 市民が、生涯にわたって主体的に学び、地域づくりに積極的に取り組むまち |  |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 | |
|------|----------------------|-----|--|------|----|-----|---|
| 17-1 | 地域を担う人づくりや生涯学習を推進します | ① | ●豊かで活力に溢れた住みやすい地域づくりを推進するため、結の故郷地域が輝く交付金事業で財政支援し、市内9地区で地区まわりの開催や名所史跡を活用した事業、まちづくり講演会、環境美化活動や地域ぐるみで行う屋根雪おろしなど 全48事業が行われた。 | ※ | | | |
| | | ② | ●幅広い世代の人に公民館へ来てもらえるよう、 健康や食、文化、環境、デジタルなど多様な講座 を企画・開催し、 前年度より2,008人増加し、延べ12,594人の参加があった。 ●市民が各地区の魅力を知ることや、地区を超えた交流を促進するため、 公民館リレー講座を実施し、9つの公民館で延べ143人の参加があった。 | ※ | ※ | | |
| | | ③ | ●住民主体による地域課題解決に向けた取り組みを公民館が支援し、 下庄地区と上庄地区で活動が開始された。 既に取り組んでいる大野地区と阪谷地区、和泉地区では、地域の現状を把握するためのアンケートや座談会などの取り組みが行われた。 | | | ※ | ○ |
| | | ④ | ●市民に学習機会を提供するため、人材活用事業として、団体や事業所等からの依頼に応じて「生涯学習ガイドブック」の登録指導者を、前年度より24回増加し、延べ173回派遣した。本事業の活用を促すため、広報おおのや生涯学習センター情報(月刊発行)に情報を掲載した。 ●市民に学習機会を提供するため、 市民学校、国、県や市の職員を講師として派遣する わく湧くお届け講座を、前年度より16回増加し、延べ83回開催した。 | ※ | ※ | | |
| | | ⑤ | ●男女共同参画を推進するため、 女性リーダー育成セミナーなどの研修会を3回(69人参加)を開催した。 ●人権を尊重する人づくりのため、福井人権擁護委員協議会大野市部会による 街頭啓発などの啓発活動(26回)を行った。 | | | | |
| 17-2 | 地域での交流を深め、支え合いを広げます | ① | ●住民の世代間交流などを目的とした、結の故郷地域が輝く交付金の集落内交流事業の利用実績はなかった。 | ※ | ※ | | |
| | | ② | ●登下校時の児童生徒の安全確保や危険個所の早期把握を図るため、見守りボランティアによる登下校の見守り活動を実施した。(再掲) | | | | |
| | | ③ | ●住民主体の助け合い・支え合いの地域づくりに向けた話し合いの場である「第2層協議体(公民館単位)」を設置するため、 下庄地区で住民勉強会を開催した。この結果、第2層協議体が設置され、既設6つと合わせて計7つとなった。 (再掲) ●移動支援のため、タクシー利用助成券の配布対象を同居家族の有無に関わりなく、自動車運転免許証を有しない 全ての高齢者(65歳以上)に拡充した。 (実績:配布者数345人、助成券利用枚数1,064枚)(再掲) ●地域の支え合いによる移動支援に関心の高かった阪谷地区の柿ヶ嶋区において、地域住民が運転を担う助け合いによる移動支援を14日間、試験的に実施した。(再掲) ● 地域住民の互助による屋根雪下ろし支援事業 は、34自治会が実施した。 | | | | |
| | | ④ | ●岐阜県高山市及び美濃市、滋賀県守山市との交流事業として開催した、金森長近公をテーマとした講演会に市内外から120人が参加し、 令和6年度の金森長近公生誕500年に向けた自治体連携 のきっかけを創出した。 ●岩倉桜まつりイベント(愛知県岩倉市)への市民交流バスの運行や、古河花火大会(茨城県古河市)期間中の姉妹都市首長議長懇談会は、感染症拡大防止の観点から、前年度に引き続き中止となった。 | ※ | ※ | | |
| | | ⑤ | ●本市在住の外国人に日本語を教えるボランティアを養成するため、前年度の養成講座受講者を対象に実践的なスキルアップ講座を開催し、大野市日中友好協会主催の 日本語講座での講師を新たに1名確保した。 ●ALT3名が毎日各学校を回り、小学5・6年生をメインに授業に参加し、英語発音や国際理解教育の向上を図った。 ●「夏休み子どもチャレンジ教室」や公民館主催の外国語講座等にて、 ALTが小学生と交流を図った。 | | | | ○ |

| | | | | | | |
|------|-----------------------|---|---|---|---|---|
| 17-3 | 地域住民が利用しやすい活動拠点をづくります | ① | ●幅広い世代の人に公民館へ来てもらえるよう、健康や食、文化、環境、デジタルなど多様な講座を企画・開催し、前年度より2,008人増加し、延べ12,594人の参加があった。 ●市民が各地区の魅力を知ることや、地区を超えた交流を促進するため、公民館リレー講座を実施し、9つの公民館で延べ143人の参加があった。(再掲) | ※ | ※ | ○ |
| | | ② | ●地域活動の拠点施設の確保・充実を目的に、(一財)自治総合センターのコミュニティ助成事業を活用し、4つの自治会の集会所内の備品整備に対して助成した。 | | | |
| | | ③ | ●図書リクエストなどの傾向を参考に、市民のニーズに応じた図書の選定を行った。また、6月より毎月、「ボードゲームくらぶ」を開催し、ボードゲームを通じた世代間交流を促した。 | ※ | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|---------|---------------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 公民館利用回数 | 市民一人当たりの年間公民館利用回数(他所で行った公民館事業参加者数を含む) | 3.61 | 3.36 | 3.22 | 3.66 | 回 | ※ | ※ |
| 2 | 図書館利用回数 | 市民1人当たりの年間図書館利用回数 | 2.98 | 2.63 | 2.84 | 3.2 | 回 | ※ | |
| 3 | 検討会の開催 | 地域課題解決に向けた住民主体の検討会を開催した地区 | — | 3 | 5 | 9 | 地区 | | ※ |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

| (成果指標の検証) | |
|-----------|---|
| 1 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、講座や地区のイベント、団体行事の中止、貸館回数は減少し、基準年の数値を下回った。 |
| 2 | 前年度の2.63回を上回ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった行事等があったことから、基準年の数値を下回った。 |
| 3 | すでに取り組んでいる和泉地区、令和3年度から取り組みを開始した大野地区と阪谷地区に加えて下庄、上庄の2地区で新たに自主的な取り組みが開始され、順調に進捗している。 |

| | |
|--------------------|----------|
| ①②を踏まえた内部評価 | B |
|--------------------|----------|

| 総合計画・総合戦略推進会議委員の意見 | 総合評価 |
|---|----------|
| <p>●地域課題解決に向けた住民主体の活動が各地区で開始・検討されていることは喜ばしいが、実際の活動が早急に行われるように進めてほしい。</p> <p>●図書館は図書の貸し出しだけでなく、各世代が参加できるイベントを開催しており、図書館利用者数にも貢献している。</p> <p>●コロナの影響を受けつつも公民館で幅広い年代に向けた事業が行われている。利用する人が限定されないよう、幅広い世代に向けた事業やPRを更に進めてほしい。</p> <p>●公民館ならびに図書館の利用頻度については、従前に比し多種多様な企画をされていることを実感している。コロナ禍にあってもこの成果数を維持しているのは評価できる。</p> <p>●地域課題解決に向け活動開始される地区が増加しているのに加え、タクシー利用助成券の配布、地域住民互助の屋根雪下ろし支援等、支え合いが醸成されてきている。今後の動向を注視したい。</p> | B |
| <p style="text-align: center;">施策評価アドバイザーの意見</p> <p>●住民による地域課題解決のための取り組みが着実に進められている点は評価される。</p> <p>●一方で、集落内世代交流の交付金利用実績がなかったとのこと、要件と実態とで齟齬が生じていないか現状把握も必要ではないか。</p> | |



◆大野地区 地域課題解決



◆下庄地区 青空市出展に向けた野菜づくり講習会



◆第5回図書館まつり

施策評価シート

No. 18

| | | | |
|------|---------------|----------------------------------|----------|
| 評価課 | 防災防犯課 | | |
| 関係課 | 市民生活・統計課、消防本部 | | |
| 基本目標 | 地域づくり | みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち | |
| 項目 | 防災力・防犯力 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 地域の防災力・防犯力が高まり、災害や事故に備えた体制が整ったまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|----------------------|-----|---|------|----|-----|
| 18-1 | 地域における防災力の充実と強化を図ります | ① | ●6つの地区で自主防災組織と消防団が連携し、避難広報や消火活動などの防災訓練を実施した。 ●地域防災の組織強化と一元化を図るため、21隊の地区自衛消防クラブを自主防災組織に統合した。 | | | ○ |
| | | ② | ●地域防災力の強化を図るため、33地区に対して総合防災マップの説明と合わせて、地域の危険箇所や避難場所などを記した「地域防災マップ」の作成を働きかけた結果、 <u>2つの自主防災組織で地域防災マップが作成</u> された。 ●災害時に避難行動要支援者を安全に避難誘導するため、「 <u>大野市避難行動要支援者の避難支援プラン作成計画</u> 」を改定し、避難行動要支援者の対象となる者の範囲や避難支援プランの作成方針、各関係機関・団体などの役割について見直した。 | | | |
| | | ③ | ●感染症対策を講じたうえで、 <u>富田公民館を現地会場とした大野市総合防災訓練</u> を実施し、防災関係機関が協力した災害時の初動対応の確認と、住民の防災意識の向上などを行った。 <u>住民避難訓練には1,765人が参加</u> した。 ●避難所運営管理責任者、避難所開設・運営職員、施設管理者を対象に、職員研修会を開催した。その中で、感染防止対策を周知し、コロナ禍での災害発生に備えるため、屋内間仕切りの設営研修を行った。 | | | |
| | | ④ | ●女性消防団員のきめ細かを生かし、防火防災意識の高揚を図るため、延べ21人の女性消防団員が、大野地区(7行政区)、下庄地区(18行政区)の <u>高齢者宅143世帯で住宅防火診断を実施</u> した。 | | | |
| 18-2 | 犯罪や事故を防止します | ① | ●毎週水曜日に防犯隊による <u>青色防犯パトロールを年間34回実施</u> した。また、防犯隊、安全で安心なまちづくり推進会議などによる市内の夜間防犯パトロール及び市内量販店での啓発活動を行った。 | | | ○ |
| | | ② | ●市民の消費者トラブルを防止するため、市内の高校2校にて10回、高齢者を対象に消費者教育講座を12回実施した。また、大野市消費者グループ連絡協議会、大野市消費者モニターと連携し、 <u>5月、12月、2月に悪質商法被害防止の啓発活動</u> を実施した。 | | | |
| | | ③ | ●年間を通して、園児や小中学生、高齢者を対象として、 <u>76回の交通安全教室を実施</u> し、交通安全の啓発を行った。 ● <u>あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と包括連携協定を締結</u> し、市民や警察署員などの協力の下、「電子タグ」を自動車に取り付けて走行データを収集し、危険箇所を割り出して、「交通安全マップ」を作成した。 | | | |
| | | ④ | ●交通事故防止を図るため、 <u>大野市交通指導員による通学路の早朝街頭指導(月2回)や自転車一斉指導(月1回)</u> 、シートベルトやチャイルドシートの着用の呼び掛けなど、街頭啓発を実施した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、薄暮指導、飲酒パトロール等一部の活動を中止した。 | ※ | | |
| 18-3 | 空き家などの対策を推進します | ① | ●不特定多数に影響を及ぼす危険な空き家の所有者に対し、通知等により6件改善を促した結果、 <u>4件について現状を改善</u> した。 ●周辺住民の生活環境の改善を図るため、危険な空き家になりそうな空き家に対して、補助を活用した除却を促した結果、 <u>8件が除却</u> に至った。 ●新たに特定空家等を6件認定したことにより総件数が21件となったが、空き家所有者への指導により4件の特定空家等が解体されたことで、周囲に危険性がある空き家は減少し、総件数は17件となった。 | | | ○ |
| | | ② | ●空き家の売却、譲渡を促進するために、福井県宅地建物取引業協会との空き家の所有者情報等の提供に関する協定に基づき、6件の情報提供を実施した。 ●空き家所有者の悩み事の解決を図るため、一般社団法人おおの空き家解決町衆の会等と連携して、 <u>空き家相談会を2回開催</u> した。 | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|---------------|-------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 自主防災組織の活動 | 結成した自主防災組織の活動割合 | 20.0 | 57.0 | 61.0 | 100.0 | % | | |
| 2 | 総合防災マップ説明会の開催 | 総合防災マップ説明会の開催地区割合 | 2.0 | 7.1 | 22.7 | 100.0 | % | ※ | |
| 3 | 刑法犯認知件数 | 市内の刑法犯年間件数 | 77 | 69 | 72 | 70以下 | 件 | | |
| 4 | 存在する特定空家等の件数 | 存在する特定空家等の件数 | 16 | 15 | 17 | 0 | 件 | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

| (成果指標の検証) | |
|-----------|---|
| 1 | 自主防災組織の活動数は去年一昨年と比較して増加したが、新規の活動が少ないため、4%のみの増加となった。 |
| 2 | 各行政区への講師出張に加え、下庄地区に対しての全体説明会を実施したことにより、15.6%の増加につながった。 |
| 3 | 主な要因として、万引きや車上ねらい、事務所荒らし等の窃盗犯罪が多く発生したことにより、認知件数が増加した |
| 4 | 新たに特定空家等を6件認定したことにより総件数は21件となったが、空き家所有者への指導により4件の特定空家等が解体され、総件数は17件に減少した。 |

①②を踏まえた内部評価

C

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- さまざまな防災対策に肅々と取り組んでいる様子が見て取れる。
- 全国で災害が多発しており、総合防災マップの説明会を積極的に行ってほしい。
- 防災強化に向けてさまざまな施策が活発に実施され、地域住民の意識が高まっていると感じている。
- 空き家が古くなり過ぎないうちに対策を検討していくしかない。
- 地域防災マップの作成、要支援者避難プラン作成計画の改定等、今までのものをアップデートし、実際に使えるものに作り直そうとする動きがあり大変望ましい。他の分野でも今までの全ての基準を見直し、陳腐化してしまい現実に使えないものはないかを点検することは重要である。
- 女性消防団員の高齢者世帯の住宅防火診断は適材適所の見本のような取組みであり、今後も女性目線が活かせる活動を期待したい。
- 「犯罪・事故防止」について、パトロールや街頭指導等やれることは十分にやっていると感じる。成果指標的には一進一退の様子であるが、継続こそが大事である。
- 特定空家の件数については、成果指標の令和7年度目標「0件」を見直すべきである。取組みには一定の進捗が認められるものの、最終目標が「0件」とあり得ないものになっているため、正確な評価をすることが出来ない。実現不可能な目標ではなく、努力で到達できる範囲の目標を設定するべきである。

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

- 防災マップ説明会の開催地区割合が大幅に増加している点が評価される。
- 防災のみならず、詐欺や悪質商法対策、空き家対策等についてもワークショップや実践型ボードゲーム等を組み合わせ、住民自ら考えて行動することを促す工夫なども必要ではないか。



◆大野市総合防災訓練





◆大野市安全で安心なまちづくり推進会議委員による市内量販店での街頭啓発活動



◆空き家相談会

施策評価シート

No. 19

| | | | |
|------|---------------------------|--|---|
| 評価課 | 生涯学習・文化財保護課 | | |
| 関係課 | 地域文化課、環境・水循環課、教育総務課、政策推進課 | | |
| 基本目標 | 地域づくり | みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち | |
| 項目 | 文化芸術 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 市民が文化や芸術に親しみ、文化財や伝統文化が継承され、郷土の歴史や文化の魅力が発信されているまち |   |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 | |
|------|--------------------|-----|---|------|----|-----|---|
| 19-1 | 文化芸術の振興と継承を推進します | ① | ●新たな文化会館の整備に関する検討状況を市民に周知するため、基本計画策定後の経緯や現状をホームページに追記した。 | | | | |
| | | ② | ●市民や観光客に文化芸術に触れる機会を提供するため、 <u>COCONOアートプレイスで民間事業者のノウハウやアイデアを生かした企画展等(5回)、ワークショップ(13回)、小学生が絵画や音楽に親しめる演奏会(2回)</u> など、さまざまな催しを開催し、年間2,882人の来場があった。 ●市美術展出品者の創作意欲の促進につなげるため、入賞者に贈るトロフィーや盾を賞金、図書カードに変更し、前年度より9点多い241点の出品があった。市総合文化祭は、3年ぶりに芸能部・展示部の全行事を開催し、6,819人の来場があった。 ●市民に優れた公演等を鑑賞できる機会を提供するため、文化公演事業として <u>森山良子によるコンサート、立川志らく・談笑による落語を開催</u> し、あわせて前年度より573人多い1,029人の来場があった。 ●児童生徒に文化芸術に興味を持ってもらうため、ヴァイオリニストの松谷由美氏が全小学校4年生に対して、ホルン奏者の長谷川陽一氏が全中学校1年生に対して音楽の授業を実施した。(再掲) | | ※ | | |
| | | ③ | ●市民主体の活動を積極的に支援するため、各種文化団体が開催する演奏会や教室などに助成を行い、前年度より2団体多い9団体の実績があった。 ●アートや文芸、音楽といった文化芸術活動を発表できる機会の創出とまちなかの活性化を図るため、COCONOアートプレイス、民間2店舗の3つの会場を「まちなかステージ」として開放し、10回の催しが行われ、延べ13人が発表した。 | | ※ | | ○ |
| | | ④ | ●ふるさとを知り、家庭や地域のきずなを深めるため、公民館で歴史講座や食文化継承講座の開催、ジュニアリーダー活動を行った。「結の故郷 小学生ふるさと芸能発表会」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。(再掲) | ※ | ※ | | |
| | | ⑤ | ●県指定文化財建造物「南専寺山門」の修理工事について、歴史的建造物の修理として必要な助言や技術指導を行い工事を完成した。また、県とともに修理費用を支援することで、文化財の保存にかかる所有者の負担を軽減させ、後世に守り伝える後押しとした。 | | ※ | | |
| | | ⑥ | ●文化財の保存と活用を目的に作成した <u>文化財保存活用地域計画(以下、地域計画とする。)</u> が文化庁の認定を受けた。地域計画を推進するため、文化財保存活用地域計画推進協議会を開催し、取り組み状況の確認や情報交換を行い、地域計画を推進する意思統一と来年度事業の方向性についての協議につながった。 | | | | |
| 19-2 | 文化遺産・自然遺産を保護し活用します | ① | ●貴重な文化財を保存継承するため、申請に基づき調査を進め、12年ぶりに、 <u>市指定文化財について新たに1件「旧大野城式台前門(喜多山家長屋門)」を指定した。</u> ●地域に伝わる伝統文化を保存継承するため、市内に伝わる伝統文化について、 <u>おおの遺産として、大宝寺の「新四国八十八ヶ所お砂踏み法要」と小矢戸地区の「水神さんの参詣」の2件を認証した。</u> ●文化財の散逸や滅失を防止するため、寺社において所蔵される文化財について、書面による把握調査を186件実施し、126件の回答を得た。この内、2件の現地調査を行い、所有者等へ調査結果を報告することで、文化財の価値を周知し、保存につなげた。 ●市内神社1件の文化財105点を専門家とともに調査し、保存方針の検討材料となる所見を得ることができた。 | | ※ | | |
| | | ② | ● <u>手取層群伊月層から見つかった獣脚類恐竜の歯化石について、ティラノサウルスや現生の鳥類までを含む分類群「テタヌラ類」の化石と特定したことを発表し、本市における恐竜化石研究の重要性を示した。</u> また、伊月化石壁で現地解説付きの観察会の開催や「テタヌラ類」の歯化石を歴史博物館に展示し、活用につなげた。 ●イトヨ保護に向けた最新の取り組みや研究成果を発信するため、本願清水イトヨの展示パネルの更新とタッチパネルを導入する展示リニューアルを平成13年7月の開館以降で始めて行った。展示パネルは子どもにも読めるように振り仮名を付けた。 ●イトヨの保護、地下水及び湧水文化の重要性を広く市民に啓発するため、本願清水イトヨの里で、 <u>企画展とリニューアルオープン記念講演会を開催した。</u> また、小学生向けにイトヨ観察会を3回開催した。 | | | ◎ | |

| | | | | |
|------|--|--|---|---|
| 19-3 | 郷土の歴史や文化の魅力を発信します | <p>●多くの人に学び楽しんでいただけるよう、見やすくわかりやすい展示を念頭に、<u>民俗資料館の展示替え</u>を行った。また、<u>リーフレットを一新し、月ごとに変わる民具カードの配布を開始</u>し、入館者数は3,022人となり、前年度より23%増加した。</p> <p>① ●市の歴史・文化を多角的に発信するため博物館の企画展を3回、「博物館講座」を6回、各種団体の講座への学芸員の派遣を21回実施した。</p> <p>●岐阜県高山市及び美濃市、滋賀県守山市との交流事業として開催した、金森長近公をテーマとした講演会に市内外から120人が参加し、令和6年度^{（注）}の金森長近公生誕500年に向けた自治体連携のきっかけを創出した。（再掲）</p> | ※ | ○ |
| | <p>●文化庁100年フードに認定された「半夏生さばの食文化」について、半夏生さばの<u>販売店舗等と連携して、認定書及びロゴマークを活用したPRや関係ホームページ、SNS等での情報発信</u>を行い、食文化への理解と、半夏生さばのPRにつなげた。</p> <p>② ●公式フェイスブック「大野市の文化財」で指定・登録文化財に関する情報を発信した。リーチ（閲覧）数は3,479回、エンゲージメント（いいねなどの反応）数は1,134回、エンゲージメント（反応）率は32.6%だった。</p> | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|-------------------|---------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 公演などの参加人数の割合 | 人口に対する市が主催および支援する文化公演の年間参加人数の割合 | 37.5 | 4.4 | 18.7 | 45.0 | % | ※ | |
| 2 | 博物館等における企画展や講座開催数 | 博物館等における企画展や講座開催数 | 3 | 9 | 9 | 5 | 回 | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

（成果指標の検証）

| | |
|---|--|
| 1 | コロナ禍の影響は受けているものの、徐々ににぎわいを取り戻しつつある中、コロナ禍前の規模に戻し開催した公演事業等があったため、前年度に比べ参加人数の割合が増加した。 |
| 2 | 企画展については、博物館連携の展示や新収蔵資料展、最新の研究成果を基にした大野市産恐竜化石展示を、講座については、化石や地質、食文化、仏像、郷土史などを開催した。いずれも、最新の情報を提供し、多角的な内容で開催した。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

総合評価

●コロナの影響を受けて参加人数は少ないものの、市や文化団体の地道な努力によりイベント数は徐々に増加している。これらの文化・芸術の発表となる施設（文化会館）は必要だと思う。

●コロナの影響が軽減され、文化公演事業の参加者が増えて喜ばしい。

●恐竜の化石調査や観察会が実施されていて興味深い。勝山市とも連携し、恐竜ツアーなど、一緒に盛り上げていけると良い。

●文化芸術の振興と継承については、企画展、コンサート、講座の開催など、さまざまな取組みがされているが、この分野では発表者（集客を期待する側）と見る人、聴く人（発表内容を期待する側）がともに満足することが大事であり、集客方法もただ漫然とチラシを配るのではなく、プロデューサー的な人材を配置し、来場者のターゲット別に会場へ足を運びたいような案内をすべきである。

●文化遺産・自然遺産の保護活用ならびに郷土の歴史や文化の魅力を発信については、十分な成果を挙げていると考えられ、今後も継続的な活動を期待する。

B

施策評価アドバイザーの意見

●演奏会や企画展など、多世代が参加できる催し物が積極的に開催されており、参加者数も徐々に回復しつつある。



◆COCONOアートプレイス
民間チャレンジ事業企画



◆本願清水イトヨの里
リニューアルオープン式典



◆文化庁100年フード
「半夏生さばの食文化」PR風景

施策評価シート

No. 20

| | | | |
|------|--|---|----------|
| 評価課 | 地域文化課 | | |
| 関係課 | 防災防犯課、交通住宅まちづくり課、産業政策課、生涯学習・文化財保護課、政策推進課 | | |
| 基本目標 | 地域づくり | みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち | |
| 項目 | 移住定住 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 「大野に住みたい、住み続けたい」という人が増え、移住者を受け入れる環境が整ったまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|-----------------|--|--|------|----|-----|
| 20-1 | 住まいや仕事の確保を支援します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●移住施策を部局横断的に進めるため、関係部局の職員による「JUサポートチーム会議」を3回開催し、移住相談の情報を共有しながら、年間145件の相談に対応した。 ●移住希望者が情報を得やすくなるよう、市の移住応援サイトに「<u>移住資料請求フォーム</u>」を新設し、18件の利用があった。 ●令和4年度に市の支援を受けて移住した人は34人(20世帯)で、令和3年度の33人(17世帯)を上回った。 | | | |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●移住者の住まいとして空き家を利活用するため、<u>空き家の家財道具処分を支援する補助制度を創設</u>し、15件の利用があった。 ●<u>空き家情報バンクに過去最高となる26件を新規登録し、令和4年度以前の登録物件も含めて18件が成約につながった。</u> ●空き家の利活用の啓発活動として、地域おこし協力隊員が空き家情報紙「あきやたより」を定期的に発行し、公共施設等に掲示した。 ●空き家の利活用や相続など、空き家所有者の悩みや不安を解決するため、宅地建物取引士、司法書士などの専門家が対応する「<u>空き家相談会</u>」を2回開催し、前年度よりも5件多い21件の相談を受け付けた。 ●若者目線のアイデアをまちづくりに生かすため、福井工業大学と関西大学の学生に空き家の利活用策を提案してもらうワークショップを開催した。 | | ※ | ○ |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●移住者等への住まいへの支援として、<u>定住のための住宅取得やリフォームを20件補助</u>した。 | | ※ | |
| 20-2 | 地域での受け入れ環境を整えます | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●移住者を受け入れる体験会や交流会を行う地区・集落はなかった。 | ※ | ※ | |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●移住者が安心して暮らせるよう移住者同士の交流を促すため、市が移住定住支援業務を委託する奥越前まんまるサイトが、サイトサイクリング(9月)、餅つき(12月)、スノーシュー(2月)の体験交流会を開催し、延べ31人が参加した。 ●3月には<u>ふくい移住サポーターと移住者が気軽に話し合う交流イベント</u>を開催し、子育て世代を中心に18人が参加した。 | ※ | ※ | ○ |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●有害鳥獣対策業務で1名の地域おこし協力隊員に委嘱したが、約1年で退任した。(令和4年度末時点の隊員数は3人) | | ※ | |
| 20-3 | 大野の魅力を伝えます | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●若者に大野市のSNS登録を促すため、「<u>20歳のつどい</u>」の参加を市公式LINEに登録して<u>申し込み</u>してもらう手続きにした。 ●ふくい嶺北連携中枢都市圏が定期的に開催する「若者のための就職相談会」について、広報おおのや市ホームページに参加募集記事を掲載するとともに、関係施設にチラシを配架した。 ●Uターン促進策として、<u>Uターン希望者が市内で就職活動するための交通費を補助する制度</u>を設け、3件の利用があった。 | | ※ | ○ |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●移住希望者の不安と心配を解消するため、さまざまな移住支援をまとめたパンフレット「<u>大野に来て見て住んで応援パッケージ</u>」を作成し、移住定住サイトや「福井暮らしはたらくサポートセンター」などを通じて情報発信を行った。 | | ※ | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●大都市圏で大野市の魅力や移住定住施策を発信するため、<u>県が主催する移住フェア</u>や、<u>ふくい嶺北連携中枢都市圏の構成市町が共同で出展する移住フェア</u>に参加し、移住相談に対応した。(東京2回、大阪2回、名古屋1回) | | ※ | |
| その他 | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ●大野市に移住し、市内外の企業へ就業した人や起業した人への支援として、「<u>U・Iターン移住就職等支援金【全国型】</u>」で10世帯、「<u>U・Iターン移住就職等支援金【東京圏型】</u>」で2世帯に補助した。 ●大野市総合計画・総合戦略推進会議に設置された専門部会「<u>移住定住部会</u>」を3回開催した。市内各団体の委員と市職員が移住定住策を検討し、提案等を報告書にまとめた。 | | | ○ | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|------------------------|-----------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 定住のための住宅取得等 助成件数 | 定住のための住宅取得及びリフォームに 対する助成件数(累計) | — | 13 (累計) | 33 (累計) | 50 (累計) | 件 | | |
| 2 | 総人口に対する20～40代 人口の割合 | 総人口に対する20～40代人口の割合 | 29.5 | 28.7 | 28.4 | 29.5 | % | | ※ |
| 3 | 移住相談件数 | IJUサポートチームが受けた移住相談件 数(累計) | — | 134 (累計) | 279 (累計) | 500 (累計) | 件 | ※ | ※ |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|---|
| 1 | 3世帯同居改修や空き家取得費用及びリフォーム工事に対して、前年度より7件多い、20件を支援し、令和7年度目標に向けて順調に推移している。 |
| 2 | 前年度の数値を下回った。転出者アンケートによると、20代から30代の世代が、就職や転職、結婚を機に本市を転出している。若者世代の人口比率を上げるためには、子育て支援、雇用の確保、活力ある地域づくりなど、各施策を総合的に展開していく必要がある。 |
| 3 | きめ細かなサポートや情報提供などを行った結果、IJUサポートチームが受けた年間移住相談件数は、前年度より11件多い、145件となり、令和7年度目標に向けて順調に推移している。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

●大野を知らない人にも大野に足を運んでもらえる魅力的な施策が足りないと思う。水、星空などの自然の魅力や、充実した子育て施策を上手くPRしてほしい。
●空き家情報バンクの成約実績が上がっているのは様々な取組みの成果と感じる。
●Uターン移住者が長く定住してくれるようなサポートが必要である。
●若い世代の流出に歯止めをかけ、U・ターンを増やすことが必要である。
●この項目は「成果指標の検証」に記載してあるコメントに尽きる。確かに「コターン・Uターン」という「入り」の移住受入れの施策を充実しても、「出」の若年層の市外への流出を抑えられなければ何の意味もない。幸い移住定住関係の成果は堅調なので今後も目標達成に向けて努力し、若年層の市外流出防止のための施策の検討に一層注力していただきたい。

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

●移住相談会参加者数は前年度より増加しており、支援制度や体験会・交流イベントの開催、パンフレットによる情報発信が実際の移住者も増加につながっている。



◆移住者交流会「ふくい移住サポーターとお話ししましょ」



◆空き家相談会



◆総合計画・総合戦略推進会議「移住定住部会」

施策評価シート

No. 21

| | | | |
|------|-----------------|--|----------|
| 評価課 | 政策推進課 | | |
| 関係課 | 総務課、産業政策課、観光交流課 | | |
| 基本目標 | 行政経営 | 結のまちを持続的に支える自治体経営 | |
| 項目 | 情報共有 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 市内外に大野の魅力が発信され、市民に行政情報が正確に伝わり理解され、市民の意見が市政に生かされているまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|-------------------------------|-----|--|------|----|-----|
| 21-1 | 情報発信や情報提供の充実を図ります | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●あらゆる世代に必要な情報が届くよう、広報おおのや市ホームページ、LINE、YouTube、新聞折込チラシなど、さまざまな情報発信手段を活用して、広報活動を進めた。 ●視覚障がいのある人向けに、音訳ボランティアが制作した広報おおの読み上げ音声をデータ化し、市ホームページに掲載した。 ●子育て世代に有用な情報を提供するため、市ホームページに、市が所管する公園の情報(所在地、設備、遊具写真など)をまとめたページを新たに作成した。 | | ※ | |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●中京、石川を中心にCMを放送するとともに、(株)平成大野屋に委託し、ECサイトで特産品をPRするなど、情報発信を行った。 ●県外(関西、中京、石川)メディア、県内メディアを訪問し、市の観光や施策等のPRを行った。 ●インスタグラムやフェイスブック、ツイッターによる観光誘客を目的とした広告を24回掲出し、1年を通してイベントやグルメ、観光資源などの情報発信を行った。(再掲) | | ※ | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●テレビ番組や新聞広告等において、本市の豊かな自然環境や水がきれいであることなどをPRし、イメージアップによりブランド化を図った。 ●中部縦貫自動車道県内全線開通および北陸新幹線福井敦賀開業を見据え、四季毎の観光ポスターの制作を行った。(再掲) ●旅行会社に対する観光営業活動として、オンライン商談会や対面商談会への参加、個別営業活動を延べ8回、60社に実施した。(再掲) ●福井市が主体となり令和5年3月に福井駅前で行われた北陸新幹線福井開業1年前イベントに、勝山市、永平寺町とともに参加し、観光PRを行った。(再掲) ●令和5年3月に中部縦貫自動車道大野IC-勝原IC開通記念イベントに合わせて実施された「道の駅越前おおの 荒島の郷」の観光PRイベントに「越前美濃街道広域観光交流推進協議会」で出展を行った。(再掲) | | ※ | ○ |
| | | ④ | <ul style="list-style-type: none"> ●新たな関係人口の拡大を図るため、ふるさと納税を活用して魅力的な返礼品の情報発信を強化した結果、寄付金額は過去最高の約1億1,900万円となった。 ●大阪府に本社を置く企業から、関西大学連携事業への活用を目的とした企業版ふるさと納税100万円の寄附があった。 | | ※ | |
| | | ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ●市の地理情報を「越前おおの結マップ」で公開し、市のホームページで統計情報を公開するとともに、大野市独自に「地区別・行政区別人口統計」に関するオープンデータを公開した。 | | | |
| 21-2 | 施策などの情報を市民と共有し、市民の意見を市政に反映します | ① | <ul style="list-style-type: none"> ●大野市総合計画・総合戦略推進会議に設置された専門部会「移住定住部会」を3回開催し、市民などの意見を取り入れて移住定住策を検討し、提案等を報告書にまとめた。(再掲) | | | ○ |
| | | ② | <ul style="list-style-type: none"> ●脱炭素ビジョンや都市マスタープランなど、各種計画の策定過程において、策定委員会等で若者や女性など幅広い層の意見を取り入れながら策定した。 ●大野市の施策の方向性などについて市民の意見を聞くため、「若手経営者と市長の意見交換会」を開催した。 | | | |
| | | ③ | <ul style="list-style-type: none"> ●市の重要な意思形成の過程を明らかにし、市民との情報共有を図るため、7つの審議会と9つの重要なシンポジウム等(外部講師を招いた定員100名以上のもの)の内容をホームページで公開した。 | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|---------------|----------------------------|-------------|-------------------|-------------------|-------------------|----|------|----|
| 1 | 市ホームページアクセス件数 | 市ホームページにアクセスした延べ件数 (累計) | — | 1,154,398 (累計) | 2,135,877 (累計) | 5,530,000 (累計) | 件 | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 市公式LINEの登録者数が増加した(令和3年度末:6,605人→令和4年度末:7,695人)。 新型コロナウイルス感染症の感染状況が収束したことから、コロナ関係ページのアクセス数が減少し、市ホームページ全体のアクセス数が減少した。 |
|---|--|

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- 公式LINEの登録者数が増えているのは評価できる。
- 施策などについて市民の意見を聞く場が設けられていて大変良い。
- コロナ感染症の収束がアクセス数の減少につながっていることから分かるように、タイムリーな話題や市民などが直接関係する内容をいかに早く情報公開することが重要である。
- 情報発信については、様々な手段を活用しており、周知されていると思われる。
- 市民の意見反映については、まだまだ一定の企業、個人に留まっているように感じる。
- 公式ラインについては、登録者数も増加し順調に推移していると思われるが、市イベント、協議会等に於いて更なる周知の必要性を感じる。
- 広報おののを読み上げた音声データを市HPに掲載する「声の広報」の認知度を上げるためPRするべき。家事や運転をしながらでも聞くことができ便利である。

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

- 市外在住者や企業の市に対する期待がふるさと納税の寄付金額に反映されていると考えられ、継続的な関係構築が望まれる。



◆大野市公式LINE




◆結マップ



◆若手経営者と市長の意見交換会

施策評価シート

No. 22

| | |
|------|---|
| 評価課 | 政策推進課 |
| 関係課 | 地域文化課 |
| 基本目標 | 行政経営 結のまちを持続的に支える自治体経営 |
| 項目 | 協働・連携 |
| | 目指す姿 |
| | 自治会や団体、学校、企業、行政など、さまざまな活動主体が、お互いの立場と役割を理解し、協働・連携してまちづくりに取り組むまち |
| | 関連するSDGs |
| |  |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|----------------------------|-----|--|------|----|-----|
| 22-1 | 市民協働のまちづくりを進めます | ① | ●住民主体による地域課題解決に向けた取り組みを公民館が支援し、 下庄地区と上庄地区で活動が開始された。 既に取り組んでいる大野地区と阪谷地区、和泉地区では、地域の現状を把握するためのアンケートや座談会などの取り組みが行われた。(再掲) | | ※ | ○ |
| | | ② | ●豊かで活力に溢れた住みやすい地域づくりを推進するため、結の故郷地域が輝く交付金事業で財政支援し、市内9地区で地区まつりの開催や名所史跡を活用した事業、まちづくり講演会、環境美化活動や地域ぐるみで行う屋根雪おろしなど 全48事業が行われた。 (再掲) | ※ | ※ | |
| | | ③ | ●若者のアイデアを地域づくりに生かすため、 前年度の「わたしが未来の市長プロジェクト」の提案の中から、「まいおおのフォトコンテストに越美北線からの眺め部門をつくる」「サイクルトレインを行う」「空き家を高校生の勉強場所として開放する」の3つのアイデアを市や関西大学生が具現化 につなげた。 ●大野市の施策の方向性などについて市民の意見を聞くため、「市内若手経営者と市長の意見交換会」を開催した。(再掲) ●大野市総合計画・総合戦略推進会議の下に設置された専門部会「 移住定住部会 」を3回開催し、市民などの意見を取り入れて移住定住策を検討し、提案等を報告書にまとめた。(再掲) | | | |
| 22-2 | 他の自治体などの協働や連携によるまちづくりを進めます | ① | ●高校生目線で地域の活性化策や課題解決の提案を促すため、「わたしが未来の市長プロジェクト」において高校生の探究学習を通年で応援した。 ●市と連携協定を締結する関西大学による研究報告会を開催し、市民ら31人が参加した。 ●市民に社会問題に興味を持ってもらうため、関西大学の研究施設「横町スタジオ」で、 ごみ問題や光害、空き家問題などをテーマとしたワークショップを全4回開催し、延べ116人が参加した。 ●関西大学の研究員が、上庄小学校で、生ごみをミズに食べさせて処理する「 ミミスコンポスト 」の授業を行い、この取り組みを題材として児童が作成したプレゼンテーションが、「 ふるさと福井CMコンテスト 」で 優秀賞を受賞した。 ●横町スタジオで福井工業大学と関西大学の学生に空き家の利活用策を提案してもらうワークショップを開催した。 ●大阪府に本社を置く企業から、関西大学連携事業への活用を目的とした 企業版ふるさと納税100万円の寄附があった。 (再掲) ●多様な主体と連携して地域課題解決に取り組むため、保険会社や報道機関、大学などと令和4年度中に6つの連携協定を締結した。 ●ホームページや広報おおの、出前講座などでSDGsについて積極的に情報を発信し、「 ふくいSDGsパートナー 」に登録する市内団体等が年間を通して17者増えた。(36者→53者) | | ※ | ○ |
| | | ② | ●岐阜県高山市及び美濃市、滋賀県守山市との交流事業として開催した、金森長近公をテーマとした講演会に市内外から120人が参加し、令和6年度の金森長近公誕生500年に向けた自治体連携のきっかけを創出した。(再掲) ●岩倉桜まつりイベント(愛知県岩倉市)への市民交流バスの運行や、古河花火大会(茨城県古河市)期間中の姉妹都市首長議長懇談会は、感染症拡大防止の観点から、前年度に引き続き中止となった。(再掲) ●富山県高岡市主催の「万葉集全20巻朗唱の会」へ、和泉地区の化石などのPRを兼ねた動画を提供した。 ●荒島の郷及び九頭竜紅葉まつりにて、岩倉市からの市民交流バスツアーの受け入れを行った。 | ※ | ※ | |
| | | ③ | ●広域的な行政事務に効率的・効果的に取り組むため、ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョンに基づき、商工、観光、公共交通などのワーキングごとに52の連携事業に参画した。各ワーキングでは構成市町と連携しながら、令和6年度から始まる第2期ビジョンの素案を作成した。 | | | |

| | | | | | | |
|-----|-----|---|--|--|--|---|
| その他 | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ●総合計画及びSDGsの普及に向けて、市民からの要望に応じて年間で10回の出前講座を行った。 ●市の林道整備のために伐採されたブナの木を材料として「SDGsバッジ」を製作し、出前講座などで参加者に配布した。 ●SDGsの推進に取り組む企業・団体等の活動を「見える化」するため、市内の「ふくいSDGsパートナー」の取り組みをまとめたパンフレットを作成し、公共施設に掲示したり、各パートナーに配布したりした。 ●内閣府の「SDGs未来都市」の選定を目指し、提案書を作成し2月に応募した。 | | | | ○ |
|-----|-----|---|--|--|--|---|

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|------------------|-----------------------------------|-------------|-------------|-------------|---------------|----|------|----|
| 1 | 検討会の開催(再掲) | 地域課題解決に向けた住民主体の検討会を開催した地区 | — | 3 | 5 | 9 | 地区 | | ※ |
| 2 | 姉妹都市などとの交流事業参加者数 | 姉妹都市等交流事業補助金を活用して行った交流事業の参加者数(累計) | — | 0 (累計) | 0 (累計) | 1,300 (累計) | 人 | ※ | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

| | |
|---|---|
| 1 | すでに取り組んでいる和泉地区、令和3年度から取り組みを開始した大野地区と阪谷地区に加えて下庄、上庄の2地区で新たに自主的な取り組みが開始され、順調に進捗している。 |
| 2 | 姉妹都市等交流事業補助金を伴わない姉妹都市等との交流事業は行ったが、補助金を活用して友好市町等との交流事業を行う市内団体は、感染症の影響などによりなかった。 |

①②を踏まえた内部評価

B

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- 市民協働の取り組みが益々進むことを期待する。
- 若い世代を巻き込んだ取り組みが目立ち評価できる。
- 感染症の影響もあり、やむを得ないが、友好市町との事業は実施されていない。
- 地域課題解決に向けた検討会も順次開催されており、市民協働のまちづくりに対する取組は評価できる。

総合評価

B

施策評価アドバイザーの意見

- 若年世代がまちづくりに関わる多様な仕掛けが用意されており、多世代交流に繋がることが期待される。
- クラウドファンディングを活用した新たな補助制度に期待する。



◆結の故郷地域が輝く交付金事業を活用して実施した大野地区内のまちウオーク



◆関西大学の研究員による「ミズコンポスト」の出前授業(上庄小学校)



◆金森長近公を学ぶ講演会(岐阜県高山市及び美濃市、滋賀県守山市との交流事業)

施策評価シート

No. 23

| | | | |
|------|----------------|-------------------------------------|----------|
| 評価課 | 総務課 | | |
| 関係課 | 政策推進課、市民生活・統計課 | | |
| 基本目標 | 行政経営 | 結のまちを持続的に支える自治体経営 | |
| 項目 | 市民サービス | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | デジタル化が進む中、誰もが利用しやすい市民サービスが提供されているまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|-----------------------|-----|---|------|----|-----|
| 23-1 | 申請などの手続きのオンライン化を推進します | ① | ●電子申請のオンライン化を進め、市民の利便性の向上を図るため、 <u>マイナンバーカードと連携した電子申請(ぴったりサービス)で国が示したオンライン化すべき26手続きの利用を開始した。</u> | | | |
| | | ② | ●デジタル化に先進的な民間企業の協力を受け、プロジェクトチームにより行政内部の事務再構築やデジタル化に向けた取り組みを行った。令和4年度は新たに48業務を対象に選定し、手順や処理方法を見直ししながら、電子決裁の導入など、準備が整ったものから順次実施した。 | | | |
| | | ③ | ●施設使用料やコピー代、診療収入、書籍等売却代、講座参加者負担金などの各種料金について、一部施設でキャッシュレス決済の利用範囲を拡大した。 | | | |
| | | ④ | ●マイナンバーカードを取得しやすい環境を整えるため、 <u>ショッピングセンターや企業等で出張申請受付を実施するとともに、夜間及び休日の交付窓口を実施した。</u> また、 <u>申請時来庁方式(カード郵送)を実施し</u> 、移動や時間的に申請や受け取りが困難な人の来庁負担を軽減し、カードの普及に繋げた。 ●マイナポイント第2弾を活用した取得促進を実施し、令和4年度末のカード取得率が71.93%となった。(国67.02%、県69.21%) | | | ◎ |
| | | ⑤ | ●市民が市役所まで行かなくても各種相談や行政手続きができるよう、 <u>市内9つの公民館と市役所各課の窓口をリモートで接続する環境を構築した。</u> (27部署とリモート窓口サービスの接続環境を整備し、実績としては延べ13件の相談があった) ●市民の市役所に来庁する手間を減らし、利便性向上につなげるため、マイナンバーカードを持っている人が、マイナポータルからオンラインで転出届等を行える「 <u>引越ワンストップサービス</u> 」を提供した。 ●市民の書く手間を省き、窓口滞在時間を短縮するため、 <u>窓口で市民等から職員が聞き取りながら端末に入力し、申請書などを作成する「書かない窓口」を導入した。</u> これにより、住民異動手続きの際にワンストップで受付ができる手続き数が23手続きとなった。また、アンケート調査より、窓口利用者の82%から満足であるとの回答が得られた。 ●市民が手続きのために市役所に来庁しなくて済むよう、 <u>死亡届出に伴う各種手続きをまとめた「おくやみハンドブック」の作成</u> により、幅広い情報提供を行った。 | ※ | | |
| 23-2 | 分かりやすく丁寧な市民サービスを提供します | ① | ●会議録作成支援システムの利用により、システム利用前に比べて会議録作成に係る時間を約190時間削減した。 ●迅速かつ正確な事務処理につなげるため、チャットシステムやデータを用いて決裁処理を行う電子決裁を導入した。 | | | |
| | | ② | ●市民が自宅や職場から参加できるよう、リモート会議や動画配信を積極的に活用するとともに、各種会議や説明会についてリモート会議を492回、動画配信を14回実施した。 | | | ○ |
| | | ③ | ●電子申請手続きに対して不安のある人に書面や対面などによる手続きを提供した。 ●市民のITリテラシーの向上を図るため、公民館などで <u>IT講座やスマホ教室を計62回開催し</u> 、延べ254人が参加した。 | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|---------------------|---------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 電子申請が可能となった行政手続きの件数 | 電子申請が可能となった行政手続きの件数 | 33 | 113 | 114 | 63 | 件 | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

(成果指標の検証)

1 手続きのオンライン化等にかかる進捗を定期的に調査し、フォローアップを行った結果、新たにオンライン手続きを追加登録した。

①②を踏まえた内部評価

A

総合計画・総合戦略推進会議委員の意見

- デジタル化を進めるに当たってはWi-Fiの環境整備をもっと進めて誰もがアクセスが可能になる事を期待する。
- 実績に対して目標が低いように感じる。目標を上げて、今後も高くなっていく意識付けが必要だと思う。
- 電子申請が可能となった行政手続きも目標を超過しており、デジタル化に向けた取組は評価できる。
- 申請受付が可能な場所、時間等も拡大し、利便性は向上しており評価できる。

総合評価

A

施策評価アドバイザーの意見

- マイナンバーカード申請のための出張受付や行政手続きのためのリモート窓口など、市民のライフスタイルに合わせたき細かいサービスが行われている。
- 申請書類や各種手続きのワンストップ化、情報一元化が進められている。



◆市民生活・統計課窓口での「書かない窓口」



◆おくやみに関するハンドブック



◆公民館での「スマホ教室」

施策評価シート

No. 24

| | | | |
|------|----------------------------------|---|----------|
| 評価課 | 財政経営課 | | |
| 関係課 | 税務課、政策推進課、総務課、税務課、上下水道課、市民生活・統計課 | | |
| 基本目標 | 行政経営 | 結のまちを持続的に支える自治体経営 | |
| 項目 | 行財政 | 目指す姿 | 関連するSDGs |
| | | 計画的で効率的な財政運営と、市民の期待に応えられる人材と組織により、安定した自治体経営が堅持されているまち | |

①施策の取組状況及び成果

| No. | 施策 | 細区分 | 取組状況及び成果 | コロナ禍 | 戦略 | 達成度 |
|------|------------------------|-----|---|------|----|-----|
| 24-1 | 持続可能な財政運営を行います | ① | ●令和4年度の市税収納額は39億1,182万円で、収納率は現年課税分99.2%(前年度99.2%)、滞納繰越分を合わせた全体の徴収率が97.0%(前年度97.0%)となった。 | | | ◎ |
| | | ② | ●農業集落排水事業特別会計について、より健全な経営を進めることを目的に公営企業会計へ移行するため、管路施設と処理場施設の固定資産調査を行った。 ●国民健康保険については、健全財政維持のため、令和4年度から保険税率を引き上げた。併せて、将来的な県内の保険料水準の統一に向け、算定方式を所得割、資産割、均等割及び平等割の4方式から、資産割を廃止し3方式とした。 | | | |
| | | ③ | ●年度間の財源の不均衡を調整するための 財政調整基金は、前年度と比べ3,013万円積み増し、22億5,982万円 とした。また、将来世代に過度な負担を残さないよう、 市債発行額は前年度と比べ9,170万円抑制し、10億5,350万円 とした。 | | | |
| | | ④ | ●新たな関係人口の拡大を図るため、ふるさと納税を活用して魅力的な返礼品の情報発信を強化した結果、 寄附金額は過去最高の約1億1,900万円 となった。(再掲) ●企業版ふるさと納税の募集を広く発信するため、寄附募集事業のマッチング支援業務を事業者へ委託し、その結果、大阪府に本社を置く企業から 企業版ふるさと納税100万円の寄附 があった。(大野市として2件目の企業版ふるさと納税の寄附) ●市民協働による地域課題解決を一層進めるため、市がクラウドファンディングで集まった寄附金を原資に地域課題解決に取り組む団体等に補助する制度を設計した。(令和5年度より運用開始) | | | |
| 24-2 | 次世代を見据えた「シゴト改革」に取り組めます | ① | ●デジタル化に先進的な民間企業の協力を受け、プロジェクトチームにより行政内部の事務再構築やデジタル化に向けた取り組みを行った。令和4年度は新たに48業務を対象に選定し、手順や処理方法を見直ししながら、電子決裁の導入など、準備が整ったものから順次実施した。(再掲) ●議会でペーパーレス会議システムを活用することで、事務を効率化するとともに、プリンターのトナー消費を14%削減した。また、市役所内部の事務を効率化するため、グループウェアのワークフローやアプリ作成機能を使った。 | | | ○ |
| | | ② | ●ICTスキルの高い職員を育成するため、職員からのICTに関する問い合わせに対応する役割を担う「デジタル化サポート員」を各所属に配置し、3回の研修を行った。 | | | |
| | | ③ | ●第六次大野市総合計画に基づく令和3年度施策の実施状況及び効果の検証を行うため、庁内の内部評価に加え、 市民や学識経験者で構成する「総合計画・総合戦略推進会議」等による外部評価を実施した。この結果、24項目のうち、A評価が4項目、B評価が18項目、C評価が2項目、D項目が0項目となった。 ●効果的かつ効率的な自治体経営を実現するため令和2年度末に策定した「大野市行政改革推進プラン2021」の4つの基本方針に掲げる個々の関連施策について進捗状況を確認し、36の取組に対する、令和3年度分として掲げる40の目標値において、達成したものは30となり、目標達成率は75%であった。 | | | |
| 24-3 | 人材育成と組織の整備を進めます | ① | ●公務員としての高い倫理観を持ち、公平・公正に対応ができる職員を育成するため、全職員を対象に公務員倫理、情報セキュリティー、リスク管理、廃棄物等処理などの研修を実施した。研修の参加者の延べ人数(オンライン参加含む)は、前年度の約1.3倍の3,085人となった。 ●優秀な人材を確保するため、職員採用候補者試験について、従来の前期日程、後期日程に加え、追加募集を行った。また、大学等が数多く参加する採用情報配信サービスに登録し、情報発信を強化した。 | | | ○ |
| | | ② | ●令和5年4月からの定年引上げに向け、条例や規則等の制定・改正を行うとともに、60歳以降の働き方に関するアンケート調査を行い、 大野市定員適正化計画を改定した。 | | | |
| | | ③ | ●令和4年2月に「職員の営利企業等の従事制限に関する規則」及び運用方針を制定し、職員に周知したことにより、職員の地域貢献活動参加率60%以上(大野市行政改革推進プラン目標値)を達成した。 | | | |

| | | | | | | |
|------|-----------------------------|---|--|--|--|---|
| 24-4 | 市有財産を適正に管理し、効果的で効率的な活用を図ります | ① | ●公共施設等の更新や廃止を計画的に管理していくため、303の公共施設の今後10年間の修繕及び更新に係る方針や費用をまとめた資料を作成した。 | | | ○ |
| | | ② | ●国の指針の改訂や「個別施設計画編」、「公共施設再編計画編」の改訂が進んだことから、大野市公共施設等総合管理計画の改訂を行った。 | | | |
| | | ③ | ●普通財産の未利用地について、2件競売を実施し、売却できなかった土地については、福井県宅地建物取引業協会に売買の仲介を依頼し、売却を進めた。 | | | |

「コロナ禍」欄の※は進捗または成果にコロナ禍の影響を受けたと考えられる取り組み。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に関連付いた取り組み

②成果指標

| No. | 指標 | 内容 | 令和元年度 現状 | 令和3年度 実績 | 令和4年度 実績 | 令和7年度 目標 | 単位 | コロナ禍 | 戦略 |
|-----|----------|---------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|------|----|
| 1 | 財政調整基金残高 | 年度末の残高 | 16.4 | 22.3 | 22.6 | 20.0 | 億円 | | |
| 2 | 将来負担比率 | 地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく比率 | 48.5 | 23.3 | 15.7 | 45.5 | % | | |

「コロナ禍」欄の※はコロナ禍の影響を受けたと考えられる成果指標。「戦略」欄の※は第2期大野市総合戦略に記載がある成果指標

| (成果指標の検証) | |
|-----------|---|
| 1 | 特別交付税等の財源を確保したことにより、財政調整基金の取崩額を減額し、財政を運営した。 |
| 2 | 地方債現在高の減少と基金の増加により、将来負担比率が改善した。 |

| | |
|--------------------|----------|
| ①②を踏まえた内部評価 | A |
|--------------------|----------|

| 総合計画・総合戦略推進会議委員の意見 | 総合評価 |
|---|----------|
| <ul style="list-style-type: none"> ●健全な財政状況が見て取れるので、これを継続することが重要である。 ●持続可能な財政運営を行うためには施設の統廃合などを進め効率の良い運営を期待する。 ●人材育成は非常に大事なもので更に研修等に参加出来る環境を整えることが必要である。 ●計画的な財政運営が見て取れて評価できる。 ●健全な財政は維持されており、今後も適正かつ効率的な財政運営が望まれる。 ●ふるさと納税は、順調に増加しているが、まだまだ推進PRの余地はあると感じる。 | B |
| 施策評価アドバイザーの意見 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●デジタルツールを効果的に使い、事務作業の効率化と、より一層の「シゴト改革」が実施されることで、財政面でのメリットのみならず住民サービスの向上や優秀な人材確保に繋がることが期待される。 | |



◆令和5年1月に改訂した
大野市公共施設等総合管理計画



◆総合計画・総合戦略推進会議



◆公務員倫理研修

【資料 2】

第 2 期大野市総合戦略に基づく 施策の実施状況

1 第2期大野市総合戦略とは

- 第六次大野市総合計画のうち、人口減少対策に特化した施策をまとめた計画
- 重要業績評価指標（KPI）を定め進捗管理を徹底
- 対象期間は、令和3年度～7年度の5年間

2 人口の状況

＜令和2年（10月1日の国勢調査）＞
3万1,286人

現状＜令和4年（10月1日現在の県推計人口）＞
2万9,997人

目標＜令和7年＞
2万9,000人

3 施策の実施状況

4つの施策の方向性ごとに次ページ以降に示す。

＜第2期大野市総合戦略の体系＞

2030年に目指すまちの将来像 **人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち**

第六次大野市総合計画 ▶ まちづくりの目標と方向を明らかにした、**市の最上位計画**

第2期大野市総合戦略 ▶ 総合計画の施策のうち、**人口減少対策に特化した施策**をまとめた計画

| 【施策の方向性】 | 【基本目標】 | 【基本的方向】 | 【KPI】 括弧内はR7目標数値 | | | | | | |
|-----------------------------|---|---------|------------------|--------------------|---------|--|--|---|--|
| 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>数値目標指標</th> <th>R7目標数値</th> </tr> <tr> <td>創業者数</td> <td>10件(累計)</td> </tr> <tr> <td>工場新設等に伴う雇用創出数</td> <td>50人(累計)</td> </tr> </table> | 数値目標指標 | R7目標数値 | 創業者数 | 10件(累計) | 工場新設等に伴う雇用創出数 | 50人(累計) | <ol style="list-style-type: none"> 産業の活性化 働く場所の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ◆耕作放棄地の面積（3.6ha以下） ◆森林間伐面積（130ha） ◆創業者数（10件【累計】） ◆観光消費額（3,000円） |
| 数値目標指標 | R7目標数値 | | | | | | | | |
| 創業者数 | 10件(累計) | | | | | | | | |
| 工場新設等に伴う雇用創出数 | 50人(累計) | | | | | | | | |
| 新しいひとの流れをつくる | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>数値目標指標</th> <th>R7目標数値</th> </tr> <tr> <td>総人口に対する20～40代人口の割合</td> <td>29.5%</td> </tr> </table> | 数値目標指標 | R7目標数値 | 総人口に対する20～40代人口の割合 | 29.5% | <ol style="list-style-type: none"> 移住者受け入れの環境整備 情報発信や情報提供の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ◆移住相談件数（500件【累計】） | | |
| 数値目標指標 | R7目標数値 | | | | | | | | |
| 総人口に対する20～40代人口の割合 | 29.5% | | | | | | | | |
| 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>数値目標指標</th> <th>R7目標数値</th> </tr> <tr> <td>出生率</td> <td>5.2‰</td> </tr> </table> | 数値目標指標 | R7目標数値 | 出生率 | 5.2‰ | <ol style="list-style-type: none"> 子育て世代への支援の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ◆出生率（5.2‰） | | |
| 数値目標指標 | R7目標数値 | | | | | | | | |
| 出生率 | 5.2‰ | | | | | | | | |
| 時代に合った活力ある地域をつくり、地域と地域を連携する | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>数値目標指標</th> <th>R7目標数値</th> </tr> <tr> <td>検討会の開催</td> <td>9地区</td> </tr> </table> | 数値目標指標 | R7目標数値 | 検討会の開催 | 9地区 | <ol style="list-style-type: none"> 健康づくりの促進 循環型社会の形成 地域活性化と次世代継承の促進 協働、連携の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ◆特定健康診査対象者に対する受診者の割合（60.0%） ◆要介護認定率（19.4%以下） ◆市民1人当たりの体育施設利用回数（9.00回） ◆1人1日当たりのごみの排出量（92g） ◆県全目標順位に対する超過日数（rank=7711、36日） ◆公民館利用回数（3.66回） ◆検討会の開催（9地区） | | |
| 数値目標指標 | R7目標数値 | | | | | | | | |
| 検討会の開催 | 9地区 | | | | | | | | |

大野市人口ビジョン ▶ 大野市における人口の減少分析を行い、人口に関する市民の認識を共有し、人口の将来展望などを示すもの

【全体に関連する横断的観点】

高速交通網の整備を見据えた取り組み

中部縦貫自動車道県内全線開通、北陸新幹線福井・敦賀開業など

SDGs、デジタル化、ニューノーマルなど新時代への対応

| 基本目標 | 数値目標指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|---------------|-----------------|------------------|------------|---------------|-------------------|-------------------|
| | 創業者数 | 市の支援策による創業件数(累計) | — | 0件 | 1件 | 10件 (R3~7年度累計) |
| 工場新設等に伴う雇用創出数 | 企業が市民を雇用した数(累計) | — | 12人 | 12人 | 50人 (R3~7年度累計) | |

基本的方向1:産業の活性化

【主な取り組み】

＜農業＞

- 新規就農者や後継者の確保と育成を図るため、就農奨励金で新規就農者2人を支援した。
- スマート農業やデジタル技術の活用を支援するため、国や県の補助金を活用し、スマート農業関連機器の整備を費用面で支援した。(4件)
- 大野市の気候や風土に合った特産作物の生産を促進するため、出荷奨励金などにより支援した。(穴馬スイートコーン18件、穴馬かぶら8件)
- 特産作物を含む園芸作物を生産する農業者の育成と支援に取り組むため、生産に必要な農業機械の導入を費用面で支援した。(7件)
- 初心者向け園芸栽培講座や果樹栽培講座など、各種講座を開催し、誰もが農業を学び、触れ合える機会を提供した。(延べ65人が参加)

＜林業＞

- 特用林産物のマイタケについて、令和4年度の株式会社昇竜での生産量は133.1tとなり、前年度の122.8tを上回った。
- 森林環境譲与税を活用し、森林施策の集約化に向け、4地区94件に対して森林所有者への意向調査を進めた。
- 山林の適切な管理を進めるため、木質バイオマス発電所への間伐材7,070m³の搬出を補助金によって支援した。
- 林業従事者の確保と育成に向け、フォレストワーカー研修を受講しながら働く1年目から3年目までの就労者を雇用する林業事業体を支援した。さらに林業事業体を支援するため、林業機械のレンタルなどへの補助制度を追加(林業機械20台のレンタル料を補助)した。

＜商工業＞

- 越前おおの産業ブランド力向上戦略」に基づき、事業者の稼ぐ力を応援するため、市内の専門家や商工会議所、市をメンバーとした「結の故郷ビジネスサポートチーム(結サポ)」を結成した。相談会を11回開催し、延べ24件(8事業者)の相談を受け付け、経営課題の解決や稼ぐ力向上に向けた診断や助言を行った。
- ふるさと納税を活用して魅力的な返礼品の情報発信を強化した結果、寄附金額は過去最高の約1億1,900万円となった。
- ふくいデジタルバウチャー推進協議会が運営する「ふく割」システムを活用し、デジタルクーポン「おおの割」「もっとおおの割」を発行し、市内の小規模事業者のデジタル技術の活用促進を図った。
- 大野商工会議所に委託し、事業継続力強化計画策定セミナーを実施し、7事業所が参加したが、新たな計画策定には繋がらなかった。
- 七間楽市や七間ハロウィンなど商店街が行うにぎわい創出イベントの開催事業費や越前おおの三大朝市物産まつり等の経費の一部を補助し、まちなかへの集客とにぎわいの創出を図った。
- コワーキングスペースとレストラン機能を有したカンケイ商店の更なる整備を行い、まちなかのにぎわい創出を図るまちなか商店街集客力向上協議会に対し、その整備費の一部を補助した。

＜観光業＞

- 観光協会と連携し、御清水に夏と秋に分けてカラフルな提灯を設置。夏季は大野高校美術部が制作した提灯を飾り、ライトアップすることで名水の城下町を創出する。その他、越前おおの結楽座の回廊と洋館テラスに夏・秋限定で、てめぐいを約200枚吊し、日本らしい風情を演出した。
- 和泉郷土資料館の壁に恐竜トリックアートを描くとともに、展示室を恐竜や化石に特化したものにリニューアルした。合わせて、施設の愛称を募集し「くずりゅう化石ラボ ガ・オーノ」に決定した。
- 南六呂師区において、星空の世界遺産と言われる「星空保護区」の令和5年度認定取得に向け、対象エリアの市有施設等の外灯51基の光害対策を行った。県とも連携し、県有施設の外灯約180基についても対策を講じた。
- 市内事業者所有の観光バスの内装を星空のデザインに改修する支援を行い、県内初の星空観光バスが完成し、星空ツーリズムを推進した。
- 観光協会と連携し、おおの城まつりの期間に合わせて、越前大野城の夜間開館と石垣広場でのナイトイルミネーションと提灯散策を実施した。
- ふくい嶺北連携中枢都市圏外国人観光客受入環境整備事業補助金を受けて、市内宿泊事業者が制作するホームページの多言語化に対し支援した。
- 将来的な観光地域づくり法人設立を視野に入れ、観光を軸に稼ぐ新組織の設立を目指して関係機関に働きかけを行い、新組織設立に向けた関係機関の合意形成が図られた。
- 中部縦貫自動車道県内全線開通および北陸新幹線福井敦賀開業を見据え、四季毎の観光ポスターの制作を行った。

| KPI | 重要業績評価指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|-----|----------|------------------|------------|---------------|-----------|-------------------|
| | 耕作放棄地の面積 | 耕作放棄地の発生抑制 | 3.0ha | 3.9ha | 2.5ha | 3.6ha 以下 |
| | 森林間伐面積 | 市有林、私有林の間伐面積 | 118ha | 106ha | 93ha | 130ha |
| | 創業者数 | 市の支援策による創業件数(累計) | — | 0件 | 1件 | 10件 (R3~7年度累計) |
| | 観光消費額 | 日帰り観光客1人当たりの消費額 | 2,945円 | 3,208円 | 3,704円 | 5,000円 |

基本的方向2: 働く場所の整備

【主な取り組み】

- 商工会議所や県産業支援センターとの連携により窓口にてワンストップサービスで創業、承継相談を行った。
- 国や県の優良企業認定制度の紹介を行うとともに、働く人にやさしい企業や子育て世代にやさしい企業の認定を推進し、令和4年度は働く人にやさしい企業7社、子育て世代にやさしい企業5社を新たに認定し、ホームページなどで情報発信を行った。
- 大野市に働く人が定着し、誰もが働きやすい環境づくりを促進するため、育児休業の代替職員の雇用や男性の育児休業取得の支援、働き方改革セミナーの開催などに取り組んだ。
- 新婚世帯に対し、結婚に伴う新居の住居費や引っ越し費用などのスタートアップに係る費用を支援した(4組に補助)。加えて、25歳以下の新婚世帯に対しては、結婚祝金を支給した(9組に支給)。
- 職業訓練センターにサテライトオフィスやレンタルオフィスのニーズに応えることのできる場所を設け、相談に備えた。
- コワーキングスペースとレストラン機能を有したカンケイ商店の更なる整備を行い、まちなかのにぎわい創出を図るまちなか商店街集客力向上協議会に対し、その整備費の一部を補助した。
- 県と連携し、製造業を中心に大野市富田産業団地等への誘致活動を進めたが、誘致に至らなかった。
- 令和3年度に株式会社モンベルに売却した区画に、同社が物流センターを建設し、3月末に操業を開始した。

| KPI | 重要業績評価指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|-----|----------|---------------|-----------------|---------------|-----------|-----------|
| | | 工場新設等に伴う雇用創出数 | 企業が市民を雇用した数(累計) | — | 12人 | 12人 |

| 基本目標 | 数値目標指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|------|--------------------|--------------------|------------|---------------|-----------|-----------|
| | 総人口に対する20～40代人口の割合 | 総人口に対する20～40代人口の割合 | 29.5% | 28.7% | 28.4% | 29.5% |

基本的方向1: 移住者受け入れの環境整備

【主な取り組み】

- 移住者の住まいとして空き家を利活用するため、空き家の家財道具処分を支援する補助制度を創設し、15件の利用があった。
- 空き家情報バンクに過去最高となる26件を新規登録し、令和4年度以前の登録物件も含めて18件が成約につながった。
- 空き家の利活用の啓発活動として、地域おこし協力隊員が空き家情報紙「あきやたより」を定期的に発行し、公共施設等に掲示した。
- 空き家の利活用や相続など、空き家所有者の悩みや不安を解決するため、宅地建物取引士、司法書士などの専門家が対応する「空き家相談会」を2回開催し、前年度よりも5件多い21件の相談を受け付けた。
- 若者目線のアイデアをまちづくりに生かすため、福井工業大学と関西大学の学生に空き家の利活用案を提案してもらうワークショップを開催した。
- 移住者等への住まいへの支援として、定住のための住宅取得やリフォームを20件補助した。
- 移住者を受け入れる体験会や交流会を行う地区・集落はなかった。
- 有害鳥獣対策業務で1名の地域おこし協力隊員に委嘱したが、約1年で退任した。(令和4年度末時点の隊員数は3人)
- 若者に大野市のSNS登録を促すため、「20歳のつどい」の参加を市公式LINEに登録して申し込みしてもらう手続きにした。
- 移住希望者の不安と心配を解消するため、さまざまな移住支援をまとめたパンフレット「大野に来て見て住んで応援パッケージ」を作成し、移住定住サイトや「福井暮らしはたらくサポートセンター」などを通じて情報発信を行った。
- 大都市圏で大野市の魅力や移住定住施策を発信するため、県が主催する移住フェアや、ふくい嶺北連携中枢都市圏の構成市町が共同で出展する移住フェアに参加し、移住相談に対応した。(東京2回、大阪2回、名古屋1回)

| KPI | 重要業績 評価指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|-----|--------------|--------------------------|------------|---------------|-----------|--------------------|
| | 移住相談件数 | IJUサポートチームが受けた移住相談件数(累計) | — | 134件 | 279件 | 500件 (R3～7年度累計) |

基本的方向2: 情報発信や情報提供の充実

【主な取り組み】

- あらゆる世代に必要な情報が届くよう、広報おおのや市ホームページ、LINE、YouTube、新聞折込チラシなど、さまざまな情報発信手段を活用して、広報活動を進めた。
- 視覚障がいのある人向けに、音訳ボランティアが制作した広報おおの読み上げ音声をデータ化し、市ホームページに掲載した。
- 子育て世代に有用な情報を提供するため、市ホームページに、市が所管する公園の情報(所在地、設備、遊具写真など)をまとめたページを新たに作成した。
- 中京、石川を中心にCMを放送するとともに、(株)平成大野屋に委託し、ECサイトで特産品をPRするなど、情報発信を行った。
- 県外(関西、中京、石川)メディア、県内メディアを訪問し、市の観光や施策等のPRを行った。
- 中部縦貫自動車道県内全線開通および北陸新幹線福井敦賀開業を見据え、四季毎の観光ポスターの制作を行った。
- 旅行会社に対する観光営業活動として、オンライン商談会や対面商談会への参加、個別営業活動を延べ8回、60社に実施した。
- 福井市が主体となり令和5年3月に福井駅前で開催された北陸新幹線福井開業1年前イベントに、勝山市、永平寺町とともに参加し、観光PRを行った。
- 令和5年3月に中部縦貫自動車道大野IC-勝原IC開通記念イベントに合わせて実施された「道の駅越前おおの 荒島の郷」の観光PRイベントに「越前美濃街道広域観光交流推進協議会」で出展を行った。
- 新たな関係人口の拡大を図るため、ふるさと納税を活用して魅力的な返礼品の情報発信を強化した結果、寄付金額は過去最高の約1億1,900万円となった。
- 大阪府に本社を置く企業から、関西大学連携事業への活用を目的とした企業版ふるさと納税100万円の寄附があった。

| 基本目標 | 数値目標指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|------|--------|--------------------|------------|---------------|-----------|-----------|
| | 出生率 | 人口1,000人に対する出生数の割合 | 4.9‰ | 4.7‰ | 4.7‰ | 5.2‰ |

基本的方向1：子育て世代への支援の充実

【主な取り組み】

- 新婚世帯に対し、結婚に伴う新居の住居費や引っ越し費用などのスタートアップに係る費用を支援した(4組に補助)。加えて、25歳以下の新婚世帯に対しては、結婚祝金を支給した。(9組に支給)
- 国や県の優良企業認定制度の紹介を行うとともに、働く人にやさしい企業や子育て世代にやさしい企業の認定を推進し、令和4年度は働く人にやさしい企業7社、子育て世代にやさしい企業5社を新たに認定し、ホームページなどで情報発信を行った。
- 大野市に働く人が定着し、誰もが働きやすい環境づくりを促進するため、育児休業の代替職員の雇用や男性の育児休業取得の支援、働き方改革セミナーの開催などに取り組んだ。
- 地域ぐるみの子育てを応援するため、保育所、認定こども園、児童館の保護者会などが行う食育や世代間交流に係る活動費を支援した。(18件補助)
- 産後の育児などに対する不安の解消につながるよう、出産を控えた妊婦とその家族を対象として産後の子育て支援の案内などを行う「プレママサポートデイ」を試行的に実施した。
- 妊娠・出産・子育て期を通した切れ目のない支援として、妊婦情報事前登録制度(103件登録)、乳児家庭全戸訪問(148件)、育児相談会(456件)、多胎妊産婦交流会(3回)を実施した。
- きめ細かな子育て相談支援を行うため、出産・子育て応援給付金事業を開始し、妊産婦に対して妊娠の経過や心配事に関するアンケートを実施(回答者186人)するとともに、電話での相談や希望者には訪問面談(4件)を実施した。
- 保護者の多様なニーズに対応するため、保育施設における延長保育や一時預かり、障害児保育や、医療機関における病児保育などの特別保育に取り組んだ。
- 第2子以降で満3歳未満の児童を在宅で育児する世帯に、県内で唯一所得制限を設けず手当を支給した。
- 産後12カ月までの子育てママパパに対して、一時預かりや家事援助、買い物代行などのサービスを提供した。(サービス対象者に対する利用実績は約6%)
- 子ども医療費助成(窓口無料化)や保育料無料化(第2子以降)などの取り組みにより子育て世帯の経済的負担の軽減を図るとともに、大野ですく子育て応援パッケージや大野市公式LINEを活用して積極的に子育て支援情報を発信した。
- 保護者の経済的負担の軽減を図るため、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の就学援助費を支給した。
- 放課後における安全で安心な子どもの居場所を確保するため、市内5児童センターにおいて、放課後児童クラブを適切に運営した。新型コロナウイルス感染症対策を講じるため、児童センターにおける自由来館については、一部制限を加えた。また、夏休みに、放課後児童クラブ野外交流会を実施し、冬休みには、放課後子ども教室との連携事業を実施した。
- 乾側、阪谷、富田、小山、上庄の5地区において、安全管理員に地域住民の協力を得て放課後子ども教室を実施・運営した。また、新たに、放課後子ども教室の令和5年度の加入申込みを原則オンライン化し、手続きの簡素化、事務の効率化を図るとともにペーパーレス化に取り組んだ。
- 要保護児童やひとり親家庭に対する支援として、家庭児童相談員、母子・父子自立支援員、社会福祉士に加え、新たに保健師を配置し、相談体制を強化した。毎月、関係機関による実務者会議を開催し、要保護児童に対する支援状況の確認を行い、必要に応じて個別のケース会議を開催し、総合的な対応を行った。8月には大野市児童虐待防止研修会を開催した。
- 医療的ケア児のあかね保育園での受け入れ日数を前年度までの週3日間から週4日間に拡充した。
- カフェを拠点として活動する団体に対して、子ども食堂実施に係る補助を行った。
- 保護者から発達相談の希望のあった児に対して2歳児健診(16件)を実施し、心理士等による発達検査や相談を行った。また、3歳児健診において発達等に気がかりのあった児に対して園巡回(延べ22回)を実施し、生活の様子や担任からの情報を基に、保護者への相談・支援を行った。
- 保健師等の専門職が妊娠届出時等に相談支援を行った。本人や家庭の状況からハイリスクと判断したケースについては、より早期からの支援を行い、育児不安や虐待予防に重点を置いた支援を行った。
- 障がいのある子どもや発達に気がかりのある子どもなど、個々の状態に対応した専門的な指導や、保育所等を訪問しての施設スタッフに対する技術的指導など、通所支援サービスを提供した。

| 基本目標 | 数値目標指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|------|--------|--------------------|------------|---------------|-----------|-----------|
| | 出生率 | 人口1,000人に対する出生数の割合 | 4.9‰ | 4.7‰ | 4.7‰ | 5.2‰ |

| 基本目標 | 数値目標指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|------|--------|---------------------------|------------|---------------|-----------|-----------|
| | 検討会の開催 | 地域課題解決に向けた住民主体の検討会を開催した地区 | — | 3地区 | 5地区 | 9地区 |

基本的方向1：健康づくりの促進

【主な取り組み】

＜健康・医療＞

- 健康づくりに取り組む人が増えるよう、活動量に応じてポイントを付与する「おおのヘルスウォーキングプログラム」では、福井ユナイテッドによる正しい歩き方講座などを行い、前年度からの継続者661人に加え、新たに969人の募集をし、合わせて1,630人が参加した。
- ラジオ体操による健康づくりを目的に、特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会を開催し、372人が参加した。また、同日に運動や食育による健康づくりを啓発するイベントとして、スポーツ・レクリエーション祭と健康・食守フェスタを同時開催した。
- 高齢者のフレイル予防や継続的な健康づくりのため、地区老人クラブなどに対し、市民ボランティア（フレイルサポーター）によるフレイルチェック（2回）やフレイル予防講座（10回）などを実施した。

＜地域福祉＞

- ボランティアの交流や情報交換を促して活動しやすくなるよう、社会福祉協議会の「ボランティアセンター」の運営を費用面で支援した。（ボランティア登録者数：1,328人）
- ボランティアの育成のため、社会福祉協議会が小中学校で実施した福祉教育（手話や車いす体験など）の取り組みに対して費用面で支援した。（11校で実施）
- 住民主体の助け合い・支え合いの地域づくりに向けた話し合いの場である「第2層協議体（公民館単位）」を設置するため、下庄地区で住民勉強会を開催した。この結果、第2層協議体が設置され、既設6つと合わせて計7つとなった。
- 既設の協議体において、住民の困りごと・地域課題の把握のためのアンケートを行ったほか、互助による生活支援、住民主体の通いの場のモデル事業を開始した。（実績：生活支援モデル事業1箇所、通いの場モデル事業2箇所）移動支援のため、タクシー利用助成券の配布対象を同居家族の有無に関わりなく、自動車運転免許証を有しない全ての高齢者（65歳以上）に拡充した。（実績：配布者数345人、助成券利用枚数1,064枚）
- 高齢者が身近な場所で交流や活動ができる場を増やすため、従来の高齢者ふれあいサロンの活動に加え、乾側地区において第2層協議体メンバーが中心となり、新たな形で住民主体の通いの場モデル事業を実施した。（実績：新たな形の通いの場2箇所）
- 大野市シルバー人材センターの活動を支援し、高齢者が生き生きと自分らしく働く場の確保に繋げた。

＜スポーツ＞

- 3年ぶりに開催した「第58回越前大野名水マラソン」は、コロナ感染症を踏まえて、参加者を県民に限定した「現地でのマラソン大会」と、場所、日時を問わず誰もが参加できる「オンラインマラソン」の2部構成で実施した。（エントリー数：県民マラソン1,123人、オンラインマラソン504人）
- ラジオ体操による健康づくりを目的に、特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会を開催し、372人が参加した。また、同日に運動や食育による健康づくりを啓発するイベントとして、スポーツ・レクリエーション祭と健康・食守フェスタを同時開催した。
- 市民の興味や関心、目的に応じた運動やスポーツの機会を提供するため、小学生向けにエキサイトウィークやスキー教室、一般向けに登山教室やSUPヨガ教室、高齢者向けにすわるピクス教室や自宅でする筋トレ教室など、多種多様な教室を開催し、年間延べ1,757人の参加があった。
- サイクルツーリズムを推進するため、大野・勝山・永平寺観光推進エリア創出計画実行委員会で、道の駅「越前おおの 荒島の郷」や城下町東広場、道の駅「恐竜渓谷かつやま」、えちぜん鉄道勝山駅、えい坊館の5カ所をレンタルスポットとするレンタサイクル「九頭竜ぐるっとペダル」を4月から11月まで運行し、131件の利用があった。
- 大野・勝山・永平寺観光推進エリア創出計画実行委員会で「九頭竜ぐるっとサイクルスタンプラリー」を7月から11月まで実施した。2市1町で15のスタンプスポットを設置し、130人が1,132のスタンプを獲得した。
- 誰もが目的や体力に応じてスポーツを楽しめる基盤づくりとして、総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」の活動を支援した。
- 誰もが気軽にスポーツに親しめるよう、コンピューターゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉えるeスポーツ大会を実施した。

| KPI | 重要業績評価指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|-----|---------------------|----------------------------|------------|---------------|----------------|-----------|
| | 特定健康診査対象者に対する受診者の割合 | 国民健康保険加入者で40～74歳の特定健康診査受診率 | 44.1% | 37.6% | 38.0% (見込値) | 60.0% |
| | 要介護認定率 | 大野市における要介護認定率 | 18.7% | 18.6% | 18.5% | 19.4%以下 |
| | 市民1人当たりの体育施設利用回数 | 市民1人当たりの体育施設利用回数 | 7.66回 | 6.90回 | 6.81回 | 9.00回 |

基本的方向2:循環型社会の形成

【主な取り組み】

<自然環境・ごみ>

- 広報おおのに「チャレンジ！ゼロカーボン」と題し、地球温暖化問題に関する記事を掲載した。
- 子どもから大人まで地球温暖化対策の重要性を啓発するため、Eco落語、Eco遊園地、Eco紙芝居に加え、新たに親子エネルギー教室とエコドライブ体験会を開催し、延べ853人が参加、うち330人から「COOL CHOICE」運動の賛同を得るなど、家庭での意識啓発を促進した。
- 地球温暖化ストップ県民運動「LOVE・アース・ふくい」に協力し、広報物の掲示や出前講座などに取り組んだ。
- 電気の明かりを消して省エネや光害について考えてもらうきっかけにもらうため、令和3年度を14社上回る55社の協力のもと、ライトダウンイベントを実施した。
- 2050年脱炭素社会の実現に不可欠な脱炭素人材(脱炭素に資する行動変容を積極的に選択する人材)の育成及びその担い手づくりを目的に、主に教育関係者を対象に、環境省の関係団体と連携して環境ワークショップを実施した。(21人参加)
- 環境保全推進のため、和泉地区一斉清掃(クリーンアップ大作戦)を実施した。
- 環境月間の6月に、県が実施する福井の豊かな自然を守る「クリーンアップふくい大作戦」に協力し、行政・住民が一体となり、真名川憩いの島の環境美化活動に取り組んだ。
- 市民協働による環境美化を推進するため、用水路清掃や草刈り、ごみ拾いなど各地区が実施する社会奉仕活動を支援した。(実施報告のあった地区数 77地区延べ99回実施)
- 不法投棄、野焼きなど環境汚染の早期発見や早期解決を図るため、環境監視員によるパトロールの実施や関係機関と連携した監視体制の強化や啓発活動を行った。また、漏洩事故発生時には、通報連絡フロー図及び役割に関する確認事項に基づき、周辺河川へ油などが流出しないように早急な流出防止等の確認を行った。
- 令和4年度ごみ収集カレンダーに、食品ロス削減のお願いや、紙ごみの分別について掲載し、周知した。また、市民のごみ減量、リサイクル促進など循環型社会づくりに向けて、小学生を対象に出前講座を4回開催、市民団体等を対象にわくわくお届け講座を2回開催し、市民に啓発した。
- 県民せいきょうと包括連携協定を締結し、家庭で余った食品を施設等に寄付する「フードドライブ」を令和4年度は回数を増やし2回開催した。各家庭から寄せられた余剰食品は福祉施設等に寄贈し、有効活用を図ることができた。
- リネットジャパンリサイクル㈱が行う、宅配便によるパソコン無料回収サービスをごみの収集カレンダー等へ掲載し周知を図り、令和3年度より74件多い108件の利用があった。
- ゴミの減量化及び資源循環の促進を図るため、廃棄物減量等推進審議会を開催し、プラスチック資源回収の積極的な取り組み方針を決定した。
- 大野・勝山地区広域行政事務組合ごみの諸課題検討運営委員会ワーキンググループにおいて、プラスチックごみの分別収集について、具体的な運用方法の検討を行い、令和6年4月の開始を決定した。

<水循環>

- 地域における関係者の合意形成を図りつつ、持続可能な地下水の保全と利用を推進するための協議会「大野市水循環推進協議会」を開催し、行政機関および関係団体から取り組み状況の情報共有を図った。
- 令和3年度から40haに拡大した冬期間の水田湛水を令和4年度も実施し、地下水の涵養を図った。
- 水資源の保全と利用の調和を図るための指針作成の基礎資料となる市民アンケート調査を市民1,000人に対象として実施し、438人から有効回答を得た。
- 名水をはじめとする「越前おおのブランド」を活用した商品開発など、市内事業者の「稼ぐ力」の向上を図る事業に対し補助することにより、越前おおのブランドの活用を促進した。
- テレビ番組や雑誌、新聞広告、Web記事等において、本市の豊かな自然環境や水がきれいであることなどをPRし、イメージアップを図った。
- 越前おおの水のがっこうを拠点として、幅広い世代の市民を対象とした水に関する講座等を一般市民向け4回、中学生向け2回、小学生向けに1回開催し、それぞれ94人、16人、22人の参加があった。講座等の開催により、水循環に関わる人材の育成及び健全な水循環の構築に向けた取り組みに関わる市民の裾野の拡大を図った。
- 大野市と香川大学が教育及び研究等の分野で連携協力を行い、地域の発展と人材育成等の推進を図るために「大野市と香川大学との連携協力に関する協定」を締結した。

| | 重要業績 評価指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|-----|--------------------------|---|------------|---------------|-----------|-----------|
| KPI | 1人1日当たりのごみの排出量 | 市民1人1日当たりのごみの排出量 | 950g | 941g | 931g | 929g |
| | 保全目標水位に対する超過日数(過去10年の平均) | 基準観測井(春日公園)における保全目標水位5.5mを超過した日数の過去10年間の平均値 | 45日 | 54日 | 50日 | 36日 |

基本的方向3: 地域活性化と次世代継承の促進

【主な取り組み】

<ひと・地域>

- 幅広い世代の人に公民館へ来てもらえるよう、健康や食、文化、環境、デジタルなど多様な講座を企画・開催し、前年度より2,008人増加し、延べ12,594人の参加があった。
- 市民が各地区の魅力を知ることや、地区を超えた交流を促進するため、公民館リレー講座を実施し、9つの公民館で延べ143人の参加があった。
- 住民主体による地域課題解決に向けた取り組みを公民館が支援し、下庄地区と上庄地区で活動が開始された。既に取り組んでいる大野地区と阪谷地区、和泉地区では、地域の現状を把握するためのアンケートや座談会などの取り組みが行われた。
- 市民に学習機会を提供するため、人材活用事業として、団体や事業所等からの依頼に応じて「生涯学習ガイドブック」の登録指導者を、前年度より24回増加し、延べ173回派遣した。本事業の活用を促すため、広報おおのや生涯学習センター情報(月刊発行)に情報を掲載した。
- 市民に学習機会を提供するため、市民学校、国、県や市の職員を講師として派遣するわく湧くお届け講座を、前年度より16回増加し、延べ83回開催した。
- 住民の世代間交流などを目的とした、結の故郷地域が輝く交付金の集落内交流事業の利用実績はなかった。
- 岐阜県高山市及び美濃市、滋賀県守山市との交流事業として開催した、金森長近公をテーマとした講演会に市内外から120人が参加し、令和6年度の金森長近公生誕500年に向けた自治体連携のきっかけを創出した。
- 岩倉桜まつりイベント(愛知県岩倉市)への市民交流バスの運行や、古河花火大会(茨城県古河市)期間中の姉妹都市首長議長懇談会は、感染症拡大防止の観点から、前年度に引き続き中止となった。
- 幅広い世代の人に公民館へ来てもらえるよう、健康や食、文化、環境、デジタルなど多様な講座を企画・開催し、前年度より2,008人増加し、延べ12,594人の参加があった。

<文化芸術>

- 市民や観光客に文化芸術に触れる機会を提供するため、COCONOアートプレイスで民間事業者のノウハウやアイデアを生かした企画展等(5回)、ワークショップ(13回)、小学生が絵画や音楽に親しめる演奏会(2回)など、さまざまな催しを開催し、年間2,882人の来場があった。
- 市美術展出品者の創作意欲の促進につなげるため、入賞者に贈るトロフィーや盾を賞金、図書カードに変更し、前年度より9点多い241点の出品があった。市総合文化祭は、3年ぶりに芸能部・展示部の全行事を開催し、6,819人の来場があった。
- 市民に優れた公演等を鑑賞できる機会を提供するため、文化公演事業として森山良子によるコンサート、立川志らく・談笑による落語を開催し、あわせて前年度より573人多い1,029人の来場があった。
- 市民主体の活動を積極的に支援するため、各種文化団体が開催する演奏会や教室などに助成を行い、前年度より2団体多い9団体の実績があった。
- アートや文芸、音楽といった文化芸術活動を発表できる機会の創出とまちなかの活性化を図るため、COCONOアートプレイス、民間2店舗の3つの会場を「まちなかステージ」として開放し、10回の催しが行われ、延べ13人が発表した。
- ふるさとを知り、家庭や地域のきずなを深めるため、公民館で歴史講座や食文化継承講座の開催、ジュニアリーダー活動を行った。「結の故郷 小学生ふるさと芸能発表会」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。
- 県指定文化財建造物「南専寺山門」の修理工事について、歴史的建造物の修理として必要な助言や技術指導を行い工事を完成した。また、県とともに修理費用を支援することで、文化財の保存にかかる所有者の負担を軽減させ、後世に守り伝える後押しとした。
- 貴重な文化財を保存継承するため、申請に基づき調査を進め、12年ぶりに、市指定文化財について新たに1件「旧大野城式台前門 喜多山家長屋門」を指定した。
- 地域に伝わる伝統文化を保存継承するため、市内に伝わる伝統文化について、おおの遺産として、大宝寺の「新四国八十八ヶ所お砂踏み法要」と小矢戸地区の「水神さんの参詣」の2件を認証した。
- 多くの人に学び楽しんでいただけるよう、見やすくわかりやすい展示を念頭に、民俗資料館の展示替えを行った。また、リーフレットを一新し、月ごとに変わる民具カードの配布を開始し、入館者数は3,022人となり、前年度より23%増加した。
- 市の歴史・文化を多角的に発信するため博物館の企画展を3回、「博物館講座」を6回、各種団体の講座への学芸員の派遣を21回実施した。

| KPI | 重要業績評価指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|-----|----------|---------|-------------------|---------------|-----------|-----------|
| | | 公民館利用回数 | 市民1人当たりの年間公民館利用回数 | 3.61回 | 3.36回 | 3.22回 |

基本的方向4: 協働、連携の推進

【主な取り組み】

- 住民主体による地域課題解決に向けた取り組みを公民館が支援し、下庄地区と上庄地区で活動が開始された。既に取り組んでいる大野地区と阪谷地区、和泉地区では、地域の現状を把握するためのアンケートや座談会などの取り組みが行われた。
- 豊かで活力に溢れた住みやすい地域づくりを推進するため、結の故郷地域が輝く交付金事業で財政支援し、市内9地区で地区まつりの開催や名所史跡を活用した事業、まちづくり講演会、環境美化活動や地域ぐるみで行う屋根雪おろしなど全48事業が行われた。
- 高校生目線で地域の活性化策や課題解決の提案を促すため、「わたしが未来の市長プロジェクト」において高校生の探究学習を通年で応援した。
- 市と連携協定を締結する関西大学による研究報告会を開催し、市民ら31人が参加した。
- 市民に社会問題に興味を持ってもらうため、関西大学の研究施設「横町スタジオ」で、ごみ問題や光害、空き家問題などをテーマとしたワークショップを全4回開催し、延べ116人が参加した。
- 関西大学の研究員が、上庄小学校で、生ごみをミミズに食べさせて処理する「ミスコンポスト」の授業を行い、この取り組みを題材として児童が作成したプレゼンテーションが、「ふるさと福井CMコンテスト」で優秀賞を受賞した。
- 横町スタジオで福井工業大学と関西大学の学生に空き家の利活用策を提案してもらうワークショップを開催した。
- 大阪府に本社を置く企業から、関西大学連携事業への活用を目的とした企業版ふるさと納税100万円の寄附があった。
- 多様な主体と連携して地域課題解決に取り組むため、保険会社や報道機関、大学などと令和4年度中に6つの連携協定を締結した。
- ホームページや広報おのおの、出前講座などでSDGsについて積極的に情報を発信し、「ふくいSDGsパートナー」に登録する市内団体等が年間を通して17者増えた。(36者→53者)
- 岐阜県高山市及び美濃市、滋賀県守山市との交流事業として開催した、金森長近公をテーマとした講演会に市内外から120人が参加し、令和6年度の金森長近公生誕500年に向けた自治体連携のきっかけを創出した。
- 岩倉桜まつりイベント(愛知県岩倉市)への市民交流バスの運行や、古河花火大会(茨城県古河市)期間中の姉妹都市首長議長懇談会は、感染症拡大防止の観点から、前年度に引き続き中止となった。
- 富山県高岡市主催の「万葉集全20巻朗唱の会」へ、和泉地区の化石などのPRを兼ねた動画を提供した。
- 荒島の郷及び九頭竜紅葉まつりにて、岩倉市からの市民交流バスツアーの受け入れを行った。

| 基本目標 | 数値目標指標 | 内容 | R1 基準数値 | 【参考】 R3実績値 | R4 実績値 | R7 目標値 |
|------|--------|---------------------------|------------|---------------|-----------|-----------|
| | 検討会の開催 | 地域課題解決に向けた住民主体の検討会を開催した地区 | — | 3地区 | 5地区 | 9地区 |

4 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の実施状況

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生タイプ）とは

地域再生法に基づき、地方版総合戦略（第2期大野市総合戦略）に定められた自主的・主体的で先導的な事業を記載して作成した地域再生計画に基づく事業の実施に要する経費に充てるため、国が交付する交付金。（従来の地方創生推進交付金にあたる）

事業1：飛び地自治体連携による成果連動型スポーツ健康まちづくり事業

①実施期間

令和3年度～5年度（3年間）

②連携自治体

大野市、兵庫県西脇市※、岩手県金ケ崎町、京都府南丹市（※が代表市町）

③地方創生として目指す将来像

100歳になっても生涯現役で活躍できるまちとして、地域活動に参加し、スポーツ・健康づくりを楽しみ、地域で役割を持ちながら暮らすことができるまちの実現を目指す。

④令和4年度の主な取り組み（大野市のみ）

- 健康づくりに取り組む人が増えるよう、歩いた活動量に応じてポイントを与える「おおのヘルスウォーキングプログラム」を行い、1,630人が参加した。
- 「健康・食守フェスタ」を開催し、健康チェックや体力測定、食育活動のパネル展示・クイズラリーを実施した。
- 生涯スポーツの推進のため、各種スポーツ教室・大会を実施した。
- エキサイト広場総合体育施設及び学校体育施設に備品（バスケットボールなど）を整備した。

⑤成果指標の達成状況（大野市分）【上段：目標値・下段：実績値】

| KPI(重要業績評価指標) | 令和3年度 (1年目) | 令和4年度 (2年目) | 令和5年度 (3年目) |
|---------------------------------|----------------|----------------|----------------|
| 健康寿命の延伸/医療費・介護給付費の抑制額 (百万円) | 0 3年目に集計 | 0 3年目に集計 | 65 |
| 健幸ポイントプログラムの参加者数(人) | 700 700 | 1,630 1,630 | 2,470 |
| 80～90歳代の健幸ポイントプログラム参加者人数 (人) | 105 59 | 245 142 | 371 |
| 事業を通じた市民の健康投資(万円) | 0 2年目に集計 | 352 330 | 823 |

(実績値の検証)

- 全体参加者は目標値を達成したが、80歳以上の参加者数及び健康投資額の指標は未達成となった。フレイル予防推進の観点から、より多くの高齢者の参加を促すとともに、健康アンバサダー活動の推進等により、ヘルスリテラシーを高めていくことが課題となる。

事業2：大野の未来につながる人づくりプロジェクト

①実施期間

令和4年度～6年度(3年間)

②連携自治体

なし(大野市単独)

③地方創生として目指す将来像

「脱炭素」「デジタル」「結」の3つの観点から「人づくり」を推進し、人の成長や人から人への継承による持続可能な地域づくりを目指す。

④令和4年度の主な取り組み

- 子どもから大人まで地球温暖化対策の重要性を啓発するため、Eco落語、Eco遊園地、Eco紙芝居に加え、親子エネルギー教室、エコドライブ体験会を開催し、延べ853人が参加した。
- 市民のITリテラシーの向上を図るため、公民館などでIT講座やスマートフォン教室を計62回開催し、延べ254人が参加した。
- 地域住民が主体となって地域の危険箇所や避難場所、避難経路などを考えて地図に記載する「地域防災マップ」の作成を働きかけ、2つの自主防災組織に作成経費を補助した。

⑤成果指標の達成状況【上段:目標値・下段:実績値】

| KPI(重要業績評価指標) | 令和4年度 (1年目) | 令和5年度 (2年目) | 令和6年度 (3年目) |
|--------------------------------------|----------------|----------------|----------------|
| COOL CHOICEに賛同登録した人数(人) | 200 330 | 300 | 500 |
| 公民館や生涯学習センターでのデジタル活用支援講座の受講者数(延べ人数) | 30 254 | 60 | 90 |
| 結成した自主防災組織の活動割合(%)【累計】 ※事業開始前:57% | 67 61 | 77 | 87 |

(実績値の検証)

- 結成した自主防災組織の活動割合について、全体の活動数は増加したが、新規の活動が少なく未達成となったため、市総合防災訓練や大雨等で市民の関心が高まっている機会を捉えて、活動実施の呼びかけを強化していく必要がある。

【資料3】外部委員一覧

1 大野市総合計画・総合戦略推進会議委員

| No. | 所属 | 役職 | 氏名 |
|-----|---------------------|-----------|---------|
| 1 | 仁愛大学 | 特任教授 | ◎南保 勝 |
| 2 | 福井工業大学 | 教授 | 竹田 周平 |
| 3 | 大野市議会 | 議員 | 帰山 寿章 |
| 4 | 大野市立保育園保護者連合会 | 書記 | 飯田 圭佑 |
| 5 | 大野市PTA連合会 | 会長 | 稲津 直美 |
| 6 | みらい子育てネット大野 | 事務局 | 川田 香菜子 |
| 7 | 大野市老人クラブ連合会 | 理事 | 林 幹雄 |
| 8 | (社福)大野市社会福祉協議会 | 主任 | 櫻川 みゆき |
| 9 | 大野市スポーツ協会 | 副会長 | 佐々木 智恵美 |
| 10 | 福井県農業協同組合奥越営農経済センター | 課長補佐 | 古川 正人 |
| 11 | 九頭竜森林組合 | 課長 | 保格 浩一 |
| 12 | 大野商工会議所 | 課長補佐 | 嶋田 優子 |
| 13 | (一社)大野市観光協会 | 事務局長 | 木下 正朗 |
| 14 | 連合福井福井地域協議会大野地区連絡会 | 代表委員 | 大谷 久直 |
| 15 | (一社)大野建設業会 | 事務局長 | 山川 正秀 |
| 16 | 大野市消防団 | 副分団長 | 清水 里美 |
| 17 | 大野市文化協会 | 副会長 | ○松田 典子 |
| 18 | 奥越前まんまるサイト | 事務・活動スタッフ | 坂本 道子 |
| 19 | 大野記者クラブ | 幹事社 | 石畝 健 |
| 20 | 大野市区長連合会 | 理事 | 齋藤 雅彦 |
| 21 | 越前信用金庫 | 常勤理事 | 佐々木 成充 |

◎…会長 ○…副会長

2 施策評価アドバイザー

| No. | 所属 | 役職 | 氏名 |
|-----|--------|----|-------|
| 1 | 福井県立大学 | 教授 | 桑原 美香 |